

2018年度 大学院シラバス

PDF閲覧ソフトの検索機能で科目名を検索してください

※担当教員名での検索の場合、全クラス共通シラバスが検索できません

例) キーを押しながら キーを押す

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	中・東欧音楽研究		
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

豊穡な音楽風土をもち、数多くの音楽家を生み出してきた中央ヨーロッパの音楽を多面的に検討し、この地域の音楽文化の複合性が理解できる。

◆授業内容・計画◆

1. 導入ー中央ヨーロッパの音楽文化の基層にあるもの
2. 歴史と民族
3. 歴史と宗教
4. ポーランドー歴史と現代にみる民族性
5. ショパンー器楽作品にみるポーランド性
6. ショパンー声楽作品と民謡、民族舞曲
7. モニューシュコーポーランドの国民歌劇
8. シマノフスキー20世紀ポーランド音楽の基盤
9. チェコー歴史と現代にみる民族性
10. モーツァルトーその晩年とチェコの音楽界
11. スメタナー器楽作品にみるチェコ性
12. スメタナーチェコの国民歌劇
13. ドヴォルザークー器楽作品にみるチェコ性
14. ドヴォルザークー声楽作品にみるチェコ性
15. 総括と補遺

◆準備学習の内容◆

作曲家は有名であってもその地域や歴史という背景については未知の部分が多いと予想されるので、音楽家やその作品と関連づけながら丁寧に検討していくことで、深みのある理解へとつながる。

◆成績評価の方法◆

事前調査とプレゼンテーション、受講者同士によるディスカッションから総合的に評価する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特定のテキストは使用しない

◆参考図書◆

柴 宜弘ほか監修『新版 東欧を知る事典』平凡社(2015)、田村進『ポーランド音楽史 増補改訂』雄山閣(1991)、ステファン・シレジンスキほか編『ポーランド音楽の歴史』音楽之友社(1998)、内藤久子『チェコ音楽の歴史』音楽之友社(2002)、内藤久子『チェコ音楽の魅力』東洋書店(2007)、佐川吉男『チェコの音楽』芸術現代社(2005)、シャーロシ・バーリント『ハンガリーの音楽』音楽之友社(1994)、横井雅子『ハンガリー音楽の魅力』東洋書店(2006)ほか

◆留意事項◆

授業内容は各回で独立しているように見えるが、相互に関わっているため、継続的に出席するのはもちろん、できるだけ多くの音楽に触れることを心がけたい。

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で独立して成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、コンピュータ、インターネットなど——が、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史的あるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

原則として、テーマとなるアーティストや作品、技術等を各回に取り上げ、視聴と解説、ディスカッションを行うが、音楽とメディアに関わる新しい動向があれば随時フォローする。

以下に議論の大まかな骨格を便宜的に示す。実際には履修学生の指向やディスカッションの流れによって、柔軟に発展させてゆく。

- 1) ガイダンス メディアとは何か？
- 2) 音楽メディアとしての身体
- 3) 音楽メディアとしての楽譜
- 4) 音楽メディアとしての楽器
- 5) 音楽メディアとしての録音再生技術
- 6) 音楽メディアとしての空間
- 7) 音楽メディアとしての映像
- 8) 音楽メディアとしての教育
- 9) 音楽メディアとしての環境
- 10) 音楽メディアとしての宗教
- 11) 音楽メディアとしてのゲーム
- 12) 音楽メディアとしてのコンピュータ
- 13) 音楽メディアとしてのインターネット
- 14) メディアとしての音楽
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項のリサーチを各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

◆成績評価の方法◆

レポートの内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定する。

◆参考図書◆

- サウンドとメディアの文化資源学(渡辺裕 著/春秋社)
 サステナブル・ミュージック(若尾裕 著/アルテスパブリッシング)
 音響メディア史(谷口文和ほか 著/ナカニシヤ出版)
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/DU BOOKS)
 細野晴臣 録音術(鈴木惣一朗ほか 著/DU BOOKS)
 サウンド・ビジネス(ジュリアン・トレジャー 著/ヤマハミュージックメディア)
 法のデザイン—創造性とイノベーションは法によって加速する(水野祐 著/フィルムアート社)
 メディア・アート創世記(坂根巖夫 著/フィルムアート社)
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)

◆ 留意事項 ◆

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	近現代作品研究(ストラヴィンスキー)		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年	クラス	03
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ストラヴィンスキーの諸作品をたどりながら、近代から現代への20世紀音楽の様式の変遷を見つめ直すことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

ストラヴィンスキーの諸作品を時代ごとに追いながら、作品様式の変遷と、その時代的背景を考察する。一方、いくつかの作品については、主にその作曲技法の詳細な分析を行う(前期は「春の祭典」を取り上げる)。

- 第1回 [概論]時代区分と作風
- 第2回 [楽曲解説]初期(1)リムスキー＝コルサコフの影響
- 第3回 [楽曲解説]初期(2)3大バレエ
- 第4回 [楽曲解説]初期(3)民族主義的原始主義
- 第5回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(1)第1部ー概説
- 第6回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(2)同(序奏～春の兆し)
- 第7回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(3)同(誘拐～春の輪舞)
- 第8回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(4)同(序奏～春の兆し)
- 第9回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(5)同(敵の部族の遊戯～長老の行進)
- 第10回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(6)同(長老の大地への口づけ～大地の踊り)
- 第11回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(7)第2部ー概説
- 第12回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(8)同(序奏～乙女的神秘的な踊り)
- 第13回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(9)同(選ばれし生贄への賛美～祖先の召還)
- 第14回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(10)同(祖先の儀式～生贄の踊り)
- 第15回 [まとめ]

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作品についての基礎知識をあらかじめ調べておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および期末課題(授業内にて指示)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ストラヴィンスキー:バレエ音楽「春の祭典」スコア
その他の資料については適宜授業内で配付する。

◆参考図書◆

「ストラヴィンスキーー二十世紀音楽の鏡像」船山隆著(音楽之友社)
「ブーレーズ作曲家論選」P. ブーレーズ著、笠羽映子訳(ちくま学芸文庫)

◆留意事項◆

受講者は第5回授業時まで「春の祭典」のスコアを用意すること(オリジナル版、改訂版どちらでも構わない)。

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	中・東欧音楽研究		
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

豊穡な音楽風土をもち、数多くの音楽家を生み出してきた中央ヨーロッパの音楽を多面的に検討し、この地域の音楽文化の複合性が理解できる。

◆授業内容・計画◆

1. ヤナーチェク 器楽作品にみるモラヴィア性
2. ヤナーチェク 声楽作品と歌劇
3. スロヴァキア 歴史と現代にみる音楽風土
4. 中央ヨーロッパの音楽的民間伝承
5. 中央ヨーロッパの伝統芸能
6. ロマー 歴史と民族
7. ロマー 大衆楽師と民俗音楽
8. ハンガリー 歴史と現代にみる民族性
9. リスト 器楽作品とハンガリー
10. リスト ハンガリーにおける音楽活動
11. バルトーク 作曲家、演奏家としての活動
12. バルトーク 研究者としての活動
13. コダーイ 作曲家としての活動
14. コダーイ 研究者、教育家としての活動
15. 総括と補遺

◆準備学習の内容◆

作曲家は有名であってもその地域や歴史という背景については未知の部分が多いと予想されるので、音楽家やその作品と関連づけながら丁寧に検討していくことで、深みのある理解へとつながる。

◆成績評価の方法◆

事前調査とプレゼンテーション、受講者同士によるディスカッションから総合的に評価する。

授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特定のテキストは使用しない

◆参考図書◆

柴 宜弘ほか監修『新版 東欧を知る事典』平凡社(2015)、田村進『ポーランド音楽史 増補改訂』雄山閣(1991)、ステファン・シレジンスキほか編『ポーランド音楽の歴史』音楽之友社(1998)、内藤久子『チェコ音楽の歴史』音楽之友社(2002)、内藤久子『チェコ音楽の魅力』東洋書店(2007)、佐川吉男『チェコの音楽』芸術現代社(2005)、シャーロシ・バーリント『ハンガリーの音楽』音楽之友社(1994)、横井雅子『ハンガリー音楽の魅力』東洋書店(2006)ほか

◆留意事項◆

授業内容は各回で独立しているように見えるが、相互に関わっているため、継続的に出席するのはもちろん、できるだけ多くの音楽に触れることを心がけたい。

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で独立して成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、コンピュータ、インターネットなど——が、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史的あるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

前期の授業を踏まえ、後期は受講者による発表とディスカッションを実施する。またゲスト講師によるレクチャーを予定している。

以下に議論の大まかな骨格を便宜的に示す。実際には履修学生の指向やディスカッションの流れによって、柔軟に発展させてゆく。

- 1) ガイダンス メディアとは何か？
- 2) 音楽メディアとしての身体 学生発表とディスカッション
- 3) 音楽メディアとしての楽譜 学生発表とディスカッション
- 4) 音楽メディアとしての楽器 ゲストレクチャー1
- 5) 音楽メディアとしての録音再生技術 学生発表とディスカッション
- 6) 音楽メディアとしての空間 学生発表とディスカッション
- 7) 音楽メディアとしての映像 学生発表とディスカッション
- 8) 音楽メディアとしての教育 学生発表とディスカッション
- 9) 音楽メディアとしての環境 ゲストレクチャー2
- 10) 音楽メディアとしての宗教 学生発表とディスカッション
- 11) 音楽メディアとしてのゲーム 学生発表とディスカッション
- 12) 音楽メディアとしてのコンピュータ 学生発表とディスカッション
- 13) 音楽メディアとしてのインターネット 学生発表とディスカッション
- 14) メディアとしての音楽 ゲストレクチャー3
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項のリサーチを各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

◆成績評価の方法◆

授業内発表の内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定する。

◆参考図書◆

- サウンドとメディアの文化資源学(渡辺裕 著/春秋社)
 サステナブル・ミュージック(若尾裕 著/アルテスパブリッシング)
 音響メディア史(谷口文和ほか 著/ナカニシヤ出版)
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/DU BOOKS)
 細野晴臣 録音術(鈴木惣一朗ほか 著/DU BOOKS)
 サウンド・ビジネス(ジュリアン・トレジャー 著/ヤマハミュージックメディア)
 法のデザイン—創造性とイノベーションは法によって加速する(水野祐 著/フィルムアート社)
 メディア・アート創世記(坂根巖夫 著/フィルムアート社)
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)

◆ 留意事項 ◆

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	近現代作品研究(ストラヴィンスキー)		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年	クラス	03
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ストラヴィンスキーの諸作品をたどりながら、近代から現代への20世紀音楽の様式の変遷を見つめ直すことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

ストラヴィンスキーの諸作品を時代ごとに追いながら、作品様式の変遷と、その時代的背景を考察する。一方、いくつかの作品については、主にその作曲技法の詳細な分析を行う(後期は詩篇交響曲他を取り上げる)。

- 第1回 [楽曲解説]第1次大戦後(1)大編成から小編成へ
- 第2回 [楽曲解説]第1次大戦後(2)新古典主義
- 第3回 [楽曲解説]第1次大戦後(3)管弦楽編成の模索
- 第4回 [楽曲分析]詩篇交響曲(1)第1楽章
- 第5回 [楽曲分析]詩篇交響曲(2)第2楽章
- 第6回 [楽曲分析]詩篇交響曲(3)第3楽章
- 第7回 [楽曲解説]アメリカ時代(1)夥しい改訂
- 第8回 [楽曲分析]「火の鳥」(1)1911年版と1945年版の比較
- 第9回 [楽曲分析]「火の鳥」(2)1919年版と1945年版の比較
- 第10回 [楽曲解説]アメリカ時代(2)ジャズへの傾倒
- 第11回 [楽曲解説]アメリカ時代(3)音列技法、12音技法
- 第12回 [楽曲分析]バレエ「アゴン」
- 第13回 [楽曲分析]変奏曲—オールダス・ハースレー追悼
- 第14回 [総論]20世紀音楽におけるストラヴィンスキー
- 第15回 [まとめ]

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作品についての基礎知識をあらかじめ調べておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および期末課題(授業内にて指示)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

- 「ストラヴィンスキー—二十世紀音楽の鏡像」船山隆著(音楽之友社)
- 「ブーレーズ作曲家論選」P. ブーレーズ著、笠羽映子訳(ちくま学芸文庫)

◆留意事項◆

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	中・東欧音楽研究		
担当教員	横井 雅子		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

豊穡な音楽風土をもち、数多くの音楽家を生み出してきた中央ヨーロッパの音楽を多面的に検討し、この地域の音楽文化の複合性が理解できる。

◆授業内容・計画◆

1. 導入ー中央ヨーロッパの音楽文化の基層にあるもの
2. 歴史と民族
3. 歴史と宗教
4. ポーランドー歴史と現代にみる民族性
5. ショパンー器楽作品にみるポーランド性
6. ショパンー声楽作品と民謡、民族舞曲
7. モニューシユコーポーランドの国民歌劇
8. シマノフスキー20世紀ポーランド音楽の基盤
9. チェコー歴史と現代にみる民族性
10. モーツァルトーその晩年とチェコの音楽界
11. スメタナー器楽作品にみるチェコ性
12. スメタナーチェコの国民歌劇
13. ドヴォルザークー器楽作品にみるチェコ性
14. ドヴォルザークー声楽作品にみるチェコ性
15. 総括と補遺

◆準備学習の内容◆

作曲家は有名であってもその地域や歴史という背景については未知の部分が多いと予想されるので、音楽家やその作品と関連づけながら丁寧に検討していくことで、深みのある理解へとつながる。

◆成績評価の方法◆

事前調査とプレゼンテーション、受講者同士によるディスカッションから総合的に評価する。

授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特定のテキストは使用しない

◆参考図書◆

柴 宜弘ほか監修『新版 東欧を知る事典』平凡社(2015)、田村進『ポーランド音楽史 増補改訂』雄山閣(1991)、ステファン・シレジンスキほか編『ポーランド音楽の歴史』音楽之友社(1998)、内藤久子『チェコ音楽の歴史』音楽之友社(2002)、内藤久子『チェコ音楽の魅力』東洋書店(2007)、佐川吉男『チェコの音楽』芸術現代社(2005)、シャーロシ・バーリント『ハンガリーの音楽』音楽之友社(1994)、横井雅子『ハンガリー音楽の魅力』東洋書店(2006)ほか

◆留意事項◆

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	2年	クラス	02
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で独立して成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、コンピュータ、インターネットなど——が、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史的あるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

原則として、テーマとなるアーティストや作品、技術等を各回に取り上げ、視聴と解説、ディスカッションを行うが、音楽とメディアに関わる新しい動向があれば随時フォローする。

以下に議論の大まかな骨格を便宜的に示す。実際には履修学生の指向やディスカッションの流れによって、柔軟に発展させてゆく。

- 1) ガイダンス メディアとは何か？
- 2) 音楽メディアとしての身体
- 3) 音楽メディアとしての楽譜
- 4) 音楽メディアとしての楽器
- 5) 音楽メディアとしての録音再生技術
- 6) 音楽メディアとしての空間
- 7) 音楽メディアとしての映像
- 8) 音楽メディアとしての教育
- 9) 音楽メディアとしての環境
- 10) 音楽メディアとしての宗教
- 11) 音楽メディアとしてのゲーム
- 12) 音楽メディアとしてのコンピュータ
- 13) 音楽メディアとしてのインターネット
- 14) メディアとしての音楽
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項のリサーチを各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

◆成績評価の方法◆

レポートの内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定する。

◆参考図書◆

- サウンドとメディアの文化資源学(渡辺裕 著/春秋社)
 サステナブル・ミュージック(若尾裕 著/アルテスパブリッシング)
 音響メディア史(谷口文和ほか 著/ナカニシヤ出版)
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/DU BOOKS)
 細野晴臣 録音術(鈴木惣一朗ほか 著/DU BOOKS)
 サウンド・ビジネス(ジュリアン・トレジャー 著/ヤマハミュージックメディア)
 法のデザイン—創造性とイノベーションは法によって加速する(水野祐 著/フィルムアート社)
 メディア・アート創世記(坂根巖夫 著/フィルムアート社)
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)

◆ 留意事項 ◆

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	近現代作品研究(ストラヴィンスキー)		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	2年	クラス	03
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ストラヴィンスキーの諸作品をたどりながら、近代から現代への20世紀音楽の様式の変遷を見つめ直すことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

ストラヴィンスキーの諸作品を時代ごとに追いながら、作品様式の変遷と、その時代的背景を考察する。一方、いくつかの作品については、主にその作曲技法の詳細な分析を行う(前期は「春の祭典」を取り上げる)。

- 第1回 [概論]時代区分と作風
- 第2回 [楽曲解説]初期(1)リムスキー＝コルサコフの影響
- 第3回 [楽曲解説]初期(2)3大バレエ
- 第4回 [楽曲解説]初期(3)民族主義的原始主義
- 第5回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(1)第1部ー概説
- 第6回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(2)同(序奏～春の兆し)
- 第7回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(3)同(誘拐～春の輪舞)
- 第8回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(4)同(序奏～春の兆し)
- 第9回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(5)同(敵の部族の遊戯～長老の行進)
- 第10回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(6)同(長老の大地への口づけ～大地の踊り)
- 第11回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(7)第2部ー概説
- 第12回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(8)同(序奏～乙女的神秘的な踊り)
- 第13回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(9)同(選ばれし生贄への賛美～祖先の召還)
- 第14回 [楽曲分析]バレエ音楽「春の祭典」(10)同(祖先の儀式～生贄の踊り)
- 第15回 [まとめ]

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作品についての基礎知識をあらかじめ調べておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および期末課題(授業内にて指示)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ストラヴィンスキー:バレエ音楽「春の祭典」スコア
その他の資料については適宜授業内で配付する。

◆参考図書◆

「ストラヴィンスキーー二十世紀音楽の鏡像」船山隆著(音楽之友社)
「ブーレーズ作曲家論選」P. ブーレーズ著、笠羽映子訳(ちくま学芸文庫)

◆留意事項◆

受講者は第5回授業時まで「春の祭典」のスコアを用意すること(オリジナル版、改訂版どちらでも構わない)。

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	中・東欧音楽研究		
担当教員	横井 雅子		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

豊穡な音楽風土をもち、数多くの音楽家を生み出してきた中央ヨーロッパの音楽を多面的に検討し、この地域の音楽文化の複合性が理解できる。

◆授業内容・計画◆

1. ヤナーチェク 器楽作品にみるモラヴィア性
2. ヤナーチェク 声楽作品と歌劇
3. スロヴァキア 歴史と現代にみる音楽風土
4. 中央ヨーロッパの音楽的民間伝承
5. 中央ヨーロッパの伝統芸能
6. ロマー 歴史と民族
7. ロマー 大衆楽師と民俗音楽
8. ハンガリー 歴史と現代にみる民族性
9. リスト 器楽作品とハンガリー
10. リスト ハンガリーにおける音楽活動
11. バルトーク 作曲家、演奏家としての活動
12. バルトーク 研究者としての活動
13. コダーイ 作曲家としての活動
14. コダーイ 研究者、教育家としての活動
15. 総括と補遺

◆準備学習の内容◆

作曲家は有名であってもその地域や歴史という背景については未知の部分が多いと予想されるので、音楽家やその作品と関連づけながら丁寧に検討していくことで、深みのある理解へとつながる。

◆成績評価の方法◆

事前調査とプレゼンテーション、受講者同士によるディスカッションから総合的に評価する。

授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特定のテキストは使用しない

◆参考図書◆

柴 宜弘ほか監修『新版 東欧を知る事典』平凡社(2015)、田村進『ポーランド音楽史 増補改訂』雄山閣(1991)、ステファン・シレジンスキほか編『ポーランド音楽の歴史』音楽之友社(1998)、内藤久子『チェコ音楽の歴史』音楽之友社(2002)、内藤久子『チェコ音楽の魅力』東洋書店(2007)、佐川吉男『チェコの音楽』芸術現代社(2005)、シャーロシ・バーリント『ハンガリーの音楽』音楽之友社(1994)、横井雅子『ハンガリー音楽の魅力』東洋書店(2006)ほか

◆留意事項◆

授業内容は各回で独立しているように見えるが、相互に関わっているので、継続的に出席するのはもちろん、できるだけ多くの音楽に触れることを心がけたい。

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習B II		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	2年	クラス	02
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で独立して成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、コンピュータ、インターネットなど——が、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史のあるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

前期の授業を踏まえ、後期は受講者による発表とディスカッションを実施する。またゲスト講師によるレクチャーを予定している。

以下に議論の大まかな骨格を便宜的に示す。実際には履修学生の指向やディスカッションの流れによって、柔軟に発展させてゆく。

- 1) ガイダンス メディアとは何か？
- 2) 音楽メディアとしての身体 学生発表とディスカッション
- 3) 音楽メディアとしての楽譜 学生発表とディスカッション
- 4) 音楽メディアとしての楽器 ゲストレクチャー1
- 5) 音楽メディアとしての録音再生技術 学生発表とディスカッション
- 6) 音楽メディアとしての空間 学生発表とディスカッション
- 7) 音楽メディアとしての映像 学生発表とディスカッション
- 8) 音楽メディアとしての教育 学生発表とディスカッション
- 9) 音楽メディアとしての環境 ゲストレクチャー2
- 10) 音楽メディアとしての宗教 学生発表とディスカッション
- 11) 音楽メディアとしてのゲーム 学生発表とディスカッション
- 12) 音楽メディアとしてのコンピュータ 学生発表とディスカッション
- 13) 音楽メディアとしてのインターネット 学生発表とディスカッション
- 14) メディアとしての音楽 ゲストレクチャー3
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項のリサーチを各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

◆成績評価の方法◆

授業内発表の内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定する。

◆参考図書◆

- サウンドとメディアの文化資源学(渡辺裕 著/春秋社)
 サステナブル・ミュージック(若尾裕 著/アルテスパブリッシング)
 音響メディア史(谷口文和ほか 著/ナカニシヤ出版)
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/DU BOOKS)
 細野晴臣 録音術(鈴木惣一朗ほか 著/DU BOOKS)
 サウンド・ビジネス(ジュリアン・トレジャー 著/ヤマハミュージックメディア)
 法のデザイン—創造性とイノベーションは法によって加速する(水野祐 著/フィルムアート社)
 メディア・アート創世記(坂根巖夫 著/フィルムアート社)
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)

◆ 留意事項 ◆

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	近現代作品研究(ストラヴィンスキー)		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	2年	クラス	03
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ストラヴィンスキーの諸作品をたどりながら、近代から現代への20世紀音楽の様式の変遷を見つめ直すことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

ストラヴィンスキーの諸作品を時代ごとに追いながら、作品様式の変遷と、その時代的背景を考察する。一方、いくつかの作品については、主にその作曲技法の詳細な分析を行う(後期は詩篇交響曲他を取り上げる)。

- 第1回 [楽曲解説]第1次大戦後(1)大編成から小編成へ
- 第2回 [楽曲解説]第1次大戦後(2)新古典主義
- 第3回 [楽曲解説]第1次大戦後(3)管弦楽編成の模索
- 第4回 [楽曲分析]詩篇交響曲(1)第1楽章
- 第5回 [楽曲分析]詩篇交響曲(2)第2楽章
- 第6回 [楽曲分析]詩篇交響曲(3)第3楽章
- 第7回 [楽曲解説]アメリカ時代(1)夥しい改訂
- 第8回 [楽曲分析]「火の鳥」(1)1911年版と1945年版の比較
- 第9回 [楽曲分析]「火の鳥」(2)1919年版と1945年版の比較
- 第10回 [楽曲解説]アメリカ時代(2)ジャズへの傾倒
- 第11回 [楽曲解説]アメリカ時代(3)音列技法、12音技法
- 第12回 [楽曲分析]バレエ「アゴン」
- 第13回 [楽曲分析]変奏曲—オールダス・ハースレー追悼
- 第14回 [総論]20世紀音楽におけるストラヴィンスキー
- 第15回 [まとめ]

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作品についての基礎知識をあらかじめ調べておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および期末課題(授業内にて指示)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

- 「ストラヴィンスキー—二十世紀音楽の鏡像」船山隆著(音楽之友社)
- 「ブーレーズ作曲家論選」P. ブーレーズ著、笠羽映子訳(ちくま学芸文庫)

◆留意事項◆

ナンバリング	MGL701U		
科目名	エディション研究A		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

・出版楽譜をめぐる諸問題についてその実態が理解できる。・作曲から楽譜出版までのプロセスについて理解できる。・自分の専門領域の楽曲についてエディションの状況やその問題を把握し、自分で調査して適切に対処することができる。・エディションと不可分の関係にある演奏習慣の問題について理解し、自分の解釈を組み立てることができる。

◆授業内容・計画◆

西洋伝統音楽を演奏したり研究したりする上で基本的な手がかりとなるエディション(出版楽譜)の諸問題について学び、さまざまな作曲家や作品の事例を通して、受講生が自分で個別の問題に対応できるようなスキルと判断力を養います。

参加者の専攻や人数によって実際の進行は変わりますが、おおむね最初は共通の素材を用いてエディション問題の一般的理解を深め、その後は各人が個別の作品を選んで研究発表を行います。

授業はほぼ以下のように進められます。

- 第1回 エディション問題概説
- 第2回 手稿譜(着想から自筆譜まで)
- 第3回 楽譜印刷のプロセス
- 第4回 印刷譜の種類
- 第5回 原典版と実用版
- 第6回 バッハ、モーツァルト
- 第7回 ベートーヴェン、シューベルト
- 第8回 ショパン、シューマン
- 第9回 ブラームス、ムソルグスキー
- 第10回 ドビュッシー、ラヴェル
- 第11回 学生の個別研究発表:グループ1
- 第12回 学生の個別研究発表:グループ2
- 第13回 学生の個別研究発表:グループ3
- 第14回 学生の個別研究発表:グループ4
- 第15回まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回の授業で扱う内容や楽曲について事前に楽譜や文献を調査し、理解を深めておいてください。
- ・個別研究発表の担当者は当日までに発表に必要な配布資料やプレゼンテーションを作成しておいてください。

◆成績評価の方法◆

各自の研究発表を授業内で講評するとともに、授業への貢献度を加味して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし(適宜プリント配布)

◆参考図書◆

吉成順『知って得するエディション講座』(音楽之友社)など

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL702U		
科目名	エディション研究B		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

エディション(出版楽譜)に関するさまざまな問題を理解し、自分の専門領域でのエディション選択において、適切な調査と判断が行えるようになる。また、エディションと不可分の関係にある演奏習慣の問題について理解し、自分の解釈を確立できるようになる。

◆授業内容・計画◆

「授業目標」にある通り、受講生の一人ひとりが、自分の専門分野での問題を認識し、それに対処する方法を学ぶことが重要となる。したがって、授業内容は、受講生の専門分野(楽器など)や関心の対象(時代、作曲家、ジャンルなど)、前提となっている知識(エディション研究Aを履修しているかなど)といったことに必然的に大きく左右される。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入(1): エディションをめぐる問題とは?
- 第2回 導入(2): 受講者の問題意識を明確にする。発表の分担を決める。
- 第3回 文献講読(1): 基本的な問題を把握するため、共通の文献を講読する。
- 第4回 文献講読(2): 基本的な問題を把握するため、共通の文献を講読する。
- 第5回 エディションに関する発表(1)学生Aによる発表
- 第6回 エディションに関する発表(2)学生Bによる発表
- 第7回 エディションに関する発表(3)学生Cによる発表
- 第8回 エディションに関する発表(4)学生Dによる発表
- 第9回 まとめ
- 第10回 導入(3): 演奏習慣と演奏解釈に関する問題。発表の分担を決める。
- 第11回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(1)学生Eによる発表
- 第12回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(2)学生Fによる発表
- 第13回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(3)学生Gによる発表
- 第14回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(4)学生Hによる発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・各回で考察の対象となる楽曲については、事前に複数のエディションを検討しておくこと。
- ・講読に際しては、精読をした上で臨むこと。
- ・授業内発表にあたっては、適切な資料を整え、十分な準備をして臨むこと。

◆成績評価の方法◆

- ・授業内での発表の内容、文献への理解(準備学習の状況)、議論への積極的な参加などを加味する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

- W.エマリ『バッハの装飾音』(アカデミアミュージック)
 - W.エマリ『エディションと音楽家』(アカデミアミュージック)
 - 吉成順『知って得するエディション講座』(音楽之友社)
 - アントニー・バートン編『バロック音楽』(音楽之友社)
 - アントニー・バートン編『古典派の音楽』(音楽之友社)
 - アントニー・バートン編『ロマン派の音楽』(音楽之友社[近刊予定])
 - Anthony Burton ed. A performer's guide to the music of the Baroque period. (ABRSM)
 - Anthony Burton ed. A performer's guide to the music of the classical period. (ABRSM)
 - Anthony Burton ed. A performer's guide to the music of the romantic period. (ABRSM)
 - その他、適宜指示する。
- なお、バートン編の文献については、原書にのみ音源が添付されている。

◆留意事項◆

自分の専門領域に深く関わることを意識して、意欲的な態度で臨んで欲しい。

ナンバリング	MGS705N		
科目名	プロジェクトA I		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-113	開講学期	前期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる口

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度のテーマは「歴史の中のアメリカ音楽」。20世紀アメリカ音楽がいかに「アメリカらしさ」を自覚し追求していくか、という問題意識を核としながら、さまざまな角度からアメリカ音楽文化を歴史の中に位置づけていきます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフ(池原舞、栗山和樹、谷口昭弘、早坂牧子、吉成順)が交代で担当します。A(前期)B(後期)それぞれの最終回は演奏会を行う予定です。

AB合わせた14回の内容は下記の通りですが、具体的に示したものの以外の順序(日程)はまだ決まっていません。

- ・導入 (A第1回、吉成)
- ・G.アンタイル《ジャズ・シンフォニー》の改訂の問題 (池原)
- ・ストラヴィンスキーのアメリカ時代 (池原)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(1) (栗山)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(2) (栗山)
- ・A.コーブランドの音楽 (谷口)
- ・アメリカのロマン派と印象派 (谷口)
- ・音楽のアメリカニズム (谷口)
- ・20世紀アメリカのオルガン文化:教会から映画館へ (早坂)
- ・ミュージカル《ショー・ボート》にみるアメリカ (早坂)
- ・冗談音楽の音楽史 (吉成)
- ・ニューヨーク・フィルに見るアメリカ音楽のヒット・チャート (吉成)
- ・第1回学内演奏会(A第7回)
- ・第2回学内演奏会(B第7回)

具体的なテーマは変更の可能性があります。最終的な日程とテーマについては、音楽研究所のウェブサイト <https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenkyujo/home> でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと。

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布したり質疑応答を行って、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし口

◆参考図書◆

特になし口

◆留意事項◆

特になし□

ナンバリング	MGS706N		
科目名	プロジェクトAⅡ		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-113	開講学期	後期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる口

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度のテーマは「歴史の中のアメリカ音楽」。20世紀アメリカ音楽がいかに「アメリカらしさ」を自覚し追求していくか、という問題意識を核としながら、さまざまな角度からアメリカ音楽文化を歴史の中に位置づけていきます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフ(池原舞、栗山和樹、谷口昭弘、早坂牧子、吉成順)が交代で担当します。A(前期)B(後期)それぞれの最終回は演奏会を行う予定です。

AB合わせた14回の内容は下記の通りですが、具体的に示したものの以外の順序(日程)はまだ決まっていません。

- ・導入 (A第1回、吉成)
- ・G.アンタイル《ジャズ・シンフォニー》の改訂の問題 (池原)
- ・ストラヴィンスキーのアメリカ時代 (池原)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(1) (栗山)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(2) (栗山)
- ・A.コーブランドの音楽 (谷口)
- ・アメリカのロマン派と印象派 (谷口)
- ・音楽のアメリカニズム (谷口)
- ・20世紀アメリカのオルガン文化:教会から映画館へ (早坂)
- ・ミュージカル《ショー・ボート》にみるアメリカ (早坂)
- ・冗談音楽の音楽史 (吉成)
- ・ニューヨーク・フィルに見るアメリカ音楽のヒット・チャート (吉成)
- ・第1回学内演奏会(A第7回)
- ・第2回学内演奏会(B第7回)

具体的なテーマは変更の可能性があります。最終的な日程とテーマについては、音楽研究所のウェブサイト <https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenyujo/home> でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと。

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布したり質疑応答を行って、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし口

◆参考図書◆

特になし口

◆留意事項◆

特になし□

ナンバリング	MGS707N		
科目名	プロジェクトB I		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	2年	クラス	O1
講義室	6-113	開講学期	前期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる口

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度のテーマは「歴史の中のアメリカ音楽」。20世紀アメリカ音楽がいかに「アメリカらしさ」を自覚し追求していくか、という問題意識を核としながら、さまざまな角度からアメリカ音楽文化を歴史の中に位置づけていきます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフ(池原舞、栗山和樹、谷口昭弘、早坂牧子、吉成順)が交代で担当します。A(前期)B(後期)それぞれの最終回は演奏会を行う予定です。

AB合わせた14回の内容は下記の通りですが、具体的に示したものの以外の順序(日程)はまだ決まっていません。

- ・導入 (A第1回、吉成)
- ・G.アンタイル《ジャズ・シンフォニー》の改訂の問題 (池原)
- ・ストラヴィンスキーのアメリカ時代 (池原)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(1) (栗山)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(2) (栗山)
- ・A.コーブランドの音楽 (谷口)
- ・アメリカのロマン派と印象派 (谷口)
- ・音楽のアメリカニズム (谷口)
- ・20世紀アメリカのオルガン文化:教会から映画館へ (早坂)
- ・ミュージカル《ショー・ボート》にみるアメリカ (早坂)
- ・冗談音楽の音楽史 (吉成)
- ・ニューヨーク・フィルに見るアメリカ音楽のヒット・チャート (吉成)
- ・第1回学内演奏会(A第7回)
- ・第2回学内演奏会(B第7回)

具体的なテーマは変更の可能性があります。
最終的な日程とテーマについては、音楽研究所のウェブサイト
<https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenyujo/home>
でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布したり質疑応答を行って、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし口

◆参考図書◆

特になし口

◆留意事項◆

特になし□

ナンバリング	MGS708N		
科目名	プロジェクトBⅡ		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	2年	クラス	01
講義室	6-113	開講学期	後期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる口

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度のテーマは「歴史の中のアメリカ音楽」。20世紀アメリカ音楽がいかに「アメリカらしさ」を自覚し追求していくか、という問題意識を核としながら、さまざまな角度からアメリカ音楽文化を歴史の中に位置づけていきます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフ(池原舞、栗山和樹、谷口昭弘、早坂牧子、吉成順)が交代で担当します。A(前期)B(後期)それぞれの最終回は演奏会を行う予定です。

AB合わせた14回の内容は下記の通りですが、具体的に示したものの以外の順序(日程)はまだ決まっていません。

- ・導入 (A第1回、吉成)
- ・G.アンタイル《ジャズ・シンフォニー》の改訂の問題 (池原)
- ・ストラヴィンスキーのアメリカ時代 (池原)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(1) (栗山)
- ・アメリカ映画音楽の歴史(2) (栗山)
- ・A.コーブランドの音楽 (谷口)
- ・アメリカのロマン派と印象派 (谷口)
- ・音楽のアメリカニズム (谷口)
- ・20世紀アメリカのオルガン文化:教会から映画館へ (早坂)
- ・ミュージカル《ショー・ボート》にみるアメリカ (早坂)
- ・冗談音楽の音楽史 (吉成)
- ・ニューヨーク・フィルに見るアメリカ音楽のヒット・チャート (吉成)
- ・第1回学内演奏会(A第7回)
- ・第2回学内演奏会(B第7回)

具体的なテーマは変更の可能性があります。
最終的な日程とテーマについては、音楽研究所のウェブサイト
<https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenyujo/home>
でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと。

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布したり質疑応答を行って、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし口

◆参考図書◆

特になし口

◆留意事項◆

特になし□

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	オペラ		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-304~305	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

専門領域に即した研究課題を決定し、研究計画を練り、中間報告を提出する。

◆授業内容・計画◆

各人が的確な研究課題を見だし、翌年度の秋に提出することになる研究報告(ないし修士論文)の執筆に向けた足場を作っていく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:研究報告とはなにか、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 資料の調べ方について
- 第7回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第8回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第9回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第10回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第11回 論文執筆の要点:註や文献表について
- 第12回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第13回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第14回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第15回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表

◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・学期末レポート(コメントを付けて返却)
 - 内容:12,000字以上の中間報告。表題、目次、参考文献表を付けること(ただし、これらは字数に含めない)。
 - 提出期限:2019年1月14日(月)17:00まで。
 - 提出先:音楽学研究室(5-203室)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

- * 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- * 進学希望がある者は早めに相談すること。
- * 沼口担当の「研究法 I」では、学期末レポートの提出が単位取得要件となるので十分に注意すること。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	歌曲		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-304~305	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

専門領域に即した研究課題を決定し、研究計画を練り、中間報告を提出する。

◆授業内容・計画◆

各人が的確な研究課題を見だし、翌年度の秋に提出することになる研究報告(ないし修士論文)の執筆に向けた足場を作っていく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:研究報告とはなにか、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 資料の調べ方について
- 第7回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第8回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第9回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第10回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第11回 論文執筆の要点:註や文献表について
- 第12回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第13回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第14回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第15回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表

◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・学期末レポート(コメントを付けて返却)
内容:12,000字以上の中間報告。表題、目次、参考文献表を付けること(ただし、これらは字数に含めない)。
提出期限:2019年1月14日(月)17:00まで。
提出先:音楽学研究室(5-203室)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

- * 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- * 進学の希望がある者は早めに相談すること。
- * 沼口担当の「研究法 I」では、学期末レポートの提出が単位取得要件となるので十分に注意すること。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	鍵盤楽器		
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	03
講義室	2-33	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

1.音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる; 2. 2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう; 3.「研究報告」の概要を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1) 学生グループA第1回
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2) 学生グループB第1回
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3) 学生グループC第1回
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4) 学生グループA第2回
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5) 学生グループB第2回
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6) 学生グループC第2回
10. 「研究報告」作成の方法(1)プラン
11. 「研究報告」作成の方法(2)執筆
12. 「研究報告」の概要の発表(1)学生グループA
13. 「研究報告」の概要の発表(2)学生グループB
14. 「研究報告」の概要の発表(3)学生グループC
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要と講評

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	伴奏		
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O4
講義室	2-33	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

1.音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる; 2.2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう; 3.「研究報告」の概要を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1) 学生グループA第1回
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2) 学生グループB第1回
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3) 学生グループC第1回
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4) 学生グループA第2回
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5) 学生グループB第2回
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6) 学生グループC第2回
10. 「研究報告」作成の方法(1)プラン
11. 「研究報告」作成の方法(2)執筆
12. 「研究報告」の概要の発表(1)学生グループA
13. 「研究報告」の概要の発表(2)学生グループB
14. 「研究報告」の概要の発表(3)学生グループC
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要と講評

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	弦管打楽器		
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	05
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)次年度の課題研究作成に向けて、基礎的な調査や研究ができる。(2)適切な研究テーマを設定できる。(3)論旨の明快な文章が書ける。

◆授業内容・計画◆

課題研究作成の意義と方法論を実践的に学びます。

授業は演習形式で行い、提示された課題の結果を各自が発表する形で進められます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 過去の研究報告を批評する
- 第3回 文献調査法
- 第4回 発想法
- 第5回 明快な文章
- 第6回 レファレンス・ツール
- 第7回 音楽事典の比較(1):ニューグローヴ音楽大事典
- 第8回 音楽事典の比較(2):MGG、平凡社など
- 第9回 文献表作成(1):日本語文献
- 第10回 文献表作成(2):外国語文献
- 第11回 主要文献の解題
- 第12回 主要文献の批評
- 第13回 テーマの絞り込み
- 第14回 来年度までの研究計画
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

与えられた課題に対してきちんと準備し、結果は配布資料としてまとめておいてください。

◆成績評価の方法◆

個別発表の内容を授業内で講評するとともに、授業への貢献度を加味して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適宜指示します

◆留意事項◆

パソコン(Wordなど文書作成ソフト)は必須ではありませんが、なるべく習熟しておいた方が便利です。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	作品創作		
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	08
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

研究の基本的な方法を身につけ、自らの課題を絞り込む

◆授業内容・計画◆

以下は予定。進行状況により、順番と回数を変更することもある。

- 第1回： 研究課題に見つけ方、基本的な文献の探し方について
- 第2回： 先行研究に関する調査・読解と発表(1)国内外の文献へのアプローチ
- 第3回： 先行研究に関する調査・読解と発表(2)調査の方法
- 第4回： 先行研究に関する調査・読解と発表(3)調査結果のまとめ
- 第5回： 先行研究に関する調査・読解と発表(4)文献の読み解き方
- 第6回： 先行研究に関する調査・読解と発表(5)文献の引用の仕方
- 第7回： 研究状況の発表
- 第8回： 個人ごとに研究発表(1)研究対象を明確にする
- 第9回： 個人ごとに研究発表(2)研究方法を考える
- 第10回： 個人ごとに研究発表(3)研究方法を洗練する
- 第11回： 個人ごとに研究発表(4)調査結果を分析する
- 第12回： 個人ごとに研究発表(5)楽曲等を分析する
- 第13回： 個人ごとに研究発表(6)分析から結果を導き出す
- 第14回： レポート作成に向けたまとめ
- 第15回： 授業のまとめ

◆準備学習の内容◆

自らの研究課題にそって、先行研究論文を読解し、楽曲の分析等を行う

◆成績評価の方法◆

授業内の発表と講評、レポートを総合して評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	オペラ		
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-33	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

秋の研究報告(ないし修士論文)の提出に向けて着実に準備を進める。

◆授業内容・計画◆

「研究法Ⅰ」の流れを引き継ぎ、着実に執筆を進めてゆく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:これまでの自分の研究状況の確認、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第7回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第8回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第9回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第10回 問題点の整理
- 第11回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第12回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第13回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第14回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表
- 第15回 夏休みの間の研究について

◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

- * 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- * 進学の希望がある者は早めに相談すること。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	歌曲		
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	02
講義室	2-33	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

秋の研究報告(ないし修士論文)の提出に向けて着実に準備を進める。

◆授業内容・計画◆

「研究法Ⅰ」の流れを引き継ぎ、着実に執筆を進めてゆく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:これまでの自分の研究状況の確認、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第7回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第8回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第9回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第10回 問題点の整理
- 第11回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第12回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第13回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第14回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表
- 第15回 夏休みの間の研究について

◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

- * 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- * 進学の希望がある者は早めに相談すること。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	鍵盤楽器		
担当教員	友利 修		
学年	2年	クラス	03
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

研究法Iの学習成果に基き、9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス - 「研究報告」の書き方
2. 「研究報告」の書き方 - 書式の確認と実習
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)学生グループA第1回
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)学生グループB第1回
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)学生グループC第1回
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)学生グループA第2回
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)学生グループB第2回
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)学生グループC第2回
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)学生グループA第3回
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)学生グループB第3回
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)学生グループC第3回
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)学生グループA第4回
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)学生グループB第4回
14. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)学生グループC第4回
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

研究法IIで学習した方法論を生かしながら、手続きを踏み、書式を遵守しながら毎回の研究報告の作成を着実に進める。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告作成の進め方について随時講評し、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	伴奏		
担当教員	友利 修		
学年	2年	クラス	O4
講義室	2-21	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

研究法Iの学習成果に基き、9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス - 「研究報告」の書き方
2. 「研究報告」の書き方 - 書式の確認と実習
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)学生グループA第1回
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)学生グループB第1回
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)学生グループC第1回
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)学生グループA第2回
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)学生グループB第2回
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)学生グループC第2回
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)学生グループA第3回
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)学生グループB第3回
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)学生グループC第3回
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)学生グループA第4回
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)学生グループB第4回
14. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)学生グループC第4回
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

研究法IIで学習した方法論を生かしながら、手続きを踏み、書式を遵守しながら研究報告の作成を着実に進める。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告作成の進め方。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	弦管打楽器		
担当教員	吉成 順		
学年	2年	クラス	05
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)課題研究のテーマを適切に設定できる。(2)必要な調査をもとに研究報告を完成できる。

◆授業内容・計画◆

前半は各自が進めている研究の状況報告、後半は研究報告の執筆と添削が中心となります。

- 第1回 3月までの経過報告
- 第2回 テーマの絞り込みと文献調査
- 第3回 テーマの絞り込みと検討
- 第4回 テーマ決定
- 第5回 研究と経過報告:グループ1
- 第6回 研究と経過報告:グループ2
- 第7回 研究と経過報告:グループ3
- 第8回 研究のまとめ
- 第9回 研究報告の構成
- 第10回 研究報告執筆(1):アウトライン
- 第11回 研究報告執筆(2):目的と先行研究
- 第12回 研究報告執筆(3):研究の具体的内容
- 第13回 研究報告執筆(4):結論
- 第14回 文献表作成
- 第15回 研究報告の完成

◆準備学習の内容◆

目標を設定して研究を進め、進捗状況をレポートとしてまとめておいてください。

◆成績評価の方法◆

個別発表の内容を授業内で講評するとともに授業への貢献度を加味して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

パソコン(Wordなど文書作成ソフト)は必須ではありませんが、なるべく習熟しておいた方が便利です。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	音楽理論・ソルフェージュ		
担当教員	久保田 慶一		
学年	2年	クラス	O6
講義室	5-215(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

課題研究の執筆

◆授業内容・計画◆

1. 研究テーマについて、日本語先行論文を読んで、研究内容を発表する。
2. 研究テーマについて、英語先行論文を読んで、研究内容を発表する。
3. 研究テーマについて、独・仏語先行論文を読んで、研究内容を発表する。
4. 課題研究全体の構成を発表する。(学生A～C)
5. 課題研究全体の構成を発表する。(学生D～F)
6. 課題研究全体の構成を発表する。(学生G～I)
7. 課題研究の章を書いて、第2回目の発表する。(学生A～C)
8. 課題研究の章を書いて、第2回目の発表する。(学生D～F)
9. 課題研究の章を書いて、第2回目の発表する。(学生G～I)
10. 課題研究の章を書いて、第3回目の発表する。(学生A～C)
11. 課題研究の章を書いて、第3回目の発表する。(学生D～F)
12. 課題研究の章を書いて、第3回目の発表する。(学生G～I)
13. 課題研究の章を書いて、最終発表する。(学生A～C)
14. 課題研究の章を書いて、最終発表する。(学生D～F)
15. 課題研究の章を書いて、最終発表する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

発表内容を学習してレジュメを作成する。

◆成績評価の方法◆

発表内容にコメントをする。成績は発表内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一:改訂版 音楽の文章セミナー(音楽之友社)

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	作品創作・コンピュータ音楽		
担当教員	白石 美雪		
学年	2年	クラス	08
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

課題研究の基本的な部分を書き上げる

◆授業内容・計画◆

以下は予定。進行状況により、順番と回数は変更する可能性がある。

第1回： 研究状況の報告

第2回： 研究テーマをさらに掘り下げる方法を検討(1)より広範な参考文献を読む

第3回： 研究テーマをさらに掘り下げる方法を検討(2)より幅広い調査を行う

第4回： 研究テーマをさらに掘り下げる方法を検討(3)より多角的に議論を展開する

第5回： 各自の研究発表・討論(1)研究テーマについて

第6回： 各自の研究発表・討論(2)研究対象について

第7回： 各自の研究発表・討論(3)研究方法について

第8回： 各自の研究発表・討論(4)分析結果について

第9回： 個別の指導、レポート内容の検討(1)目次の作成

第10回： 個別の指導、レポート内容の検討(2)的確な問題提起

第11回： 個別の指導、レポート内容の検討(3)議論の全体構成

第12回： 個別の指導、レポート内容の検討(4)分析結果の効果的な表示

第13回： 個別の指導、レポート内容の検討(5)註釈と文献表

第14回： レポート作成のための検討

第15回： 授業のまとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究を深めるため、先行研究の読解や分析等を行う

◆成績評価の方法◆

授業内の発表と講評、レポートを総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MVP701N		
科目名	声楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方）

第2回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(1)フォーレ前期歌曲を2曲

第3回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(2)2回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(3)3回目の復習及び別のフォーレ前期歌曲2曲

第5回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(4)4回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(5)4回目の復習及びモーツァルトのオペラのアリア1曲

第7回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(6)5回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(7)ドビュッシー歌曲2曲とモーツァルトのアリア1曲

第9回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(9)別のドビュッシー歌曲2曲

第11回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(10)9回目の復習

第12回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(11)フォーレ中期の歌曲2曲

第13回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

◆準備学習の内容◆

毎日1時間以上の練習をすること

◆成績評価の方法◆

毎回の演習時に講評としてフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP702N		
科目名	声楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方）

第2回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(1)フォーレ中期歌曲3曲

第3回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(2)1回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(3)2回目の復習及びモーツアルトの歌曲2曲

第5回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(4)3回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(5)アーンの歌曲2曲

第7回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(6)5回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(7)別のアーンの歌曲2曲

第9回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(9)オペラアリア1曲とモーツアルトの歌曲2曲

第11回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(10)9回目の復習

第12回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(11)10回目の復習

第13回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

◆準備学習の内容◆

毎日1時間以上の練習をすること

◆成績評価の方法◆

毎回の演習時に講評としてフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP703N		
科目名	声楽演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(1)学生が取り上げたテーマの歌曲2曲

第3回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(2)2回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(3)2回目と別の歌曲及びオラトリオ1曲

第5回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(4)4回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(5)4回目と別の歌曲2曲及びモーツァルトの aria 1曲

第7回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(6)6回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(7)6回目と別の2曲とオラトリオ1曲

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

宿題とされた曲について日本語訳をし、発音記号を明記すること。その後実技練習をして授業に備えること。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックすると共に、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆**留意事項**◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP704N		
科目名	声楽演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探索し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(1)前期に取り上げた歌曲の復習

第3回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(2)モーツァルトのアリア及びオラトリオ2曲

第4回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(3)3回目の復習

第5回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(4)学生のテーマに沿った歌曲(前期に取り上げた曲目)

3曲

第6回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(5)5回目の復習

第7回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(6)今までに取り上げた歌曲の復習

第8回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(7)今までに取り上げたオラトリオ曲の復習

第9回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

宿題とされた曲について日本語訳をし、発音記号を明記すること。その後実技練習をして授業に備えること。

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点し、成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆**留意事項**◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVS701N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

オペラを演奏するために必要な音楽表現及び舞台表現を演習を通して学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習① レチタティーヴォセッコ)

第3回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習② アリア中心)

第4回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習③ 小アンサンブル)

第5回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習④ 大アンサンブル(フィナーレなど))

第6回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)

第7回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)

第8回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)

第9回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)

第10回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)

第11回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 通し稽古)

第12回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ ゲネプロ)

第13回 前期試演会に向けて(通し稽古)

第14回 前期試演会に向けて(ゲネプロ)

第15回 前期試演会開催

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS702N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰを踏まえ、Ⅱではドイツ語の作品を取り上げ、オペラを演奏するために、より必要な音楽表現・舞台表現を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習① ドイツ語について)
- 第2回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習② 台詞部分の発音指導)
- 第3回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習③ 音楽部分の発音指導)
- 第4回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習④ 小アンサンブル)
- 第5回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習⑤ 大アンサンブル、フィナーレ)
- 第6回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)
- 第7回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)
- 第8回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)
- 第9回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)
- 第10回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)
- 第11回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 通し稽古)
- 第12回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ ゲネプロ)
- 第13回 後期試演会に向けて(通し稽古)
- 第14回 後期試演会に向けて(ゲネプロ)
- 第15回 後期試演会開催

◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS703N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰ・Ⅱで培った能力を大学院オペラ公演で発揮するため、更に深くオペラの表現方法を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習① レチタティーヴォセッコ)

第3回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習② アリア中心)

第4回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習③ 小アンサンブル)

第5回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習④ 大アンサンブル(フィナーレなど))

第6回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)

愛7回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)

第8回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)

第9回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)

第10回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)

第11回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 通し稽古)

第12回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ ゲネプロ)

第13回 オペラ研究授業発表会に向けて(通し稽古)

第14回 オペラ研究授業発表会に向けて(ゲネプロ)

第15回 オペラ研究授業発表会開催

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS704N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰ～Ⅲで培った表現方法を、大学院オペラ講演、修了演奏会にて十分に発揮し、オペラ歌手、演奏家としての第1歩とする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習① 公演指揮者によるレチタティーヴォセッコの指導)
- 第2回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習② 公演指揮者による音楽指導)
- 第3回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習③ 公演指揮者によるアリア指導)
- 第4回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古① 公演指揮者、演出家によるアンサンブル稽古)
- 第5回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古② 公演指揮者、演出家による大アンサンブル稽古)
- 第6回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古③ 公演指揮者、及びオーケストラを交えての音楽稽古)
- 第7回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古① 各自選択した演目についての講義)
- 第8回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古② アンサンブル稽古(1))
- 第9回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古③ アンサンブル稽古(2))
- 第10回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)
- 第11回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古② アンサンブルの立ち稽古)
- 第12回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古③ 通し稽古)
- 第13回 修了演奏に向けて(通し稽古)
- 第14回 修了演奏に向けて(ゲネプロ)
- 第15回 修了演奏会開催

◆準備学習の内容◆

授業内で指示。
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS705N		
科目名	重唱研究 I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて演習する。

【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション。
- ・2回目 発音練習(特に母音)、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 詩の朗読及び歌唱。
- ・6回目 5回目までの授業内での疑問点についてのディスカッション。
- ・7回目 3曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 4曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 1曲目、2曲目の復習、歌唱及びディスカッション
- ・12回目 3曲目、4曲目の復習及びディスカッション。
- ・13回目 前期に取り上げた曲の詩を再度朗読、発音確認。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。
- ・15回目 前期で取り上げたすべての曲を演奏する。夏休みの課題を決定する。

◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしておく。

◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりとって授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVS706N		
科目名	重唱研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて、一年次二年次に分かれて演習する。

【後期】

- ・1回目 前期の復習。
- ・2回目 新曲の発音練習、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 前期で取り上げた曲の復習及び後期で取り上げた曲(2曲)を歌唱。
- ・6回目 3曲目を取り上げ、朗読及び歌唱ディスカッション。(主に3重唱)
- ・7回目 4曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・8回目 5曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・9回目 小ホールでの演奏会に向けたプログラムに沿って演習。
- ・10回目 9回目の復習と主に発音確認。
- ・11回目 10回目の復習と主に音程確認。
- ・12回目 舞台を想定しての演習。
- ・13回目 演奏会に向けて全曲を歌唱及びディスカッション。
- ・14回目 大学院リート・アンサンブル演奏会。
- ・15回目 まとめと評価。

◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしておく。

◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりと授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVS707N		
科目名	重唱研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて演習する。

【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション。
- ・2回目 発音練習(特に母音)、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 詩の朗読及び歌唱。
- ・6回目 5回目までの授業内での疑問点についてのディスカッション。
- ・7回目 3曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 4曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 1曲目、2曲目の復習、歌唱及びディスカッション
- ・12回目 3曲目、4曲目の復習及びディスカッション。
- ・13回目 前期に取り上げた曲の詩を再度朗読、発音確認。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。
- ・15回目 前期で取り上げたすべての曲を演奏する。夏休みの課題を決定する。

◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしておく。

◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりと授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVS708N		
科目名	重唱研究IV		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割をさらに認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて、一年次二年次に分かれて演習する。

【後期】

- ・1回目 前期の復習。
- ・2回目 新曲の発音練習、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 前期で取り上げた曲の復習及び後期で取り上げた曲(2曲)を歌唱。
- ・6回目 3曲目を取り上げ、朗読及び歌唱ディスカッション。(主に3重唱)
- ・7回目 4曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・8回目 5曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・9回目 小ホールでの演奏会に向けたプログラムに沿って演習。
- ・10回目 9回目の復習と主に発音確認。
- ・11回目 10回目の復習と主に音程確認。
- ・12回目 舞台を想定しての演習。
- ・13回目 演奏会に向けて全曲を歌唱及びディスカッション。
- ・14回目 大学院リート・アンサンブル演奏会。
- ・15回目 まとめと評価。

◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしてくる。

◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりと授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVL701U		
科目名	作品研究(声楽) I		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-23	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

声楽作品を研究する手立てを学ぶ。音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

【前期】

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:韻律法(1)音節とアクセント
- 第3回:韻律法(2)詩行と脚韻
- 第4回:韻律法(3)詩形
- 第5回:韻律法(4)音楽のための詩のかたち
- 第6回:詩文学(1)ダンテ
- 第7回:詩文学(2)ペトルルカ
- 第8回:詩文学(3)ダンヌンツィオ
- 第9回:詩文学(4)オペラ台本
- 第10回:神話と音楽(1)ギリシャ
- 第11回:神話と音楽(2)ローマ
- 第12回:聖書と音楽(1)旧約聖書
- 第13回:聖書と音楽(2)新約聖書
- 第14回:歴史としての音楽史
- 第15回:総括

◆準備学習の内容◆

講義を受講するにあたってあらかじめ目を通しておくべき図書を以下に挙げる(これらの文献を読み、理解しておくのに必要な時間が授業外学習時間となる)。

各回の講義で次回扱う内容を確認するので、その内容に関する予備知識を得た上で講義に臨むこと。

- ・マリエッティ『ダンテ』(藤谷道夫訳)、白水社クセジュ。
- ・ペトルルカ『わが秘密』(近藤恒一訳)、岩波文庫。
- ・嶺貞子監修『イタリアのオペラと歌曲を知る12章』、東京堂出版。
- ・戸口幸策ほか監修『オペラ事典』、東京堂出版。
- ・池上英洋『官能美術史』、筑摩書房。
- ・池上英洋『西洋文明の起源』、筑摩書房。

◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。各回のテーマに関する討議内容やコメントペーパーに対してフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリアの詩歌』天野恵著(三修社刊)

◆参考図書◆

- 『ダンテ』藤谷道夫訳(白水社)
- 『わが秘密』近藤恒一訳(岩波文庫)
- 『イタリアのオペラと歌曲を知る12章』嶺貞子監修(東京堂出版)
- 『オペラ事典』戸口幸策監修(東京堂出版)
- 『官能美術史』池上英洋著(筑摩書房)
- 『西洋文明の起源』池上英洋著(筑摩書房)

◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング	MVL702U		
科目名	作品研究(声楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-23	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

「作品研究Ⅰ」に引き続き、声楽作品を研究する手立てを学ぶ。音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

【作品研究Ⅱ(後期)】

第1回:オリエンテーション

第2回:声楽作品分析(1)19世紀イタリア・オペラの定型(アリア)

第3回:声楽作品分析(2)19世紀イタリア・オペラの定型(アンサンブル)

第4回:声楽作品分析(3)19世紀イタリア・オペラの定型(フィナーレ)

第5回:声楽作品分析(4)リリック・フォーム

第6回:研究発表(1)論文で用いる用語の定義:ヴェリズモなど(発表と質疑応答)

第7回:研究発表(2)論文で用いる用語の定義:ベルカントなど(発表と質疑応答)

第8回:研究発表(3)論文で用いる用語の定義:ロマン派など(発表と質疑応答)

第9回:研究発表(4)論文の要約:美術作品に関する論文(発表と解説)

第10回:研究発表(5)論文の要約:音楽教育に関する論文(発表と解説)

第11回:研究発表(6)論文の要約:音楽実践に関する論文(発表と解説)

第12回:研究発表(7)実演に関わる事項の資料調査

第13回:研究発表(8)実演に関わる事項の論述

第14回:総括(1)

第15回:総括(2)

※受講者の理解度や準備の状態によって内容や進度を変更することがある。

第6～8回、第9～11回の具体的な内容は一例を示したが、学生自身の興味あるものを相談の上選択する。

◆準備学習の内容◆

講義を受けるにあたって事前に求められる知識などが必要な場合には、図書館に足を運び、文献や情報を仕入れた上で、知識を得た状態で参加すること。

また、学生による研究発表では、しっかりと準備したものを発表することが求められる(どこまで追求するかや備え持っている知識の量によって相当の差があるだろうが、1回の講義に際し1～3時間は必要だと思われる)。

◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。

各回のテーマに関する討議内容やコメントペーパーに対してフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリアの詩歌』天野恵著(三修社刊)

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング	MVS709N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)A I		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などから検証し、いかにして自然で美しい日本語を歌唱表現できるかを研究する。詩の朗読や歌唱の実践を通して、より深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

◆授業内容・計画◆

1. 日本歌曲その歴史と変遷
2. 日本語の特質、日本伝統の発声法について
3. 音声学から見た日本語
4. 詩の朗読実践。西洋の発声法と日本語の発語、発声の比較を通して
5. 創成期作曲家 滝廉太郎歌曲作品の歌唱について
6. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(1)詩人 北原白秋との出会い
7. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(2)詩人 野口雨情との出会い
8. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(3)詩人 三木露風、大木惇夫との出会い
9. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(4)民謡との融合と試み
10. 継承期作曲家 橋本国彦歌曲作品の歌唱について
11. 継承期作曲家 信時 潔歌曲作品の歌唱について
12. 継承期作曲家 平井康三郎歌曲作品の歌唱について
13. 継承期作曲家 高田三郎、成田為三ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践して行く形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢、演奏会などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MVS710N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)A I		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ドイツ芸術歌曲とオラトリオ作品の特徴を学び、演習を通して研究する。ドイツ語作品歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に気づき、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、受講生による試聴会(任意のドイツ歌曲1曲を歌うこと。)
- 第2回 Mozartの歌曲の研究と演習
- 第3回 Beethovenの歌曲の研究と演習
- 第4回 Loeweの歌曲の研究と演習
- 第5回 Schubert の歌曲(ゲーテの詩による)の研究と演習
- 第6回 Schubert の歌曲(シュレーゲル、リュッケルト、マイルホーファーの詩による)研究と演習
- 第7回 Mendelssohn の歌曲の研究と演習
- 第8回 Schumann の歌曲「ミルテの花 作品25」の研究と演習
- 第9回 Schumann の歌曲「リーダークライス 作品39」の研究と演習
- 第10回 Liszt の歌曲の研究と演習
- 第11回 オラトリオ(J.S.Bach「マタイ受難曲」)の研究と演習
- 第12回 オラトリオ(J.S.Bach「ヨハネ受難曲」)の研究と演習
- 第13回 Brahms の歌曲(作品3~49)の研究と演習
- 第14回 Brahms の歌曲(作品57~121)の研究と演習
- 第15回 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS711N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)A I		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-217	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクッションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

- 1回目 声聴き会、オリエンテーション
- 2回目 授業で取り上げるペートン版についての説明をし、個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 3回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 4回目 発音練習後、各自選択した曲を取り上げ、実際に歌唱する。適宜発音に関してチェックする。
- 5回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にA母音を正しく発音できるようにする。(1)
- 6回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にI母音を正しく発音できるようにする。(2)
- 7回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にU母音を正しく発音できるようにする。(3)
- 8回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にE母音を正しく発音できるようにする。(4)
- 9回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にO母音を正しく発音できるようにする。(5)
- 10回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目を再度選択し決定する。
- 11回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にI母音を正しく発音できるようにする。(6)
- 12回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にU母音を正しく発音できるようにする。(7)
- 13回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にE母音を正しく発音できるようにする。(8)
- 14回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にO母音を正しく発音できるようにする。(9)
- 15回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

◆留意事項◆

留意事項 インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS712N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)A I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-225	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 母音についての説明。一人ずつ発音する。
- ・3回目 リエゾンについての説明。各自曲を取り上げ、発音した後、実際に歌唱する。
- ・4回目 3回目の復習。
- ・5回目 名曲についての詩の解釈と歌唱。
- ・6回目 名曲についての詩の和声についての説明と歌唱。
- ・7回目 フォーレについての説明と歌唱。
- ・8回目 ドビュッシーについての説明と歌唱。
- ・9回目 フランスの文化についての説明と歌唱。
- ・10回目 新たな曲を取り歌唱する。
- ・11回目 10回目の復習。
- ・12回目 各自歌唱した後でディスカッションを行う。
- ・13回目 各自複数曲を歌唱する。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。

◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしていくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS713N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

前期に引き続き、展開期作曲家から現代までの多くの作曲家歌曲作品の歌唱実践と詩の朗読、解釈を通して日本歌曲への理解をより深めてゆく。

◆授業内容・計画◆

- 1.現代詩における日本語の自然な発語発声と歌唱法
- 2.「あいうえお」の母音の音色や子音についての考察
3. 展開期作曲家 中田喜直歌曲作品の歌唱について
4. 展開期作曲家 大中 恩歌曲作品の歌唱について
5. 展開期作曲家 清水修、柴田南雄歌曲作品の歌唱について
6. 展開期作曲家 石桁真礼生、早坂文雄歌曲作品の歌唱について
7. 展開期作曲家 諸井三郎、諸井 誠歌曲作品の歌唱について
8. 展開期作曲家 團 伊玖磨歌曲作品の歌唱について
9. 展開期作曲家 小林秀雄、畑中良輔歌曲作品の歌唱について
10. 展開期作曲家 別宮貞雄歌曲作品の歌唱について
11. 展開期作曲家 三善 晃歌曲作品の歌唱について
12. 展開期作曲家 木下牧子歌曲作品の歌唱について
13. 展開期作曲家 猪本 隆歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践していく形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。(実技については毎日30分、解釈他については30分以上が望ましい)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組む姿勢、演奏会などからの総合的な評価、授業内で演奏された歌曲について一人一人に対し指導し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MVS714N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

H.Wolf 以降のドイツ歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。前期の基礎に引き続きドイツ語歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に更なる深い解釈をして、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 Wolf「メーリケ歌曲集」の研究と演習
- 第2回 Wolf「ゲーテ歌曲集」の研究と演習
- 第3回 Wolf「イタリア歌曲集」の研究と演習
- 第4回 G.Mahler「歌曲集(若き日の歌)」の研究と演習
- 第5回 G.Mahler「子供の不思議な角笛」の研究と演習
- 第6回 R.Strauss の歌曲(作品10～41)の研究と演習
- 第7回 R.Strauss の歌曲(作品43～68)の研究と演習
- 第8回 R.Strauss の歌曲(作品69～88)の研究と演習
- 第9回 オラトリオ作品(J.Haydn「天地創造」)の研究と演習
- 第10回 オラトリオ作品(J.Haydn「四季」)の研究と演習
- 第11回 ZemlinskyとSchoenbergの歌曲の研究と演習
- 第12回 BergとWebernの歌曲の研究と演習
- 第13回 Pfitzner,Schreker,A.Mahlerの歌曲の研究と演習
- 第14回 Hindemith,Korngold,Ullmannの歌曲の研究と演習
- 第15回 まとめと発表

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS715N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-217	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクッションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。イタリア語で演奏する上で大切な7つの母音を正確に発音できるようになる。

- 1回目 前期の復習。ディスカッション。
- 2回目 オラトリオを含む新たな曲を取り入れるよう、ディスカッションしながら決めて行く。
- 3回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
- 4回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 5回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 6回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にA母音が正しく発音されているかチェックする。(1)
- 7回目 授業最後に行われる発表会に対処すべく、ディスカッションしながら選曲準備をする。
- 8回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にI母音が正しく発音されているかチェックする。(2)
- 9回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(3)
- 10回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(4)
- 11回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(5)
- 12回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(6)
- 13回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にO母音が正しく発音されているかチェックする。(7)
- 14回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にイタリア語特有の7つの母音が正しく発音されているかチェックする。(8)
- 15回目 授業内発表会

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS716N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

【後期】

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・5回目 グノーについての説明と4回目の復習。
- ・6回目 ショーソンについての説明及び歌唱。
- ・7回目 4回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 7回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 今まで取り上げた曲の歌唱。
- ・12回目 発表会で歌う曲を選択し、歌唱。
- ・13回目 12回目の復習とディスカッション。
- ・14回目 発表会に向けての準備及び発表会で歌う曲を全部歌唱。

◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしていくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS717N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)B I		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などから検証し、いかにして自然で美しい日本語を歌唱表現できるかを研究する。詩の朗読や歌唱の実践を通して、より深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

◆授業内容・計画◆

1. 日本歌曲その歴史と変遷
2. 日本語の特質、日本伝統の発声法について
3. 音声学から見た日本語
4. 詩の朗読実践。西洋の発声法との接点を考察する
5. 創成期作曲家 滝廉太郎歌曲作品の歌唱について
6. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(1)詩人 北原白秋との出会い
7. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(2)詩人 野口雨情との出会い
8. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(3)詩人 三木露風、大木惇夫
9. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(4)民謡との融合と試み
10. 継承期作曲家 橋本国彦歌曲作品の歌唱について
11. 継承期作曲家 信時 潔歌曲作品の歌唱について
12. 継承期作曲家 平井康三郎歌曲作品の歌唱について
13. 継承期作曲家 高田三郎、成田為三ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践して行く形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め事前によく予習をしてきてください。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組む姿勢、演奏会などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MVS718N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)B I		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ドイツ芸術歌曲とオラトリオ作品の特徴を学び、演習を通して研究する。ドイツ語作品歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に気づき、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、受講生による試聴会(任意のドイツ歌曲1曲を歌うこと。)
- 第2回 Mozartの歌曲の研究と演習
- 第3回 Beethovenの歌曲の研究と演習
- 第4回 Loeweの歌曲の研究と演習
- 第5回 Schubert の歌曲(ゲーテの詩による)の研究と演習
- 第6回 Schubert の歌曲(シュレーゲル、リュッケルト、マイルホーファーの詩による)研究と演習
- 第7回 Mendelssohn の歌曲の研究と演習
- 第8回 Schumann の歌曲「ミルテの花 作品25」の研究と演習
- 第9回 Schumann の歌曲「リーダークライス 作品39」の研究と演習
- 第10回 Liszt の歌曲の研究と演習
- 第11回 オラトリオ(J.S.Bach「マタイ受難曲」)の研究と演習
- 第12回 オラトリオ(J.S.Bach「ヨハネ受難曲」)の研究と演習
- 第13回 Brahms の歌曲(作品3~49)の研究と演習
- 第14回 Brahms の歌曲(作品57~121)の研究と演習
- 第15回 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS719N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)B I		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-217	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

- 1回目 声聴き会、オリエンテーション
- 2回目 授業で取り上げるペートン版についての説明をし、個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 3回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 4回目 発音練習後、各自選択した曲を取り上げ、実際に歌唱する。適宜発音に関してチェックする。
- 5回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にA母音を正しく発音できるようにする。(1)
- 6回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にI母音を正しく発音できるようにする。(2)
- 7回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にU母音を正しく発音できるようにする。(3)
- 8回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にE母音を正しく発音できるようにする。(4)
- 9回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にO母音を正しく発音できるようにする。(5)
- 10回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目を再度選択し決定する。
- 11回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にI母音を正しく発音できるようにする。(6)
- 12回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にU母音を正しく発音できるようにする。(7)
- 13回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にE母音を正しく発音できるようにする。(8)
- 14回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。
特にO母音を正しく発音できるようにする。(9)
- 15回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペー-ton版)

◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS720N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)B I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-225	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 母音についての説明。一人ずつ発音する。
- ・3回目 リエゾンについての説明。各自曲を取り上げ、発音した後、実際に歌唱する。
- ・4回目 3回目の復習。
- ・5回目 名曲についての詩の解釈と歌唱。
- ・6回目 名曲についての詩の和声についての説明と歌唱。
- ・7回目 フォーレについての説明と歌唱。
- ・8回目 ドビュッシーについての説明と歌唱。
- ・9回目 フランスの文化についての説明と歌唱。
- ・10回目 新たな曲を取り歌唱する。
- ・11回目 10回目の復習。
- ・12回目 各自歌唱した後でディスカッションを行う。
- ・13回目 各自複数曲を歌唱する。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。

◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしていくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS721N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

前期に引き続き、展開期作曲家から現代までの多くの作曲家歌曲作品の歌唱実践と詩の朗読、解釈を通して、日本歌曲への理解をより深めることを目的とする。

◆授業内容・計画◆

1. 現代詩における日本語の自然な発語発声と歌唱法
2. 「あいうえお」の母音の音色、子音についての考察
3. 展開期作曲家 中田喜直歌曲作品の歌唱について
4. 展開期作曲家 大中 恩歌曲作品の歌唱について
5. 展開期作曲家 清水修、柴田南雄歌曲作品の歌唱について
6. 展開期作曲家 石桁真礼生、早坂文雄歌曲作品の歌唱について
7. 展開期作曲家 諸井三郎、諸井 誠歌曲作品の歌唱について
8. 展開期作曲家 團 伊玖磨歌曲作品の歌唱について
9. 展開期作曲家 小林秀雄、畑中良輔歌曲作品の歌唱について
10. 展開期作曲家 別宮貞雄歌曲作品の歌唱について
11. 展開期作曲家 三善 晃歌曲作品の歌唱について
12. 展開期作曲家 木下牧子歌曲作品の歌唱について
13. 展開期作曲家 猪本 隆ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

前期同様、各自に提示された曲目について、演奏と詩の解釈など、よく準備しておいてください。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢、演奏発表などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MVS722N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

H.Wolf 以降のドイツ歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。前期の基礎に引き続きドイツ語歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に更に深い解釈をして、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 Wolf「メーリケ歌曲集」の研究と演習
- 第2回 Wolf「ゲーテ歌曲集」の研究と演習
- 第3回 Wolf「イタリア歌曲集」の研究と演習
- 第4回 G.Mahler「歌曲集(若き日の歌)」の研究と演習
- 第5回 G.Mahler「子供の不思議な角笛」の研究と演習
- 第6回 R.Strauss の歌曲(作品10～41)の研究と演習
- 第7回 R.Strauss の歌曲(作品43～68)の研究と演習
- 第8回 R.Strauss の歌曲(作品69～88)の研究と演習
- 第9回 オラトリオ作品(J.Haydn「天地創造」)の研究と演習
- 第10回 オラトリオ作品(J.Haydn「四季」)の研究と演習
- 第11回 ZemlinskyとSchoenbergの歌曲の研究と演習
- 第12回 BergとWebernの歌曲の研究と演習
- 第13回 Pfitzner,Schreker,A.Mahlerの歌曲の研究と演習
- 第14回 Hindemith,Korngold,Ullmannの歌曲の研究と演習
- 第15回 まとめと発表

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS723N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-217	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。イタリア語で演奏する上で大切な7つの母音を正確に発音できるようになる。

- 1回目 前期の復習。ディスカッション。
- 2回目 オラトリオを含む新たな曲を取り入れるよう、ディスカッションしながら決めて行く。
- 3回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
- 4回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 5回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 6回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にA母音が正しく発音されているかチェックする。(1)
- 7回目 授業最後に行われる発表会に対処すべく、ディスカッションしながら選曲準備をする。
- 8回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にI母音が正しく発音されているかチェックする。(2)
- 9回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(3)
- 10回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(4)
- 11回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(5)
- 12回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(6)
- 13回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にO母音が正しく発音されているかチェックする。(7)
- 14回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
特にイタリア語特有の7つの母音が正しく発音されているかチェックする。(8)
- 15回目 授業内発表会

◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペーテン版)

◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS724N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

【後期】

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・5回目 グノーについての説明と4回目の復習。
- ・6回目 ショーソンについての説明及び歌唱。
- ・7回目 4回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 7回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 今まで取り上げた曲の歌唱。
- ・12回目 発表会で歌う曲を選択し、歌唱。
- ・13回目 12回目の復習とディスカッション。
- ・14回目 発表会に向けての準備及び発表会で歌う曲を全部歌唱。

◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしていくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS725N		
科目名	舞台発音発声法 I		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	01
講義室	SPC-B	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

テキストを持つ音楽作品を音楽家、もしくは舞台人として扱う際、必要となる基礎知識を学びつつ、実践する。また、それらがどのような手段となり得るのかについて思考する。

◆授業内容・計画◆

主にイタリア語の歴史的文法と音声学・音韻論の観点から考察する(言語としてのイタリア語、イタリア語の韻文、芸術的な言語としてのイタリア語など)。

異なる機能を持った言語の特徴について学ぶ。基礎知識が共有できるようになった後に、言葉と音楽の関係を考察する。理論を把握するのと同時進行で、受講者の関心のある領域から課題を持ち寄り、実践を通して舞台発音発声の基礎固めをおこなう。

第1回:オリエンテーション

第2回:言語としての発音

第3回:芸術作品の朗読

第4回:歌唱のための発音

第5回:課題の考察と実践(1):主にダ・ポンテのオペラ台本 1幕レチタティーヴォ前半

第6回:課題の考察と実践(2)1幕レチタティーヴォ後半

第7回:課題の考察と実践(3)1幕アリア

第8回:課題の考察と実践(4)1幕重唱

第9回:課題の考察と実践(5)1幕フィナーレ

第10回:課題の考察と実践(6)2幕レチタティーヴォ前半

第11回:課題の考察と実践(7)2幕レチタティーヴォ後半

第12回:課題の考察と実践(8)2幕アリア

第13回:課題の考察と実践(9)2幕重唱

第14回:課題の考察と実践(10)2幕フィナーレ

第15回:前期のまとめ

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が求められる。授業外学習時間は各学生の語学力により異なるが、半期でオペラ台本1本を日本語に訳出するために必要な時間数となる。

◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。授業内でおこなう実践について常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はつき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やドイツ語の力をさらにアップさせて欲しい。

ナンバリング	MVS726N		
科目名	舞台発音発声法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	01
講義室	SPC-B	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

「舞台発音発声法Ⅰ」に引き続き、テキストを持つ音楽作品を、音楽家、もしくは舞台人として扱う際に必要となる基礎知識を学び、実践する。また、それらがどのような手段となり得るのかについて考える。

◆授業内容・計画◆

主にイタリア語の歴史的文法と音声学・音韻論の観点から考察する(言語としてのイタリア語、イタリア語の韻文、芸術的な言語としてのイタリア語など)。異なる機能を持った言語の特徴について学ぶ。基礎知識が共有できるようになった後に、言葉と音楽の関係を考察する。理論を把握すると同時進行で、受講者の関心のある領域から課題を持ち寄り、実践を通して舞台発音発声の基礎固めをおこなう。

【舞台発音発声法Ⅱ(後期)】

- 第1回: 課題の考察と実践(1): 主に『魔笛』および『ウインザーの陽気な女房たち』
- 第2回: 課題の考察と実践(2) 話し声と歌声
- 第3回: 課題の考察と実践(3) セリフ
- 第4回: 課題の考察と実践(4) アリア・重唱の発音
- 第5回: 課題の考察と実践(5) 話すように歌うために
- 第6回: 課題の考察と実践(6): 主に19世紀イタリア・オペラ台本
- 第7回: 課題の考察と実践(7) レチタティーヴォ1幕
- 第8回: 課題の考察と実践(8) レチタティーヴォ2幕
- 第9回: 課題の考察と実践(9) アリア
- 第10回: 課題の考察と実践(10) 重唱
- 第11回: 課題の考察と実践(11) フィナーレ
- 第12回: 課題の考察と実践(12) レチタティーヴォ3幕
- 第13回: 課題の考察と実践(13) レチタティーヴォ4幕
- 第14回: 後期のまとめ
- 第15回: 総論

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が求められる。

◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。授業内でおこなう実践について常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

『歌うイタリア語ハンドブック』森田学著(ハンナ刊)
『演出家の誕生』川島健著(彩流社刊)

◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はずき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やドイツ語の力をさらにアップさせて欲しい。

ナンバリング	MVS727N		
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニック) I		
科目詳細			
担当教員	堀田 麻子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

クラシックバレエの技法を用い、声楽家に必要な身体作りをしていく。左右対称の動きをすることで、身体のバランスを整え、立ち姿を美しく保つ訓練をしていく。

◆授業内容・計画◆

クラシックバレエの基本的な動作を行うことで、身体作りを行う。

左右対称の動きによりバランス感覚を養い、舞台上に立つ姿勢作りをする。

また、身体の末端まで意識することにより、足の裏で床を感じ、手先を美しくしていく。

まずフロアでストレッチをし身体の柔軟性を高め、ケガの予防をし、体幹を鍛えることで身体の軸を意識する。

バーレッスンでは基本のポジションを学びながら、少しずつ足を上げることでバランスを身に付け、センターではバーから離れバランスを整えながら全身で動く訓練をする。

- 第1回 プリエ
- 第2回 タンジュ
- 第3回 デガジェ
- 第4回 ロンデジャンプ・アテール
- 第5回 フォンジュ
- 第6回 フラッペ
- 第7回 アダージオ
- 第8回 グランバットマン
- 第9回 ポールドブラ
- 第10回 センタータンジュ
- 第11回 ターン
- 第12回 小さいジャンプ
- 第13回 大きいジャンプ
- 第14回 ワルツなどオペラに必要とされるステップ
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

ストレッチや普段の姿勢を意識する

◆成績評価の方法◆

毎回のレッスンを通して随時課題を出し、フィードバックすると共に、身体の変化や理解度で評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

持ち物 バレエシューズ

動きやすい服装(足を開いたり上げたりする為、スカートは不可)

髪が顔にかかる場合はゴムでまとめる

ナンバリング	MVS728N		
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニック)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	堀田 麻子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

舞台表現において演技者に必要な身体と身体に対する意識を、完成されたクラシックバレエの肉体訓練法をもとに習得していく

◆授業内容・計画◆

後期は前期とほぼ同様の内容で行う。ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンをを行い、2曲のダンスのステップを覚え、オペラに必要なダンスの最低限な技術を身に付け、動きではなく、踊ることを知ってもらいたい。

- 第1回 バーレッスン、センターレッスン プリエ、タンジュの確認、復習
- 第2回 バーレッスン、センターレッスン デガジェ、ロンデジャンプの確認、復習
- 第3回 バーレッスン、センターレッスン フォンジュ、フラッペの確認、復習
- 第4回 バーレッスン、センターレッスン アダジオ、グランバットマンの確認、復習
- 第5回 バーレッスン、センターレッスン ストレッチの確認、復習
- 第6回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるアダジオ
- 第7回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるレベランセ
- 第8回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるタンジュ、パッセ
- 第9回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるシェネなどの回転系
- 第10回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるアッサンブレ
- 第11回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるグランワルツ
- 第12回 バーレッスン、民族舞踊(ワルツ)
- 第13回 バーレッスン、民族舞踊(ポルカ、マズルカ)
- 第14回 バーレッスン、センターレッスン DVD鑑賞「白鳥の湖」
- 第15回 バーレッスン、センターレッスン DVD鑑賞

◆準備学習の内容◆

ストレッチや姿勢など、普段から意識することで身体に感覚として身に付けていく。

◆成績評価の方法◆

毎回のレッスンを通して随時課題を出し、フィードバックすると共に、身体の変化や理解度で評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

持ち物 バレエシューズ
動きやすい服装(足を開いたり上げたりするため、スカートは不可)

ナンバリング	MVS729N		
科目名	舞台表現技術演習(身体表現) I		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

<オペラにおいて必要な、歌手の表現方法(演技)を学ぶ> ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。 ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

◆授業内容・計画◆

- * 1年次での履修が望ましい。
- * 続けて後期「舞台表現技術演習(身体表現) II」の履修に進むことが望ましい。

1. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.1
2. 動けるからだを造る Vol.1
3. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.2
4. 動けるからだを造る Vol.2
5. シアターゲーム Vol.1
6. シアターゲーム Vol.2
7. シアターゲーム Vol.3
8. 感じる心を造る Vol.1
9. 感じる心を造る Vol.2
10. エチュード Vol.1
11. エチュード Vol.2
12. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.1
13. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.2
14. 復習、アクティブラーニング
15. まとめ etc

* それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。授業中に常にフィードバックする。
前期終了時に試験を実施する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。
遅刻厳禁・100%の出席が望ましい。

ナンバリング	MVS730N		
科目名	舞台表現技術演習(身体表現)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	O1
講義室	SPC-C	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

<オペラにおいて必要な、歌手の表現方法(演技)を学ぶ> ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。 ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

◆授業内容・計画◆

【授業内容】

- * 前期「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」を更に実践的に追求する授業である。
- * 1年次での「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」→「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅱ」連続履修が最も望ましい。

1. 「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」からのブリッジ
2. シアターゲーム・エチュード、アクティブラーニング
3. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.1
4. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.2
5. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.1
6. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.2
7. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.1
8. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.2
9. エアオペラで既習事項を実践する Vol.1
10. エアオペラで既習事項を実践する Vol.2
11. エアオペラで既習事項を実践する Vol.3
12. エアオペラで既習事項を実践する Vol.4
13. エアオペラで既習事項を実践する Vol.5
14. エアオペラで既習事項を実践する Vol.6
15. 課題曲実演による試演会＝テスト

* それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。
エアオペラの課題スコアを事前学習のこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。
授業への取り組み方、課題の修得度合い、後期終了時の試演会の成果を加味し評価する。
授業中に課題について常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。
遅刻厳禁。100%の出席が望ましい。

ナンバリング	MSP701N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習 I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現によるすぐれた演奏を実現することの出来る力を培う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 通年の予定を立て、レパートリー拡大のための学修の予定も立てる。
- 第2回 脱力について考え、そのための意識を確立する。(前半)
- 第3回 脱力について考え、そのための意識を確立する。(後半)
- 第4回 古典派以前の作品の様式を考察する。(前半)
- 第5回 古典派以前の作品の様式を考察する。(後半)
- 第6回 古典派の作品を学び、スタイル、テクニックについて考える。(前半)
- 第7回 古典派の作品を学び、スタイル、テクニックについて考える。(後半)
- 第8回 初期ロマン派の作品について、スタイル、テクニック、ペダルを考える。(前半)
- 第9回 初期ロマン派の作品について、スタイル、テクニック、ペダルを考える。(後半)
- 第10回 ロマン派の作品について、スタイル、テクニック、ペダルを考える。(前半)
- 第11回 ロマン派の作品について、スタイル、テクニック、ペダルを考える。(後半)
- 第12回 ロマン派以降の作品について、スタイル、テクニック、ペダルを考える。(前半)
- 第13回 ロマン派以降の作品について、スタイル、テクニック、ペダルを考える。(後半)
- 第14回 現代音楽について、スタイル、テクニック、ペダルを考える。
- 第15回 前期に学習したことのまとめと、後期への心構えと宿題

◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をするように。
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査、などを自分に課すことは、当然のことである。

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。教員の指示によって用意してもらうこともある。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

常に自発的な学修を心がけるように。

ナンバリング	MSP702N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現できる力を培う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ペダルの使用について学修する。(前半)
- 第2回 ペダルの使用について学修する。(後半)
- 第3回 身体の使い方について(前半)
- 第4回 身体の使い方について(後半)
- 第5回 中間発表、修了演奏のプログラムについて考える
- 第6回 作品の分析について学修する(前半)
- 第7回 作品の分析について学修する(後半)
- 第8回 暗譜の方法について学修する(前半)
- 第9回 暗譜の方法について学修する(後半)
- 第10回 レパートリーの拡大の方法について学修する(前半)
- 第11回 レパートリーの拡大の方法について学修する(後半)
- 第12回 プログラミングの方法について学修する(前半)
- 第13回 プログラミングの方法について学修する(後半)
- 第14回 第1年目の学習について、反省と、次年度への計画

◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をするように。
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自分に課すことは当然である。

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態。準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。教員の指示によって準備してもらうこともある。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

常に自発的に学修を心がけるように。

ナンバリング	MSP703N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現することの出来る力を培う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 今年度の計画を立て、レパートリーの拡大の計画を確定する。
- 第2回 脱力について、よりふかく考える。(前半)
- 第3回 脱力について、よりふかく考える。(後半)
- 第4回 古典派以前の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第5回 古典派以前の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第6回 古典派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第7回 古典派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第8回 初期ロマン派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第9回 初期ロマン派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第10回 ロマン派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第11回 ロマン派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第12回 ロマン派以降の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第13回 ロマン派以降の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第14回 現代音楽について
- 第15回 前期のまとめと整理。

◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をするように。
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自らに課するのは当然である。

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当の教員から提示があることもある。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

常に自発的な学修を心がける。

ナンバリング	MSP704N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現できる力を培う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ペダルの使用について更に学修する。(前半)
- 第2回 ペダルの使用について更に学修する。(後半)
- 第3回 身体の使い方について更に学修する。(前半)
- 第4回 身体の使い方について更に学修する。(後半)
- 第5回 論文について、実技教員との打ち合わせと方向付け。
- 第6回 作品の分析について更に学修する。(前半)
- 第7回 作品の分析について更に学修する。(後半)
- 第8回 暗譜の方法について更に学修する。(前半)
- 第9回 暗譜の方法について更に学修する。(後半)
- 第10回 レパートリーの拡大のための方策について更に学修する。(前半)
- 第11回 レパートリーの拡大のための方策について更に学修する。(後半)
- 第12回 修了演奏に向かったのレッスン。
- 第13回 修了演奏に向けてあらゆる角度からの掘り下げ。
- 第14回 修了演奏に向けて妥協のない表現研究。
- 第15回 修了演奏に向けての仕上げ。

◆準備学習の内容◆

大学院生に相応しい準備ができるように。
楽譜の綿密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自分に課すことは当然である。

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み方、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にはないが、担当の教員から指示があることもある。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

常に自発的に学修することを心がけるように。

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ロマン派ピアノ音楽をその作曲家及び時代の様式を考慮して演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担して演奏し、演奏法の研究を行う。随時マニスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行う。課題の順番は変更することもある。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器学資料館見学…歴史的ピアノの試奏、作曲家と楽器
- 第3回 ショパン(1)エチュード
- 第4回 ショパン(2)ノクターン
- 第5回 ショパン(3)バラード
- 第6回 ショパン(4)スケルツォ等
- 第7回 シューマン(1)1840年までの作品前半
- 第8回 シューマン(2)1840年までの作品後半
- 第9回 シューマン(3)1840年以降の作品
- 第10回 リスト(1)《超絶技巧練習曲》《バガニーニによる大練習曲》《3つの演奏会用練習曲》《2つの演奏会用練習曲》等
- 第11回 リスト(2)《巡礼の年》《詩的で宗教的な調べ》《コンソレーション》《ペトルルカのソネット》、各種編曲等
- 第12回 リスト(3)《ソナタ》《バラード》《メフィストワルツ》《ハンガリー狂詩曲》《スペイン狂詩曲》等
- 第13回 ブラームス(1)《ソナタ》《変奏曲》
- 第14回 ブラームス(2)《小品集》等
- 第15回 まとめ

* 各回の課題は学生と相談しながら決めます。

◆準備学習の内容◆

1. ピアノ専攻の受講生は担当する課題曲を練習し、その曲の演奏解釈について考察しておく。その際、作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成に留意すること。
 2. 理論系の受講生は作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成等についてプレゼンテーションを行う。
- 両者が互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

◆成績評価の方法◆

授業への取組状況により、総合的に評価する。課題に対するフィードバックを授業内で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F. Chopin: National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin: A New Critical Edition (Edition Peters).
- ・R. Schumann: Sämtliche Klavierwerke (Henle Verlag).
- ・F. Liszt: Neue Ausgabe Sämtlicher Werke (Edito Musica Budapest).

◆参考図書◆

- J. J. エーゲルディング『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005)
- Józef Michał Chomiński and Teresa Dalila Turło “A catalogue of the Works of Frederick Chopin” (PWM, 1990).
- K. Hofmann und S. Keil “Robert Schumann: Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens” (Schuberth, 1982).
- A. Walker “Frantz Liszt” (Alfred A. Knopf, 1983).

◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-422	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家によるアーティキュレーションが不完全な作品(主にバロックの鍵盤作品および古典派初期の作品)も自分で適切に処理できるよう、18世紀～19世紀初頭のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を学び、身につける。

◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものが散見される。基本的なスラーやスタッカートの用法において、古典派の時代とその後の時代に差があることを学習し、それを自身の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

- 1) ガイダンス
- 2) 今後の研究に役立つと思われる参考図書の紹介
- 3) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(前半)
- 4) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(後半)
- 5) 視聴したDVDの内容のまとめと18世紀の理論書の紹介
- 6) 抑揚に関して考える
- 7) レガートとスタッカートに関する考察
- 8) ベートーヴェンのスタッカートに関して(児島新による論考を吟味する)
- 9) ソナチネアルバムの問題点(1) 古典の教材として一般的な『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を考察する。
- 10) ソナチネアルバムの問題点(2) 『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を引き続き考察する。
- 11) ブルクミュラー研究(1) 『25の練習曲』第1～12番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を考察する。
- 12) ブルクミュラー研究(2) 『25の練習曲』第13～25番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を引き続き考察する。
- 13) アーティキュレーションの書き込み実習(1)
- 14) アーティキュレーションの書き込み実習(2)
- 15) 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中に扱われている問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

◆成績評価の方法◆

前期に学習した古典派に関するアーティキュレーション書法のポイントをわかりやすく整理したレポートを提出する。それに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

◆授業内容・計画◆

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

第1回：授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回：1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回：1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回：2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回：2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回：2曲目の作品(3)演奏法

第7回：様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回：3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回：3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回：3曲目の作品(3)演奏法

第11回：様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回：ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回：ミニ・コンサートのリハーサル

第14回：ミニ・コンサート

第15回：まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

前期の学習成果を踏まえ、ロマン派ピアノ音楽をその作曲家及び時代の様式を考慮して更に優れた演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担し、演奏法の研究を行う。随時マニユスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行う。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ショパン(1)《ソナタ》
- 第3回 ショパン(2)《ポロネーズ》
- 第4回 ショパン(3)《ワルツ》
- 第5回 ショパン(4)《マズルカ》
- 第6回 シューベルト(1)《即興曲》《楽興の時》等
- 第7回 シューベルト(2)《ソナタ》前半
- 第8回 シューベルト(3)《ソナタ》後半
- 第9回 シューマン(1)1840年以前の作品前半
- 第10回 シューマン(2)1840年以前の作品後半
- 第11回 シューマン(3)1840年以降の作品
- 第12回 ブラームス(1)《ソナタ》
- 第13回 ブラームス(2)《変奏曲》
- 第14回 ブラームス(3)《幻想曲》《間奏曲》《バラード》等
- 第15回 まとめ

* 各回の課題は受講生と相談しながら決めます。

◆準備学習の内容◆

1. ピアノ専攻の受講生は担当する課題曲を練習し、その曲の演奏解釈について考察しておく。その際、作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成に留意すること。
 2. 理論系の受講生は作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成等についてプレゼンテーションを行う。
- 両者が互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び参加状況により、総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業の中で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F. Chopin: National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin: A New Critical Edition (Edition Peters).
- ・R. Schumann: Sämtliche Klavierwerke (Henle Verlag).
- ・F. Liszt: Neue Ausgabe Sämtlicher Werke (Editio Musica Budapest).

◆参考図書◆

- ・J. J. エーゲルディング『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005)
- ・Józef Michał Chomiński and Teresa Dalila Turło "A catalogue of the Works of Frederick Chopin" (PWM, 1990).
- ・K. Hofmann und S. Keil "Robert Schumann: Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens" (Schuberth, 1982).
- ・A. Walker "Frantz Liszt" (Alfred A. Knopf, 1983).

◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-422	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

前期で学んだことに加え、モーツァルトの書法に関して詳細に研究することによってウィーン古典派のアーティキュレーションへの理解を深める。

◆授業内容・計画◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』を使用して授業を進める。

- 1)モーツァルトの響きの世界
- 2)モーツァルトのデュナーミク(1)
- 3)モーツァルトのデュナーミク(2)
- 4)テンポとリズムの問題(1)
- 5)テンポとリズムの問題(2)
- 6)モーツァルトのアーティキュレーション(1)
- 7)モーツァルトのアーティキュレーション(2)
- 8)モーツァルトの装飾音(1)
- 9)モーツァルトの装飾音(2)
- 10)カデンツァとアインガング
- 11)アインガングの創作実習
- 12)モーツァルトの出版楽譜情報
- 13)古典派の書法に関するプレゼンテーション(1)
- 14)古典派の書法に関するプレゼンテーション(2)
- 15)後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

授業対象として予告された章に1時間程度かけて目を通し、概略を把握しておくこと。内容の要約を準備し、授業内で発表できるようにしておくこと。その際にモーツァルト以外の作品でも類似したケースがないか探索し、求めに応じて提示できるよう準備しておくことが望ましい(楽譜の当該箇所のコピーを作成しておくこと)。

◆成績評価の方法◆

モーツァルトのピアノ作品より任意の1曲あるいは楽章を選択し、そこに含まれるアーティキュレーションの特徴や留意点に関するプレゼンテーションを行う。これに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』(今井顕監訳、音楽之友社、2016年)他

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

◆授業内容・計画◆

(前期で習得したものを更にレベルアップする)

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第13回及び第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

- 第1回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第2回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第3回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第4回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第5回:2曲目の作品(3)演奏法
- 第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第7回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第8回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第9回:3曲目の作品(3)演奏法
- 第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ
- 第12回:ミニ・コンサートのリハーサル
- 第13回:ミニ・コンサート①
- 第14回:ミニ・コンサート②
- 第15回:まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ロマン派ピアノ音楽をその作曲家及び時代の様式を考慮して演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担して演奏し、演奏法の研究を行う。随時マニスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行う。課題の順番は変更することもある。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器学資料館見学…歴史的ピアノの試奏、作曲家と楽器
- 第3回 ショパン(1)エチュード
- 第4回 ショパン(2)ノクターン
- 第5回 ショパン(3)バラード
- 第6回 ショパン(4)スケルツォ等
- 第7回 シューマン(1)1840年までの作品前半
- 第8回 シューマン(2)1840年までの作品後半
- 第9回 シューマン(3)1840年以降の作品
- 第10回 リスト(1)《超絶技巧練習曲》《バガニーニによる大練習曲》《3つの演奏会用練習曲》《2つの演奏会用練習曲》等
- 第11回 リスト(2)《巡礼の年》《詩的で宗教的な調べ》《コンソレーション》《ペトルルカのソネット》、各種編曲等
- 第12回 リスト(3)《ソナタ》《バラード》《メフィストワルツ》《ハンガリー狂詩曲》《スペイン狂詩曲》等
- 第13回 ブラームス(1)《ソナタ》《変奏曲》
- 第14回 ブラームス(2)《小品集》等
- 第15回 まとめ

* 各回の課題は学生と相談しながら決めます。

◆準備学習の内容◆

1. ピアノ専攻の受講生は担当する課題曲を練習し、その曲の演奏解釈について考察しておく。その際、作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成に留意すること。
 2. 理論系の受講生は作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成等についてプレゼンテーションを行う。
- 両者が互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

◆成績評価の方法◆

授業への取組状況により、総合的に評価する。課題に対するフィードバックを授業内で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F. Chopin: National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin: A New Critical Edition (Edition Peters).
- ・R. Schumann: Sämtliche Klavierwerke (Henle Verlag).
- ・F. Liszt: Neue Ausgabe Sämtlicher Werke (Edito Musica Budapest).

◆参考図書◆

- J. J. エーゲルディング『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005)
- Józef Michał Chomiński and Teresa Dalila Turło “A catalogue of the Works of Frederick Chopin” (PWM, 1990).
- K. Hofmann und S. Keil “Robert Schumann: Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens” (Schuberth, 1982).
- A. Walker “Frantz Liszt” (Alfred A. Knopf, 1983).

◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-422	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家によるアーティキュレーションが不完全な作品(主にバロックの鍵盤作品および古典派初期の作品)も自分で適切に処理できるよう、18世紀～19世紀初頭のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を学び、身につける。

◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものが散見される。基本的なスラーやスタッカートの用法において、古典派の時代とその後の時代に差があることを学習し、それを自身の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

- 1) ガイダンス
- 2) 今後の研究に役立つと思われる参考図書の紹介
- 3) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(前半)
- 4) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(後半)
- 5) 視聴したDVDの内容のまとめと18世紀の理論書の紹介
- 6) 抑揚に関して考える
- 7) レガートとスタッカートに関する考察
- 8) ベートーヴェンのスタッカートに関して(児島新による論考を吟味する)
- 9) ソナチネアルバムの問題点(1) 古典の教材として一般的な『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を考察する。
- 10) ソナチネアルバムの問題点(2) 『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を引き続き考察する。
- 11) ブルクミュラー研究(1) 『25の練習曲』第1～12番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を考察する。
- 12) ブルクミュラー研究(2) 『25の練習曲』第13～25番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を引き続き考察する。
- 13) アーティキュレーションの書き込み実習(1)
- 14) アーティキュレーションの書き込み実習(2)
- 15) 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中には扱われている問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

◆成績評価の方法◆

前期に学習した古典派に関するアーティキュレーション書法のポイントをわかりやすく整理したレポートを提出する。それに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	2年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

◆授業内容・計画◆

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

第1回：授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回：1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回：1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回：2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回：2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回：2曲目の作品(3)演奏法

第7回：様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回：3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回：3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回：3曲目の作品(3)演奏法

第11回：様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回：ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回：ミニ・コンサートのリハーサル

第14回：ミニ・コンサート

第15回：まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B II		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

前期の学習成果を踏まえ、ロマン派ピアノ音楽をその作曲家及び時代の様式を考慮して更に優れた演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担し、演奏法の研究を行う。随時マニユスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行う。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ショパン(1)《ソナタ》
- 第3回 ショパン(2)《ポロネーズ》
- 第4回 ショパン(3)《ワルツ》
- 第5回 ショパン(4)《マズルカ》
- 第6回 シューベルト(1)《即興曲》《楽興の時》等
- 第7回 シューベルト(2)《ソナタ》前半
- 第8回 シューベルト(3)《ソナタ》後半
- 第9回 シューマン(1)1840年以前の作品前半
- 第10回 シューマン(2)1840年以前の作品後半
- 第11回 シューマン(3)1840年以降の作品
- 第12回 ブラームス(1)《ソナタ》
- 第13回 ブラームス(2)《変奏曲》
- 第14回 ブラームス(3)《幻想曲》《間奏曲》《バラード》等
- 第15回 まとめ

* 各回の課題は受講生と相談しながら決めます。

◆準備学習の内容◆

1. ピアノ専攻の受講生は担当する課題曲を練習し、その曲の演奏解釈について考察しておく。その際、作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成に留意すること。
2. 理論系の受講生は作曲家の様式、作品の成立背景や楽曲構成等についてプレゼンテーションを行う。両者が互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び参加状況により、総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業の中で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F. Chopin: National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin: A New Critical Edition (Edition Peters).
- ・R. Schumann: Sämtliche Klavierwerke (Henle Verlag).
- ・F. Liszt: Neue Ausgabe Sämtlicher Werke (Editio Musica Budapest).

◆参考図書◆

- ・J. J. エーゲルディング『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005)
- ・Józef Michał Chomiński and Teresa Dalila Turło "A catalogue of the Works of Frederick Chopin" (PWM, 1990).
- ・K. Hofmann und S. Keil "Robert Schumann: Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens" (Schuberth, 1982).
- ・A. Walker "Frantz Liszt" (Alfred A. Knopf, 1983).

◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B II		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-422	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

前期で学んだことに加え、モーツァルトの書法に関して詳細に研究することによってウィーン古典派のアーティキュレーションへの理解を深める。

◆授業内容・計画◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』を使用して授業を進める。

- 1)モーツァルトの響きの世界
- 2)モーツァルトのデュナーミク(1)
- 3)モーツァルトのデュナーミク(2)
- 4)テンポとリズムの問題(1)
- 5)テンポとリズムの問題(2)
- 6)モーツァルトのアーティキュレーション(1)
- 7)モーツァルトのアーティキュレーション(2)
- 8)モーツァルトの装飾音(1)
- 9)モーツァルトの装飾音(2)
- 10)カデンツァとアインガング
- 11)アインガングの創作実習
- 12)モーツァルトの出版楽譜情報
- 13)古典派の書法に関するプレゼンテーション(1)
- 14)古典派の書法に関するプレゼンテーション(2)
- 15)後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

授業対象として予告された章に1時間程度かけて目を通し、概略を把握しておくこと。内容の要約を準備し、授業内で発表できるようにしておくこと。その際にモーツァルト以外の作品でも類似したケースがないか探索し、求めに応じて提示できるよう準備しておくことが望ましい(楽譜の当該箇所のコピーを作成しておくこと)。

◆成績評価の方法◆

モーツァルトのピアノ作品より任意の1曲あるいは楽章を選択し、そこに含まれるアーティキュレーションの特徴や留意点に関するプレゼンテーションを行う。これに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』(今井顕監訳、音楽之友社、2016年)他

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究BⅡ		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	2年	クラス	03
講義室	N-409	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

◆授業内容・計画◆

(前期に習得したものをレベルアップする)

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第13回及び第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

- 第1回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第2回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第3回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第4回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第5回:2曲目の作品(3)演奏法
- 第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第7回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第8回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第9回:3曲目の作品(3)演奏法
- 第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ
- 第12回:ミニ・コンサートのリハーサル
- 第13回:ミニ・コンサート①
- 第14回:ミニ・コンサート②
- 第15回:まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MSS705N		
科目名	伴奏研究 I		
科目詳細	声楽系 オムニバス形式		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に置き、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。
 第1回ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(花岡)
 第2回ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(花岡)
 第3回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第4回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第5回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第6回フランス系作品、英語作品、ロシア作品(花岡)
 第7回フランス系作品、英語作品、ロシア作品(花岡)
 第8回イタリアの古典、ロマン派歌曲(河原)
 第9回イタリアの古典、ロマン派歌曲(河原)
 第10回イタリアの古典、ロマン派歌曲(河原)
 第11回イタリアの古典、ロマン派歌曲(河原)
 第12回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)
 第13回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)
 第14回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)
 第15回 授業のまとめ(花岡)

◆準備学習の内容◆

伴奏の読み取りはもちろんのこと、歌詞についても、自分なりに解説し、解釈もしておく。朗読をピアニストにしてもらうこともある。

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、随時出す課題についてフィードバックする等総合的に評価し、成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。楽譜については各教員の指示に従うように。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

大学院での学習やその遂行状況は、将来の自分の仕事に直結するものである。そのことを常に忘れないように。

ナンバリング	MSS705N		
科目名	伴奏研究 I		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。
共演者とのコミュニケーションの方法を理解することができる。

◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学ぶ。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスン可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整とは
- 14) 研究発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。
事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。
曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS706N		
科目名	伴奏研究Ⅱ		
科目詳細	声楽系 オムニバス形式		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。
 第1回ドイツ後期ロマン派歌曲を巡って(花岡)
 第2回ドイツ後期ロマン派歌曲を巡って(花岡)
 第3回ドイツ後期ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第4回ドイツ後期ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第5回ロシア系作品(花岡)
 第6回ロシア系作品(花岡)
 第7回イタリアの近代歌曲を巡って(河原)
 第8回イタリアの近代歌曲を巡って(河原)
 第9回イタリアの近代歌曲を巡って(河原)
 第10回イタリアの近代歌曲を巡って(河原)
 第11回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)
 第12回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)
 第13回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)
 第14回 授業のまとめ①(河原)
 第15回 授業のまとめ②(花岡)

◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと、歌詞についても解説、解釈してくること。時によってはピアニストに朗読してもらうこともある。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックする等、併せて評価し、成績をつける

◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、担当教員より指示のあることもある

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

この授業の内容が、即戦力となりえるので、緊張感を持って学習するように。それぞれの分野のエキスパートの先生方に、積極的に関わっていくこと。

ナンバリング	MSS706N		
科目名	伴奏研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者とのコミュニケーションを図り、自発的な音楽表現ができる。

◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学ぶ。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスン可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整とは
- 14) 研究発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。
曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS707N		
科目名	伴奏研究Ⅲ		
科目詳細	声楽系 オムニバス形式		
担当教員	花岡 千春		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。
 第1回ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(花岡)
 第2回ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(花岡)
 第3回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第4回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第5回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第6回フランス系作品と、英語作品(花岡)
 第7回フランス系作品と、英語作品(花岡)
 第8回イタリアの古典派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第9回イタリアの古典派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第10回イタリアの古典派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第11回イタリアの古典派、ロマン派歌曲を巡って(河原)
 第12回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)
 第13回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)
 第14回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)
 第15回 授業のまとめ(花岡)

◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと、歌詞についても解説、解釈してくること。時によってはピアニストに朗読してもらうこともある。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価し、成績をつける。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、担当教員から指示のある場合もある。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

この授業の内容が、即戦力となりえるので、緊張感を持って学習するように。それぞれの分野のエキスパートの先生方に、積極的に関わっていくこと。

ナンバリング	MSS707N		
科目名	伴奏研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使し、共演者と一体となって自発的な音楽表現ができる。

◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学び、特に中間発表に向けて演奏を練り上げていく。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスン可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整とは
- 14) 研究発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。

事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。

曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS708N		
科目名	伴奏研究Ⅳ		
科目詳細	声楽系 オムニバス形式		
担当教員	花岡 千春		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。
 第1回ドイツロマン派、近代歌曲を巡って(花岡)
 第2回ドイツロマン派、近代歌曲を巡って(花岡)
 第3回ドイツロマン派、近代歌曲を巡って(河原)
 第4回ドイツロマン派、近代歌曲を巡って(河原)
 第5回ロシアの歌曲作品(花岡)
 第6回ロシアの歌曲作品(花岡)
 第7回イタリアの近代、現代歌曲を巡って(河原)
 第8回イタリアの近代、現代歌曲を巡って(河原)
 第9回イタリアの近代、現代歌曲を巡って(河原)
 第10回イタリアの近代、現代歌曲を巡って(河原)
 第11回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)
 第12回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)
 第13回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)
 第14回 授業のまとめ①(河原)
 第15回 授業のまとめ②(花岡)

◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと、歌詞についても解説、解釈してくること。時によってはピアニストに朗読してもらうこともある。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックする等、併せて評価し、成績をつける

◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、担当教員より指示のある場合もある

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

この授業の内容が、即戦力となりえるので、緊張感を持って学習するように。それぞれの分野のエキスパートの先生方に、積極的に関わっていくこと。

ナンバリング	MSS708N		
科目名	伴奏研究IV		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使し、共演者と一体となって自発的な音楽表現ができる。公開演奏を想定して自らの演奏を客観的にとらえることができる。

◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学び、特に修了演奏に向けて演奏を練り上げていく。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスンも可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 修了演奏に向けての調整について
- 14) 演奏発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。

事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。

曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS709N		
科目名	室内楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

他楽器とのアンサンブルを通じて幅広い経験を積み、より柔軟な表現力を習得する。リハーサルの展開に当たってパートナーに何をどのように提案すべきかを深く考え、それを的確に発言できるスキルと積極性を培うのが、最大の目標である。

◆授業内容・計画◆

さまざまな楽器とのアンサンブル作品を準備する。指導教員の指示に従うだけの受動的な演奏改善を目的とせず、演奏者自身が演奏上の問題点に気づき、それらを自らの提案によって改善に寄与するリハーサルを構築できるよう努力する。

- 1) ガイダンス
- 2) 各楽器の特性と演奏技術的な特性に関する発表(楽器の紹介)
- 3) ヴァイオリンとピアノを含むアンサンブル(1): バロック～古典派の作品
- 4) フルートとピアノを含むアンサンブル(1a): バロック～古典派の作品
- 5) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(1a)
- 6) フルートとピアノを含むアンサンブル(1b): バロック～古典派の他の作品
- 7) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(1b): 前回とは異なる作品
- 8) ヴァイオリンとピアノを含むアンサンブル(2): 前回とは異なる楽章または作品
- 9) フルートとピアノを含むアンサンブル(2a): 前回とは異なる楽章または作品
- 10) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(2a): 前回とは異なる楽章または作品
- 11) フルートとピアノを含むアンサンブル(2b): 前回とは異なる楽章または作品
- 12) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(2b): 前回とは異なる楽章または作品
- 13) ヴァイオリン、フルート、打楽器およびピアノを含むアンサンブル(1): 今までの演習で不十分だった作品の演奏法を継続して研究する。
- 14) ヴァイオリン、フルート、打楽器およびピアノを含むアンサンブル(2): 今までの演習で不十分だった作品で、前回とは異なる作品の演奏法を継続して研究する。
- 15) ヴァイオリン、フルート、打楽器およびピアノを含むアンサンブル(3): 今までの演習で不十分だった作品で、前回および前々回とは異なる作品の演奏法を継続して研究する。

◆準備学習の内容◆

授業はソロ楽器(ヴァイオリン、フルート、打楽器)とピアノを含んだアンサンブル作品を軸に展開される。授業開始時に扱う作品は授業開始前に行われる総合ガイダンスの際に頒布し、その後の履修作品に関しては授業内で指示する。アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につきる。自分が担当する作品においては、演奏するパートの技術的な準備のみならず、それが音楽全体の中で何を担うべきかを1時間以上の時間をかけて事前に詳細に考察し、パートナーとの音楽的連携を理解しておくこと。気がついたことは自分の楽譜に書き込んでおくことを推奨する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。そのための楽譜の入手方法に関しては授業内で指示する。これを利用して、自分が演奏しない作品の楽譜にも事前に確認し、実際のアンサンブルの際にどのような配慮が必要になるかを予測しておくこと。

◆成績評価の方法◆

演奏の完成度を評価対象にするのではなく、事前の演奏準備の綿密さ、リハーサルを展開する際の創意工夫や積極性を重視するとともに、平常の授業への取り組み(自分が演奏しない場合も含む)によって評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。「留意事項」も参照のこと。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

授業は定刻に開始し、出欠をとる。その時点で音出しができる状況を整えておくこと。遅刻および無届けの早退は成績評価の対象となる。何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員およびアンサンブルのパートナーに連絡すること。

ナンバリング	MSS710N		
科目名	室内楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

前期で経験したことに加え、さらに経験を積むべく演習を継続する。

◆授業内容・計画◆

さまざまな楽器とのアンサンブル作品を準備する。前期と同様、演奏者自身の力によってリハーサルを進行させる力を養うことを目的とする。

- 1) ヴァイオリンとピアノを含むアンサンブル(1): ロマン派以降の作品
- 2) フルートとピアノを含むアンサンブル(1a): ロマン派以降の作品
- 3) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(1a): 前期で扱ったものとは違う作品
- 4) フルートとピアノを含むアンサンブル(1b): 前回とは異なる作品
- 5) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(1b): 前回とは異なる作品
- 6) ヴァイオリンとピアノを含むアンサンブル(2): 前回とは異なる楽章または作品
- 7) フルートとピアノを含むアンサンブル(2a): 前回とは異なる楽章または作品
- 8) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(2a): 前回とは異なる作品
- 9) フルートとピアノを含むアンサンブル(2b): 前回とは異なる作品
- 10) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(2b): 前回とは異なる作品
- 11) ヴァイオリンとピアノを含むアンサンブル(3): コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 12) フルートとピアノを含むアンサンブル(3a): コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 13) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(3a): コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 14) フルートとピアノを含むアンサンブル(3b): まだまとまりが不十分と思われるものをさらに仕上げる。
- 15) 打楽器とピアノを含むアンサンブル(3b): まだまとまりが不十分と思われるものをさらに仕上げる。

◆準備学習の内容◆

アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につける。自分が担当する作品においては、演奏するパートの技術的な準備のみならず、それが音楽全体の中で何を担うべきかを事前に1時間以上の時間をかけて詳細に考察し、パートナーとの音楽的連携を理解しておくこと。気がついたことは自分の楽譜に書き込んでおくことを推奨する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。そのための楽譜の入手方法に関しては授業内で指示する。これを利用して、自分が演奏しない作品の楽譜にも事前に確認し、実際のアンサンブルの際にどのような配慮が必要になるかを予測しておくこと。

◆成績評価の方法◆

演奏の完成度を評価対象にするのではなく、事前の演奏準備の綿密さ、リハーサルを展開する際の創意工夫や積極性を重視するとともに、平常の授業への取り組み(自分が演奏しない場合も含む)によって評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。「留意事項」も参照のこと。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

授業は定刻に開始し、出欠をとる。その時点で音出しができる状況を整えておくこと。遅刻および無届けの早退は成績評価の対象となる。何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員およびアンサンブルのパートナーに連絡すること。

ナンバリング	MSL701U		
科目名	作品研究(器楽) I		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

演奏するということの本質的な問題を考え、楽譜を読み、精神的により深い演奏が出来るようになる

◆授業内容・計画◆

- 1回目 演奏解釈とは
- 2回目 フレーズ構成と文章構造の関係
- 3回目 楽譜の読み方。(音組織を時間の中での持続として示すために)
- 4回目 音楽する人間の精神の働きについて
- 5回目 演奏に伴う技術の問題について
- 6回目 古典派ソナタ形式について(エマヌエル・バッハ、ハイドン、モーツァルトのソナタ形式)
- 7回目 ベートーヴェン研究その1(ボン時代からウィーン初期作品)
- 8回目 ベートーヴェン研究その2(初期ソナタ形式の分析と演奏法)
- 9回目 ベートーヴェン研究その3(中期ソナタの分析と演奏法)
- 10回目 ベートーヴェン研究その4(後期ソナタの研究)
- 11回目 芸術運動としてのロマン主義について
- 12回目 シューベルトの音楽(ロマン派音楽の形式的特徴)
- 13回目 シューマンの音楽(作品の構造分析と演奏法)
- 14回目 シューマンの音楽(室内楽を巡って)
- 15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

作品の研究に当たっては指示された曲の楽譜を用意し授業の理解の為に充分予習すること。

◆成績評価の方法◆

授業に参加する態度や、実際に演奏に対してのフィードバックをする。授業参加への積極性を評価の対象とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

別に無し

◆参考図書◆

授業の中で推奨する本を述べるので読むこと。

◆留意事項◆

様々な器楽奏者が集まる授業であるから、他の楽器に対する知識を深め音楽する上での共通の問題を見つけ出して各自の成長に役立ててほしい。

ナンバリング	MSL702U		
科目名	作品研究(器楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

演奏する人間の精神と肉体に起こる様々な現象を意識化して自分自身を知り、各自の個性に従った演奏力を高めることができる

◆授業内容・計画◆

- 1回目 音を聴く力。(視覚と聴覚の違い。質的なものを直覚できる耳)
- 2回目 計測できるものと計測できないもの。(情念と身体の関係について)
- 3回目 音を作る。音楽家にとっての音の意味を問う。
- 4回目 ロマン派作品の諸相(前編)
- 5回目 ロマン派作品の諸相(中編)
- 6回目 ロマン派作品の諸相(後編)
- 7回目 20世紀の音楽
- 8回目 演奏研究その1(フルートの作品)(前半)
8回目からは授業に参加している学生の希望により各楽器の作品を研究する
- 9回目 演奏研究その2(ヴァイオリンの作品)(前半)
- 10回目 演奏研究その3(ヴァイオリンの作品)
- 11回目 演奏研究その4(打楽器の作品)
- 12回目 演奏研究その5(フルートの作品)(後半)
- 13回目 演奏研究その6(打楽器の作品)(後半)
- 14回目 演奏する行為の意味を考える
- 15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

研究する曲の楽譜を用意し調べて授業に臨むことが望まれる。

◆成績評価の方法◆

授業に参加する態度、及び演奏参加する積極性をフィードバックして評価の判断とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業ごとに指示する

◆参考図書◆

授業の中で推奨する本を提示する

◆留意事項◆

様々な楽器奏者が集う授業であるから、他の楽器に対する知識を深め演奏力の向上に努めてほしい。

ナンバリング	MSS711N		
科目名	室内楽演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	三木 香代		
学年	2年	クラス	01
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽曲について、時代様式や編成されている各楽器の特徴をとらえ、アンサンブルに不可欠な音楽表現要素を考慮して演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

授業は公開レッスン形式で進め、問題点やその解決法について様々な角度から考察することで、アンサンブル能力とともにバランスの取れた音楽的感覚を磨く。履修曲目は履修者の専攻楽器によって柔軟に対応する。

〈授業スケジュール〉

- 1) ガイダンスと選曲
- 2) 室内楽曲レパートリー概観
- 3) 各楽器の特性の理解とその実際
- 4) 作品分析と演奏への活用
- 5) 作品の背景の理解と演奏への応用
- 6) 各パートの研究
- 7) 拍感、呼吸の共有とその実際
- 8) 音量バランスの調整
- 9) 音楽解釈の討議と統合
- 10) 演奏全体の調和とその俯瞰
- 11) 問題点の検討と自己修正
- 12) 奏者間のコミュニケーション
- 13) 室内楽演奏の必須項目
- 14) 演奏発表と合評
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。
演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。(目安90分)
履修学生全員が授業内で演奏される曲のスコアを閲覧できるよう準備すること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』練木繁夫著(春秋社)

◆留意事項◆

チェロについては演奏助手が共演する。
ソロでは体験できない、他者と音楽を作り上げる喜びを感じてほしい。

ナンバリング	MSS712N		
科目名	室内楽演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	三木 香代		
学年	2年	クラス	01
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽曲について、時代様式や編成されている各楽器の特徴をとらえ、アンサンブルに不可欠な音楽表現要素を考慮して演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

授業は公開レッスン形式で進め、問題点やその解決法について様々な角度から考察することで、アンサンブル能力とともにバランスの取れた音楽的感覚を磨く。履修曲目は履修者の専攻楽器によって柔軟に対応する。後期ではさらにレパートリーの拡大を目指す。

〈授業スケジュール〉

- 1) ガイダンスと選曲
- 2) 室内楽曲レパートリー概観
- 3) 各楽器の特性の理解とその実際
- 4) 作品分析と演奏への活用
- 5) 作品の背景の理解と演奏への応用
- 6) 各パートの研究
- 7) 拍感、呼吸の共有とその実際
- 8) 音量バランスの調整
- 9) 音楽解釈の討議と統合
- 10) 演奏全体の調和とその俯瞰
- 11) 問題点の検討と自己修正
- 12) 奏者間のコミュニケーション
- 13) 室内楽演奏の必須項目
- 14) 演奏発表と合評
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。
演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。(目安90分)
履修学生全員が授業内で演奏される曲のスコアを閲覧できるよう準備すること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』練木繁夫著(春秋社)

◆留意事項◆

チェロについては演奏助手が共演する。
ソロでは体験できない、他者と音楽を作り上げる喜びを感じてほしい。

ナンバリング	MSL703U		
科目名	原典講読(鍵盤楽器) I		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

歌詞を知悉することは、歌曲伴奏において必須のことである。自らが専門としたい言語系はもちろんであるが、それ以外の言語系の文学作品について知っておくことも重要である。様々な言語の文学作品に触れ、将来の演奏の現場での実用につなげて行くことを目指す。

◆授業内容・計画◆

4名の教員によるオムニバス形式の講義が展開される。

第1回(花岡)通年の授業計画が示され、授業の方法について実際に学習、演習をし、原典購読の意義について理解する。

第2回(加納)ドイツの文学思潮の大きな流れ、ドイツの社会史を含めて、理解を深める

第3回(加納)ドイツ古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈

第4回(加納)ドイツ古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈

第5回(加納)ドイツ古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈

第6回(河原)イタリア古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈。ペトルルカやダンテ

第7回(河原)イタリア古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈。ペトルルカやダンテ

第8回(河原)イタリア古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈。ペトルルカやダンテ

第9回(武内)フランス古典からロマン派作品に至る文学作品の解説、解釈。ユーゴーを中心に

第10回(武内)フランス古典からロマン派作品に至る文学作品の解説、解釈。ユーゴーを中心に

第11回(武内)フランス古典からロマン派作品に至る文学作品の解説、解釈。ユーゴーを中心に

第12回(花岡)日本の上代から白秋に至る詩歌作品の解説と解釈

第13回(花岡)日本の上代から白秋に至る詩歌作品の解説と解釈

第14回(花岡)日本の上代から白秋に至る詩歌作品の解説と解釈

第15回 前期授業のまとめと、後期の課題の確認

◆準備学習の内容◆

課題として出された文学作品について、自力で読解し、解釈出来るようにしておく。

時には課題となる作品を使用している音楽作品をめぐる演習もあり得るので、歌い手と用意しておくことも必要となろう。

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価し、成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度、講師から示される。共通の教科書などはない。

◆参考図書◆

その都度、講師から示される。各言語の辞書は用意しておくように。

◆留意事項◆

負担も大きいですが、将来必ず役に立つ学修内容であるから、確かな意識を持って取り組むように。

ナンバリング	MSL704U		
科目名	原典講読(鍵盤楽器)Ⅱ		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

歌詞を知悉することは、歌曲伴奏において必須のことである。自らが専門としたい言語系はもちろんであるが、それ以外の言語系の文学作品について知っておくことも重要である。様々な言語の文学作品に触れ、将来の演奏の現場での実用につなげていくことを目指す。

◆授業内容・計画◆

4名の教員によって、オムニバス形式で行われる

第1回 (加納)ドイツのロマン派以降の作品の解説と解釈

第2回 同上

第3回 同上

第4回 同上

第5回 (河原)イタリアのロマン派以降の作品の解説と解釈。ダヌツィオなど

第6回 同上

第7回 同上

第8回 (武内)フランスのロマン派以降の作品の解説と解釈 アポリネール、エリュアール、コクトー、etc

第9回 同上

第10回 同上

第11回 (花岡)日本の詩歌作品。昭和以降の作品の解説と解釈。三好達治を中心に

第12回 同上

第13回 同上

第14回 講義全体のまとめ①、演奏者として歌曲作品の詩に対してどのようなアプローチの仕方が考えられるか、を考えてみる。

第15回 講義全体のまとめ②、演奏者として歌曲作品の詩に対してどのようなアプローチの仕方が考えられるか、を考えてみる。

◆準備学習の内容◆

課題として出された文学作品について、自分で読解し、解釈できるようにしておく。

時には課題となる文学作品をめぐる演習もあり得るので、歌い手と用意しておくことも必要になろう。

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価し、成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度、講師から示される。共通の教科書などはない。

◆参考図書◆

その都度、講師から示される。各言語の辞書は用意しておくように。

◆留意事項◆

負担も大きいですが、将来必ず役に立つ学習内容であるから、確かな意識を持って取り組むように。

ナンバリング	MSL705U		
科目名	ピアノ教育研究 I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-422	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ピアノをはじめとした器楽演奏の指導に必要な知識を深め、より効果的な指導を行うための考察を行う。

◆授業内容・計画◆

前期はメンタル面における留意点、およびコーチ力の概要に関して学ぶ。会得した知識を自身の演奏に役立てるとともに、指導者としての能力を高める助けとする。

- 1) ガイダンス
- 2) 自分自身が受けてきた音楽教育とステージ経験をふり返り、良かったこと、疑問に思ったこと、あわせて自分自身がめざしたい音楽教育者のポイント(目標)を発表する。
- 3) 「心の法則」の概念を学ぶ。
- 4) 「セルフイメージ」に関して学ぶ。
- 5) コーチ力の原点(1)理解する力
- 6) コーチ力の原点(2)見通す力
- 7) コーチ力の原点(3)愛する力
- 8) コーチ力の原点(4)行動する力
- 9) コーチ力の原点(5)楽しむ力
- 10) 「結果エントリー」と「心エントリー」について
- 11) サクソフォーンの指導を題材としたDVDを鑑賞する。
- 12) 鑑賞したDVDの感想を述べ合い、それぞれの指導法のメリット・デメリットを評価する。
- 13) ディスカッション:コンペティションの是非と教育的価値(例)に関して自由に討議する。
- 14) ディスカッション:前回とは別の課題に関する自由な討議を行う。
- 15) 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中に扱われた問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

◆成績評価の方法◆

与えられたテーマに関するレポートの返却、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

ピアノ専攻ではない者にも役立つ内容が多く含まれている。

ナンバリング	MSL706U		
科目名	ピアノ教育研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-422	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

前期で学んだことに加え、さらに知識を増やすべく研究を継続する。

◆授業内容・計画◆

後期の授業は「言葉で説明する」重要性に重点をおいて展開される。イタリア語の音楽用語の用法を再確認し、言葉のイメージや真意を考察するとともに、「特定のイメージを相手にわかる言葉で表現する」練習を行う。またピアノの構造に関する理解を深め、より効率のよい奏法や練習方法の開発に役立つポイントを研究する。加えて、原典版と楽譜編集に関する情報を充実させ、教材として使用する楽譜の選定に役立つ知識を習得する。

- 1) ガイダンス
- 2) 音楽楽語の研究(1)速度に関する表記
- 3) 音楽楽語の研究(2)強弱に関する表記
- 4) 音楽楽語の研究(3)表情に関する表記
- 5) 音楽楽語の研究(4)その他の留意点
- 6) 原典版とその編集に関する概要
- 7) ベートーヴェン「月光ソナタ」を題材とした原典資料の吟味
- 8) 今井版ソナチネアルバムに関する情報と解説
- 9) 今井版モーツァルトソナタアルバムに関する情報と解説
- 10) フォルテピアノの試弾
- 11) ペダリングに関する考察と指導法研究
- 12) ピアノのメンテナンスに関して
- 13) ディスカッション: そもそも「練習」とは?(例)
- 14) ディスカッション: 前回とは別の課題に関する自由な討議を行う
- 15) 後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中には扱われている問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

◆成績評価の方法◆

与えられたテーマに関するレポートの返却、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

ピアノ専攻ではない者にも役立つ内容が含まれている。

ナンバリング	MSP705N		
科目名	器楽(弦管打)演習 I		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

演奏家、教育者になるための基礎的なノウハウを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)①ドイツ人作曲家
- 第3回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)①ドイツ人作曲家
- 第4回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)①ドイツ人作曲家
- 第5回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)②フランス人作曲家
- 第6回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)②フランス人作曲家
- 第7回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)②フランス人作曲家
- 第8回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)③イタリア人作曲家
- 第9回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)③イタリア人作曲家
- 第10回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)③イタリア人作曲家
- 第11回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)④諸国の作曲家
- 第12回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)④諸国の作曲家
- 第13回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)④諸国の作曲家
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
課題については、授業内で毎回、フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進捗等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP706N		
科目名	器楽(弦管打)演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

器楽(弦管打)演習Ⅰを踏まえ、演奏家、教育者になるための基礎的なノウハウを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)①ドイツ人作曲家
- 第3回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)①ドイツ人作曲家
- 第4回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)①ドイツ人作曲家
- 第5回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)②フランス人作曲家
- 第6回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)②フランス人作曲家
- 第7回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)②フランス人作曲家
- 第8回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)③イタリア人作曲家
- 第9回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)③イタリア人作曲家
- 第10回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)③イタリア人作曲家
- 第11回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)④諸国の作曲家
- 第12回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)④諸国の作曲家
- 第13回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)④諸国の作曲家
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
課題については、授業内で毎回、フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進捗等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP707N		
科目名	器楽(弦管打)演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

演奏家、教育者になるためのノウハウを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 協奏曲作品研究①ドイツ人作曲家
- 第3回 協奏曲作品研究②フランス人作曲家
- 第4回 協奏曲作品研究③イタリア人作曲家
- 第5回 協奏曲作品研究④諸国の作曲家
- 第6回 中間発表に向けてのプログラム研究①無伴奏
- 第7回 中間発表に向けてのプログラム研究②ピアノ伴奏
- 第8回 中間発表に向けてのプログラム研究③室内楽作品
- 第9回 中間発表に向けてのプログラム研究④協奏曲作品
- 第10回 中間発表に向けて①(演奏表現の工夫:曲目別)
- 第11回 中間発表に向けて②(演奏表現の工夫:プログラム全体を通して)
- 第12回 中間発表の振り返り
- 第13回 研究報告と修了演奏プログラムの関連について
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
課題については、授業内で毎回、フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進捗等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP708N		
科目名	器楽(弦管打)演習IV		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

演奏家、教育者になるためのノウハウを身に付ける。修了演奏でその成果を発揮する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 修了演奏会に向けてのプログラム研究①無伴奏
- 第3回 修了演奏会に向けてのプログラム研究②ピアノ伴奏
- 第4回 修了演奏会に向けてのプログラム研究③室内楽作品
- 第5回 修了演奏会に向けてのプログラム研究④協奏曲
- 第6回 修了演奏プログラム仮決定
- 第7回 修了演奏プログラムの検討①無伴奏
- 第8回 修了演奏プログラムの検討②ピアノ伴奏
- 第9回 修了演奏プログラムの検討③室内楽作品
- 第10回 修了演奏プログラムの検討④協奏曲
- 第11回 修了演奏プログラム最終決定
- 第12回 修了演奏に向けて①(演奏表現の工夫:曲目別)
- 第13回 修了演奏に向けて②(演奏表現の工夫:プログラム全体を通して)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

授業内指示。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
毎回の授業で出される課題の達成度を含め、総合的に判断する。
課題は常に授業内においてフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進捗等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSS713U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	永峰 高志		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

レパートリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスとディスカッション体験
- 第3回 フルートソロ(学生A): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 フルートソロ(学生B): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 ヴァイオリンソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 クラリネットソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 マリンバソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第8回 ソロ演奏に関する振り返りと重奏・協奏曲の進め方等
- 第9回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第10回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第11回 クラリネット二重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第12回 打楽器コンチェルト<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第13回 クラス内発表会に向けて(プログラム構成と演奏曲決定)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安: 毎日2時間以上)

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS714U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	永峰 高志		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

レパートリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということとはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(前期の振り返りと後期の授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスと解説及びディスカッション
- 第3回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 クラリネット二重奏<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 打楽器コンチェルト<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 重奏・協奏曲の振り返りと試験曲に関する留意点等
- 第8回 フルートソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(課題確認)
- 第9回 ヴァイオリンソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(課題確認)
- 第10回 打楽器ソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(課題確認)
- 第11回 フルートソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第12回 ヴァイオリンソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第13回 打楽器ソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第14回 試験に向けた試演会開催
- 第15回 1年間の授業の振り返り

◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安: 毎日2時間以上)

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS715U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	永峰 高志		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

修了試験プログラムを題材にし、ステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスとディスカッション体験
- 第3回 フルートソロ(学生A): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 フルートソロ(学生B): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 ヴァイオリンソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 クラリネットソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 マリンバソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第8回 ソロ演奏に関する振り返りと重奏・協奏曲の進め方等
- 第9回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第10回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第11回 クラリネット二重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第12回 打楽器コンチェルト<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第13回 クラス内発表会に向けて(プログラム構成と演奏曲決定)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安: 毎日2時間以上)

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS716U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	永峰 高志		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

修了試験プログラムを題材にし、ステージマナーも含め、演奏するということとはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(前期の振り返りと後期の授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスと解説及びディスカッション
- 第3回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 クラリネット二重奏<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 打楽器コンチェルト<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 重奏・協奏曲の振り返りと試験曲に関する留意点等
- 第8回 フルートソロ<試験曲>演奏とディスカッション(課題確認)
- 第9回 ヴァイオリンソロ<試験曲>演奏とディスカッション(課題確認)
- 第10回 打楽器ソロ<試験曲>演奏とディスカッション(課題確認)
- 第11回 フルートソロ<試験曲>演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第12回 ヴァイオリンソロ<試験曲>演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第13回 打楽器ソロ<試験曲>演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第14回 試験に向けた試演会開催
- 第15回 1年間の授業の振り返り

◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安:毎日2時間以上)

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MCS701N		
科目名	作曲演習 I		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作を完遂できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作個人レッスン1
- 7) 習作個人レッスン2
- 8) 習作個人レッスン3
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作個人レッスン1
- 11) 作品創作個人レッスン2
- 12) 作品創作個人レッスン3
- 13) 作品創作個人レッスン4
- 14) 作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)
 遙かなる他者のためのデザイン(久保田晃弘 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 アルゴリズムが世界を支配する(クリストファー・スタイナー 著/角川書店)
 溶けるデザイン(渡邊恵太 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)
 ゲーデル、エッシャー、バツハーあるいは不思議の環(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)
 Audible Design(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)
 Sound Composition(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS701N		
科目名	作曲演習 I		
科目詳細	作品創作		
担当教員	(作品創作)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)中間発表作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習 I」では、中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作為準備する。
 なお、編成についてはいずれも自由であるが、中間発表作品に関しては担当教員と相談し決定するものとする。
 中間発表作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、とくに以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 自主的作品創作の完成
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

◆成績評価の方法◆

作品創作の達成状況と授業への参加態度、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

中間発表作品は研究課題と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS701N		
科目名	作曲演習 I		
科目詳細	音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、音楽理論に関する課題を自ら設定し研究を行うことができる。(2)和声的書法、対位法的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習 I」では、主に2つの学修を平行して行う。

- 1) 修士論文執筆に向けた準備段階として関心がある時代、作曲家、書法などについて調査、分析する。
- 2) 創作和声、フーガなどを作曲し、音楽理論の書法について探求を行う。

授業内容

- 1) オリエンテーション
- 2) 時代様式の考察
- 3) 作曲家による様式の考察
- 4) 形式の考察
- 5) 楽器編成の考察
- 6) 和声的書法に関する考察
- 7) 創作和声(ソプラノ課題)作曲の個人レッスン①
- 8) 創作和声(ソプラノ課題)作曲の個人レッスン②
- 9) 創作和声(バス課題)作曲の個人レッスン①
- 10) 創作和声(バス課題)作曲の個人レッスン②
- 11) 対位法的書法に関する考察
- 12) フーガ作曲の個人レッスン①(主題と提示部)
- 13) フーガ作曲の個人レッスン②(嬉遊部)
- 14) フーガ作曲の個人レッスン③(追迫部)
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、研究の報告に対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

◆成績評価の方法◆

作曲課題の達成状況と研究の進捗状況、授業への参加態度。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS702N		
科目名	作曲演習Ⅱ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作を完遂できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作個人レッスン1
- 7) 習作個人レッスン2
- 8) 習作個人レッスン3
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作個人レッスン1
- 11) 作品創作個人レッスン2
- 12) 作品創作個人レッスン3
- 13) 作品創作個人レッスン4
- 14) 作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)
 遙かなる他者のためのデザイン(久保田晃弘 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 アルゴリズムが世界を支配する(クリストファー・スタイナー 著/角川書店)
 溶けるデザイン(渡邊恵太 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)
 ゲーデル、エッシャー、バツハーあるいは不思議の環(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)
 Audible Design(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)
 Sound Composition(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS702N		
科目名	作曲演習Ⅱ		
科目詳細	作品創作		
担当教員	(作品創作)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)中間発表作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅱ」では「作曲演習Ⅰ」の内容を踏まえて、中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作を完成させる。
 なお、編成についてはいずれも自由であるが、中間発表作品および修了作品に関しては担当教員と相談し決定することとする。
 「作曲演習Ⅰ」と同じに内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、とくに以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 中間発表作品の完成・パート譜作成等
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

◆成績評価の方法◆

中間発表の作品提出・演奏、平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

中間発表作品は研究課題と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS702N		
科目名	作曲演習Ⅱ		
科目詳細	音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、音楽理論に関する課題を自ら設定し研究を行うことができる。また研究内容に沿った中間発表作品を作曲し、発表することができる。(2)和声的書法、対位的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅱ」では「作曲演習Ⅰ」の内容を踏まえて、研究題目の決定にむけた絞り込み、中間発表に向けた作品創作とフーガの作曲を中心に行う。

授業内容

- 1) 第1 Semester 振り返り
- 2) 楽曲分析(任意の作曲家の作品)①
- 3) 楽曲分析(任意の作曲家の作品)②
- 4) 楽曲分析(任意の作曲家の作品)③
- 5) 楽曲分析に基づくレポートの作成①
- 6) 楽曲分析に基づくレポートの作成②
- 7) フーガ作曲①(主題と提示部)
- 8) フーガ作曲②(嬉遊部)
- 9) フーガ作曲③(追迫部)
- 10) 研究題目の絞り込み
- 11) 中間発表の作品創作①
- 12) 中間発表の作品創作②
- 13) 中間発表の作品創作③
- 14) 和声課題の分析、創作和声の作曲等
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、レポートに対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

◆成績評価の方法◆

中間発表の作品提出・演奏と、研究の進捗状況、平常の授業への取組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

中間発表作品は研究題目と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS703N		
科目名	作曲演習Ⅲ		
科目詳細	作品創作		
担当教員	(作品創作)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅲ」は「作曲演習Ⅱ」の内容を踏まえて、修了作品創作と自主的作品創作为準備する。
 なお、編成についてはいずれも自由であるが、修了作品に関しては担当教員と相談し決定することとする。
 修了作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 自主的作品創作の完成
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

◆成績評価の方法◆

作品創作の達成状況と授業への参加態度、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング	MCS703N		
科目名	作曲演習Ⅲ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた修了作品を完成できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作個人レッスン1
- 7) 習作個人レッスン2
- 8) 習作個人レッスン3
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作個人レッスン1
- 11) 作品創作個人レッスン2
- 12) 作品創作個人レッスン3
- 13) 作品創作個人レッスン4
- 14) 作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)
 遙かなる他者のためのデザイン(久保田晃弘 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 アルゴリズムが世界を支配する(クリストファー・スタイナー 著/角川書店)
 溶けるデザイン(渡邊恵太 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)
 ゲーデル、エッシャー、バツハーあるいは不思議の環(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)
 Audible Design(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)
 Sound Composition(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS703N		
科目名	作曲演習Ⅲ		
科目詳細	音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、自ら設定した音楽理論に関する研究題目に対し、研究を進めることができる。(2)和声的書法、対位的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅲ」は「作曲演習Ⅱ」の内容を踏まえて、次の3点に重点をおく。

- 1) 修了に向けて論文執筆の準備を行う。
- 2) 研究題目に沿った書法の洗練。
- 3) 創作和声、フーガの作曲。

授業内容

- 1) 第2セメスターの振り返り
- 2) 研究①(研究の目的、方法)
- 3) 研究②(資料の検討)
- 4) 研究③(楽曲分析)
- 5) 研究④(章立てと執筆の要点)
- 6) 創作和声(ソプラノ課題)の作曲①
- 7) 創作和声(ソプラノ課題)の作曲②
- 8) 創作和声(バス課題)の作曲①
- 9) 創作和声(バス課題)の作曲②
- 10) 自作主題によるフーガ作曲①(主題と提示部)
- 11) 自作主題によるフーガ作曲②(嬉遊部)
- 12) 自作主題によるフーガ作曲③(追迫部)
- 13) 題目と関連する作品の創作①(編成とプラン)
- 14) 題目と関連する作品の創作②(スケッチ又は小曲の作曲)
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、研究の報告に対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

◆成績評価の方法◆

作曲課題の達成状況と研究の進捗状況、授業への参加態度。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

修了作品は研究題目との関連性が明確に示せるものを作曲する。第3セメスターから様式や書法の研究を怠らないこと。

ナンバリング	MCS704N		
科目名	作曲演習Ⅳ		
科目詳細	作品創作		
担当教員	(作品創作)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅳ」では「作曲演習Ⅲ」の内容を踏まえて、修了作品創作と自主的作品創作を完成させる。
 なお、編成についてはいずれも自由であるが、修了作品に関しては担当教員と相談し決定することとする。
 修了作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 修了作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 修了作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 修了作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 修了作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 修了作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 修了作品の完成・パート譜作成等
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

◆成績評価の方法◆

修了審査会における作品提出・演奏審査と、最終試験における譜面及び研究報告の審査(面接)。
 その他、授業で随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング	MCS704N		
科目名	作曲演習Ⅳ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた修了作品を完成できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 修了作品創作への準備1
- 7) 修了作品創作への準備2
- 8) 修了作品創作への準備3
- 9) 修了作品創作の検討
- 10) 修了作品創作個人レッスン1
- 11) 修了作品創作個人レッスン2
- 12) 修了作品創作個人レッスン3
- 13) 修了作品創作個人レッスン4
- 14) 修了作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)
 遙かなる他者のためのデザイン(久保田晃弘 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 アルゴリズムが世界を支配する(クリストファー・スタイナー 著/角川書店)
 溶けるデザイン(渡邊恵太 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)
 ゲーデル、エッシャー、バツハーあるいは不思議の環(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)
 Audible Design(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)
 Sound Composition(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS704N		
科目名	作曲演習Ⅳ		
科目詳細	音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、自ら設定した音楽理論に関する研究題目の論文を完成させることができる。(2)論文題目に沿った内容の修了作品を完成させ、発表することができる。(3)和声的書法、対位法的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅳ」では「作曲演習Ⅲ」の内容を踏まえて次の2点に重点をおく。

- 1) 修了課題を完成させる。具体的には修士論文を執筆する。修了作品を創作し、修士演奏審査で発表する。
- 2) 書法の技術を洗練させ、創作和声、フーガを作曲する。

授業内容

- 1) 第3セメスターの振り返り
- 2) 研究①(執筆した部分のチェック)
- 3) 研究②(新たな資料の検討)
- 4) 研究③(楽曲分析)
- 5) 研究④(分析部分の執筆)
- 6) 研究⑤(論文内容の確定)
- 7) 研究⑥(論文の添削)
- 8) 修了作品作曲①
- 9) 修了作品作曲②
- 10) 修了作品作曲③
- 11) 創作和声の作曲①
- 12) 創作和声の作曲②
- 13) フーガ作曲①
- 14) フーガ作曲②
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、研究の報告に対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

◆成績評価の方法◆

修了審査会における作品提出・演奏審査と、最終試験における譜面及び論文の審査(面接)。
その他、授業で随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

修了作品は論文題目と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング	MCS707N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

第3セメスターでは、論文執筆に関わる事柄が中心となる。必要な資料の内容を分析・検討するなど、準備を進めながら少しずつ執筆を始める。

また、教材研究と自作教材作成、ソルフェージュ能力の向上のための訓練も継続する。

- 1)第2セメスターの内容の反省と第3セメスターの展望
- 2)論文指導①(研究の目的)
- 3)論文指導②(研究の概要・方法)
- 4)論文指導③(章立てと内容)
- 5)論文指導④(資料の選択と検討)
- 6)論文指導⑤(資料の分析)
- 7)論文指導⑥(文章の書き方)
- 8)オーケストラ・スコアのリダクション①(楽曲の選択)
- 9)オーケストラ・スコアのリダクション②(楽曲のリダクション譜作成)
- 10)オーケストラ・スコアのリダクション③(リダクション譜の添削)
- 11)オーケストラ・スコアのリダクション④(演奏指導)
- 12)ソルフェージュ指導の実践①(教材研究)
- 13)ソルフェージュ指導の実践②(教材作成)
- 14)ソルフェージュ指導の実践③(教材の指導と今後の課題)
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

原則、学生が研究した内容について報告し、検討、議論、添削する形で進行するため、毎週必ず研究の成果、進捗状況を目に見えるかたちで提示するよう準備すること。

◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況等を総合的に見て判断する。(授業毎の課題添削を含む)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

修士論文で扱う事柄については、専門的で深い視座が要求されることを自覚し、研究を進めること。
音楽の深さと楽しさを伝えられる指導者を目指して欲しい。

ナンバリング	MCS708N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

第4セメスターでは、論文完成と修士演奏に向けて、研究、教材作成、指導法、自己のソルフェージュ能力の向上のすべてにおいて成果をまとめる。

- 1)論文進捗状況報告と第4セメスターの展望
- 2)論文指導①(完成した部分のチェック)
- 3)論文指導②(追加する資料の分析)
- 4)論文指導③(本文執筆と添削-1.)
- 5)論文指導④(本文執筆と添削-2.)
- 6)論文指導⑤(本文執筆と添削-3.)
- 7)論文指導⑥(全体のチェック)
- 8)オーケストラ・スコアのリダクション①(楽曲の選択)
- 9)オーケストラ・スコアのリダクション②(リダクション譜の作成)
- 10)オーケストラ・スコアのリダクション③(リダクション譜の添削)
- 11)オーケストラ・スコアのリダクション④(演奏指導)
- 12)自作教材作成①(既成教材の分析)
- 13)自作教材作成②(教材の作成と指導法の検討)
- 14)自作教材作成③(教材の添削と今後の課題)
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

原則、学生が研究した内容について報告し、検討、議論、添削する形で進行するため、毎週必ず研究の成果、進捗状況を目に見えるかたちで提示するように準備すること。

◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況等を総合的に見て判断する。(授業毎の課題添削を含む)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

修士論文で扱う事柄については、専門的で深い視座が要求されることを自覚し、研究を進めること。音楽の深さと楽しさを伝えられる指導者を目指して欲しい。

ナンバリング	MCS709N		
科目名	作曲法研究 I		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現代の音楽は、古典派などの音楽と違い様々なスタイルの音楽が共存している。例えば、H.ラッヘンマンとA.ペルトには何の共通項も見出せないにも関わらず、ほぼ同じ年代の作曲家である。このことから判るように、大切なことは自身の美学を見出すことである。この授業では決して切り離すことができない過去の音楽(主に19世紀末から20世紀の音楽)を今一度検証し、「なぜそのような語法に至ったのか」を考察することで、自らの美学的な立脚点を明確にして、さらにそれを深める機会にしたい。

◆授業内容・計画◆

授業では、David Cope著「現代音楽キーワード事典」を元にして、それぞれの語法を今一度確認し、またときには曲についての分析も行なう。ただ知識を得るだけでなく、なぜ? どうして? といった視点を持って個々の事象を掘り下げてほしいし、またディスカッションの場も多く持ちたい。映像やCDを数多く視聴する。

- (1) ガイダンス/授業の説明と自己紹介
- (2) 起源～調性の概観 拡張される和声 その1
- (3) 起源～調性の概観 拡張される和声 その2
- (4) 無調性と音列主義 その1
- (5) 無調性と音列主義 その2
- (6) 無調性と音列主義 その3 ～P.ブーレーズへのインタビューをめぐって～
- (7) テクスチュアリズム～クラスター技法 その1
- (8) テクスチュアリズム～クラスター技法 その2
- (9) 音色主義と調律
- (10) 不確定性 その1
- (11) 不確定性 その2 ～J.ケージのインタビューをめぐって～
- (12) ミニマル・ミュージック その1
- (13) ミニマル・ミュージック その2
- (14) 様々なスタイルの共存
- (15) まとめ

◆準備学習の内容◆

積極的に様々な音楽を聴いておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業内での発言、レポートなど総合的に判断する。
授業中に課題について常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

「現代音楽キーワード事典」デイヴィッド・コープ著(春秋社)

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

プリントをこちらで用意します。

ナンバリング	MCS710N		
科目名	作曲法研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現代の音楽は、古典派などの音楽と違い様々なスタイルの音楽が共存している。例えば、H.ラッヘンマンとA.ペルトには何の共通項も見出せないにも関わらず、ほぼ同じ年代の作曲家である。このことから判るように、大切なことは自身の美学を見出すことである。この授業では決して切り離すことができない過去の音楽(主に19世紀末から20世紀の音楽)を今一度検証し、「なぜそのような語法に至ったのか」を考察することで、自らの美学的な立脚点を明確にして、さらにそれを深める機会にしたい。

◆授業内容・計画◆

後期の授業では音楽と時間の関係や、そもそも音楽とは何か?と言ったような根源的な問題が提起されているテキストを読み、それを元にディスカッションする。積極的な発言が求められる。映像やCDも数多く視聴する。

- (1) 音楽と時間についての考察 その1
- (2) 音楽と時間についての考察 その2
- (3) 音楽と時間についての考察 その3
- (4) 音楽と時間についての考察 その4
- (5) 音楽と時間についての考察 その5 ~湯浅譲二の試み~
- (6) 音楽とは何か? その1
- (7) 音楽とは何か? その2
- (8) 音楽とは何か? その3
- (9) 音楽とは何か? その4
- (10) 音楽とは何か? その5
- (11) 聴取の詩学 その1
- (12) 聴取の詩学その2 ~J.ケージの試み~
- (13) 聴取の詩学 その3 ~ミニマル・ミュージック~
- (14) 聴取の詩学 その4 ~M.フェルドマンの音楽~
- (15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で提起された問題について、自らの考えをまとめておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業内での発言、レポートなど総合的に判断する。
授業中に課題について常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

「音楽的時間の変容」椎名亮輔著(現代思潮新社)、「音を投げる」近藤譲著(春秋社)、「聴取の詩学」J.ケージからそしてJ.ケージへ 庄野進著(勁草書房)他。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

既に絶版になっているものもあるので、こちらで用意します。

ナンバリング	MCS711N		
科目名	作曲法研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	川島 素晴		
学年	2年	クラス	O1
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

多岐にわたる現代音楽の作曲技法を、CD試聴、楽譜の検証、楽曲分析を通じて概観することで会得する。楽曲分析を中心に据えて研究していくが、大切なのは作曲家の意図、イメージやコスモロジーに肉薄することであり、分析が机上の作業に終始しないことである。ここで学んだことの自作への応用が技法として借用・援用することではなく、創作家としての姿勢を做うことにつなげていく。

◆授業内容・計画◆

- (1)新ウィーン楽派-1「自由無調期」
- (2)新ウィーン楽派-2「12音技法期」
- (3)メシアン
- (4)ブーレーズ
- (5)シュトックハウゼン
- (6)ノーノ、電子音楽
- (7)クセナキス
- (8)ペンデレツキとポーランド楽派
- (9)リゲティ-1
- (10)ナンカロウとリゲティ-2
- (11)ベリオと引用音楽、多様式
- (12)グロボカールと即興音楽
- (13)カーゲルとミュージクテアター
- (14)20世紀初頭の様々な動向
- (15)まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で扱う楽曲について、できる限り事前に読譜、試聴をしておくことが望ましい。また、授業内では扱う楽曲の全てを試聴できない場合が多い。事後にも、復習として読譜とともに試聴し、研究を深めるべきである。毎回の授業では、次回までの課題を示す場合が多いので、それについては確実にいき、自身が興味を持った作曲家・事項については、更に深く掘り下げた研究を進めるべきである。

◆成績評価の方法◆

- 1) 期末レポート「リゲティ『室内協奏曲』第1楽章」
 - 2) 授業内での取り組み内容
- 授業内での分析、考察等や、期末レポートについては、随時授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS712N		
科目名	作曲法研究IV		
科目詳細			
担当教員	川島 素晴		
学年	2年	クラス	O1
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

多岐にわたる現代音楽の作曲技法を、CD試聴、楽譜の検証、楽曲分析を通じて概観することで会得する。楽曲分析を中心に据えて研究していくが、大切なのは作曲家の意図、イメージーションやコスモロジーに肉薄することであり、分析が机上の作業に終始しないことである。ここで学んだことの自作への応用が技法として借用・援用することではなく、創作家としての姿勢を做うことにつなげていく。

◆授業内容・計画◆

- (1) アイヴズ、カウエル
- (2) ヴァレーズ、アンタイル、パーチ、ハリソン
- (3) ケージ-1「不確定性以前」
- (4) ケージ-2「不確定性以後」
- (5) フェルドマン、フルクサス
- (6) ライヒとミニマル音楽、他
- (7) ラッヘンマン、ホリガーとドイツ語圏の音楽
- (8) シェルシ、ドナトーニとイタリアの作曲家
- (9) スペクトル楽派とその後のフランス音楽
- (10) 新ロマン主義とニュー・コンプレキシティー
- (11) その後の動向
- (12) 日本の作曲家
- (13) 課題発表＋補遺(1)
- (14) 課題発表＋補遺(2)
- (15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で扱う楽曲について、できる限り事前に読譜、試聴をしておくことが望ましい。また、授業内では扱う楽曲の全てを試聴できない場合が多い。事後にも、復習として読譜とともに試聴し、研究を深めるべきである。毎回の授業では、次回までの課題を示す場合が多いので、それについては確実にやり、自身が興味を持った作曲家・事項については、更に深く掘り下げた研究を進めるべきである。

◆成績評価の方法◆

- 1) 期末レポート「ドナトーニ『Omar』」
 - 2) 期末提出作品「通常の奏法を用いないピアノ作品」提出、及び演奏発表
 - 3) 授業内での取り組み内容
- 授業内での分析、考察等や、期末レポートについては、随時授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS713N		
科目名	コンピュータ音楽研究 I		
科目詳細	前期集中講義		
担当教員	コート リツピ, 菜 孝之		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	時間外	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

The objective of this class is mentioned below.

◆授業内容・計画◆

The purpose of the class is to present the students with software examples, encouraging them to freely explore the possibilities offered, with the goal of understanding the underlying theoretical concepts along with the programming of the examples, in order to be able to modify the examples and create their own software patches. Acoustics, psychoacoustics, digital signal processing and general programming will all be explored through the example software, making use of the "E-A_MusicPrimer", Max/MSP Tutorials, and the "Ma(r)xTutorials_Folder" examples.

Class Plan:

Day-1:

Real-time musique concrete techniques, including granular sampling

Day-2:

Delay techniques (pitch shifter, phaser, flanger, reverb, etc.)

Day-3:

FFT-iFFT techniques and Analysis/Resynthesis techniques

FFT-based filtering, delay, spectrum stretching/reordering, spatialization, phase vocoder, etc.

Other signal processing techniques in Max will be discussed as well.

◆準備学習の内容◆

First of all, please review Max programming techniques that you studied in previous years.

Then, go to the following page:

<https://people.ohio.edu/phillipm/MaxResources.html>

and download the two zip files:

E-A_MusicPrimerFolder.zip

Ma(r)xTutorials_Folder.zip

In addition, please brush up on your English before the class begins.

◆成績評価の方法◆

Your activity and understanding of objectives in the class will be assessed.

The feed back will be given during and after the class.

◆教科書(使用テキスト)◆

「準備学習の内容」欄を参照のこと。

◆参考図書◆

See the URL link above.

◆留意事項◆

The class is taught in English.

ナンバリング	MCS714N		
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

創作や演奏、インスタレーション、教育などのための、高度かつ洗練された音楽アプリケーションを企画、開発できる。

◆授業内容・計画◆

各学生が個人プロジェクトを企画し、実現に向けての基礎研究と開発を行う。開発環境や使用メディアは問わない。プログラムやシステムの効率性や安定性、インターフェース設計にも考慮する。この授業は、作品の創作ではなく、アプリケーションの開発を主眼とする。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) ガイダンス
- 2) プロジェクトの企画と検討
- 3) 仕様の策定
- 4) プログラミング モジュール開発1
- 5) プログラミング モジュール開発2
- 6) プログラミング モジュール開発3
- 7) 中間報告
- 8) プログラミング 統合1
- 9) プログラミング 統合2
- 10) プログラミング 統合3
- 11) インターフェースの検討
- 12) 効率化の検討
- 13) 安定性の検討
- 14) 成果発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

個人プロジェクトの遂行はもとより、関連分野の研究を怠らないこと。目安週2時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、および最終課題制作で評価する。フィードバックは授業内で随時、および課題提出後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)
 Electronic Music and Sound Design Vol. 1&2(Alessandro Cipriano, Maurizio Giri 著/Contemponet)
 Beyond Interaction[改訂第2版](田所淳 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 Generative Design(Hartmut Bohnackerほか 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 Nature of Code(ダニエル・シフマン 著/ポーンデジタル)
 Designing Sound(Andy Farnell/The MIT Press)
 Computer Models of Musical Creativity(David Cope 著/The MIT Press)
 ゼロから作るDeep Learning(斎藤康毅 著/オライリージャパン)

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS715N		
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	古川 聖		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀に現れた新しいテクノロジー、ツールであるコンピュータは私たちの社会、生活、文化のみならず、我々の文明全体を方向を決定づけていると言える。その意味においてコンピュータ音楽を単に音楽のジャンルのなかでだけ捉えるのではなく、そこから生まれる新しい表現方法、音楽、美学については様々な視座から考察し調査する必要がある。それらの作業を通して来たるべきイノバティブなコンピュータ音楽像を探り、それを実践する方法の策定を試みる。

◆授業内容・計画◆

本講座においては学生が主体になり、コンピューターのもつ表現の可能性を音楽を中心軸におき、調査、研究するのだが、講座の前半においては、そのための基礎的なリサーチデザインの学習を行い、調査のための方法、方法論を習得する。後半において各学生は選んだ事項、テーマ、作品などについて調査、発表しディスカッションを通して知見を深め、それを実践に移す方法を案出する。

- 第1回 オリエンテーション(授業目標説明と導入)
- 第2回 リサーチデザイン(1)
- 第3回 リサーチデザイン(2)
- 第4回 リサーチデザイン(3)
- 第5回 リサーチデザイン(4)
- 第6回 リサーチデザイン 発表(1)
- 第7回 リサーチデザイン 発表(2)
- 第8回 リサーチデザインのまとめとディスカッション
- 第9回 調査、研究発表(1)
- 第10回 調査、研究発表(2)
- 第11回 ディスカッション(1)
- 第12回 調査、研究発表(3)
- 第13回 調査、研究発表(4)
- 第14回 ディスカッション(2)
- 第15回 まとめ、最終ディスカッション

◆準備学習の内容◆

自ら選んだテーマにそって調査、研究し発表に向けて準備する。

◆成績評価の方法◆

授業内で指定される課題の遂行状況(調査と発表)

◆教科書(使用テキスト)◆

必要な本、資料などは授業開始時に指示する。

◆参考図書◆

リサーチデザイン、新・100の法則(BNN新社)、音楽の起源(上)、Nils Wollinほか(人間と社会社)、音楽のカルチュラルスタディーズ(アルテスパブリッシング)

◆留意事項◆

履修定員:約10名

ナンバリング	MCS716N		
科目名	コンピュータ音楽研究IV		
科目詳細			
担当教員	古川 聖		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀に現れた新しいテクノロジー、ツールであるコンピュータは私たちの社会、生活、文化のみならず、我々の文明全体を方向を決定づけていると言える。その意味においてコンピュータ音楽を単に音楽のジャンルのなかでだけ捉えるのではなく、そこから生まれる新しい表現方法、音楽、美学については様々な視座から考察し調査する必要がある。それらの作業を通して来たるべきイノバティブなコンピュータ音楽像を探り、それを実践する方法の策定を試みる。前期のコンピュータ音楽研究IIIの調査、研究の作業を継続する。

◆授業内容・計画◆

本講座においては学生が主体になり、コンピューターのもつ表現の可能性を音楽を中心軸におき、調査、研究するのだが、各学生は選んだ事項、テーマ、作品などについて調査、発表しディスカッションを通して知見を深め、それを実践に移す方法を案出する。

- 第1回 オリエンテーション(授業目標説明と導入)
- 第2回 調査、研究発表(1)
- 第3回 調査、研究発表(2)
- 第4回 調査、研究発表(3)
- 第5回 ディスカッション(1)
- 第7回 調査、研究発表(4)
- 第8回 調査、研究発表(5)
- 第9回 ディスカッション(2)
- 第10回 調査、研究発表(6)
- 第11回 調査、研究発表(7)
- 第12回 調査、研究発表(8)
- 第13回 調査、研究発表(9)
- 第14回 ディスカッション(3)
- 第15回 まとめ、最終ディスカッション

◆準備学習の内容◆

自ら選んだテーマにそって調査、研究し発表に向けて準備する。

◆成績評価の方法◆

授業内で指定される課題の遂行状況(調査と発表)

◆教科書(使用テキスト)◆

必要な本、資料などは授業開始時に指示する。

◆参考図書◆

リサーチデザイン、新・100の法則(BNN新社)、音楽の起源(上)、Nils Wollinほか(人間と社会社)、音楽のカルチュラルスタディーズ(アルテスパブリッシング)

◆留意事項◆

履修定員:約10名
履修条件:コンピュータ音楽研究IIIも合わせて履修のこと

ナンバリング	MCL701U		
科目名	作曲家作品研究 I		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1) 作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。(2) 修士論文、研究課題作成への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションすることができる。

◆授業内容・計画◆

担当教員による冒頭数回のレクチャーを経て、以降個々の履修生によるプレゼンテーションを中心に進める。プレゼンテーションは、各履修生が最も興味のある作曲家の作品を分析し、それぞれが1～2回にわたって研究発表する。また毎回発表の内容について参加者全員で討議・討論をする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レクチャー(1)作曲家の様式について
- 第3回 レクチャー(2)作品の分析について
- 第4回 レクチャー(3)プレゼンテーションについて
- 第5回 <履修生1>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第6回 <履修生2>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第7回 <履修生3>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第8回 <履修生4>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第9回 <履修生5>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第10回 <履修生6>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第11回 <履修生7>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第12回 <履修生8>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第13回 <履修生9>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第14回 <履修生10>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。プレゼンテーションの準備として、配付資料(内容は授業中に指導する)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配付する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MCL702U		
科目名	作曲家作品研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- (1) 作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。
(2) 修士論文、研究課題作成への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションできる。

◆授業内容・計画◆

担当教員による冒頭数回のレクチャーを経て、以降個々の履修生によるプレゼンテーションを中心に進める。プレゼンテーションは、各履修生が最も興味のある作曲家の作品を分析し、それぞれが1～2回にわたって研究発表する。また、毎回発表の内容について参加者全員で討議・討論をする。なお、プレゼンテーションは「作曲家作品研究Ⅱ」で取り上げたテーマをさらに発展させた内容であることが望ましい。

- 第1回 オリエンテーション
第2回 レクチャー(1)作曲家の様式について
第3回 レクチャー(2)作品の分析について
第4回 レクチャー(3)プレゼンテーションについて
第5回 <履修生1>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第6回 <履修生2>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第7回 <履修生3>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第8回 <履修生4>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第9回 <履修生5>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第10回 <履修生6>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第11回 <履修生7>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第12回 <履修生8>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第13回 <履修生9>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第14回 <履修生10>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。プレゼンテーションの準備として、配付資料(内容は授業中に指導する)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配付する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MCL703U		
科目名	音楽テクノロジー I		
科目詳細			
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ライブエレクトロニクス作品の上演に関わる諸技術を修得し、演奏できる。

◆授業内容・計画◆

この授業は、演奏専攻学生と作曲専攻学生両方の履修を想定している。

独奏楽器とコンピュータのためにコート・リッピが作曲した「Music」シリーズを主な題材とし、ライブエレクトロニクス作品のコンセプトを学んだ上で、上演に関わる技術を総合的に修得する。初学者は演奏のための音響セットアップや楽曲パッチ(コンピュータ・プログラム)の基本的な操作方法を学び、経験者はパッチの仔細な分析を行う。その後、上演までのプロセスを段階的に検討し、実際に上演を行って評価し合い、困難や問題点を顕在化させる。

なお、「音楽テクノロジー II」も併せて受講すること。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) ガイダンス
- 2) ライブエレクトロニクス作品のコンセプト
- 3) 「Music」シリーズ試聴
- 4) パッチのアーキテクチャ
- 5) 音響セットアップ
- 6) 演奏におけるパッチ操作
- 7) 中間報告
- 8) パッチ分析1
- 9) パッチ分析2
- 10) リハーサルでのチェックポイント
- 11) リハーサル1
- 12) リハーサル2
- 13) 成果発表1
- 14) 成果発表2
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、積極的に自主リハーサルを行うこと。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、および最終成果発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および最終成果発表後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

「音楽テクノロジー II」も併せて受講すること。

ナンバリング	MCL704U		
科目名	音楽テクノロジー II		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

このコース期間中に、学生は：(1)音楽作品の分析又は批評に関する能力を養う；(2)英語文献を利用して音楽制作等に対する研究を行うための能力を養う；及び(3)会話・文書・聴解の熟練を利用して効果的に英語で自分の考えや意見を述べる。 Over the duration of this course, students will: (1) develop their ability to analyze and critique musical works; (2) develop their skills to carry out research on composition-related topics using English-language sources and references; and (3) effectively articulate and exchange their own thoughts and ideas in English using oral, written, and listening skills.

◆授業内容・計画◆

この授業では電子音楽及びサウンド・アートに関するテーマを検討して、音楽技法又は分析に対して研究を行う。
In this class we will investigate themes related to electroacoustic music and sound art, carrying out research concerning musical techniques and analysis.

毎回、学生が1～2個の作品又は作曲家の記事(英文)に対して話し合いを行い、これらは自分の音楽活動に何を教えるかを考察する。
Each week, students will have discussions about one or two musical works or written articles by composers and consider how these might inform their own musical activities.

この授業は詳しい謹聴、自由の対話又は活動(作文、製図等)を通じて集合的な意味付けることも奨励する。
The class also encourages collective meaning-making through detailed listening, open-ended dialogues and activities (writing and sketching).

- [1] Review
- [2] Topics related to composition and research
- [3] Topics related to composition and research
- [4] Topics related to composition and research
- [5] Topics related to composition and research
- [6] Guidance for paper topics
- [7] Review of research techniques
- [8] Student-driven topic discussions
- [9] Student-driven topic discussions
- [10] Student-driven topic discussions
- [11] Student-driven topic discussions
- [12] Student topic presentations
- [13] Student topic presentations
- [14] Student topic presentations
- [15] Student topic presentations and final reports

◆準備学習の内容◆

毎回の授業を準備するため、学生が選んだ作品を聞き、文献を集めり、又は英文の記事を読む。
Each week, students listen to the assigned works, gather reference materials, or read an English article.

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み: 20%(ディスカッションにおける積極性などを総合的に評価)
課題等の取り組み : 40%(口頭発表、プレゼンテーション)
レポート: 40%(小論文、発表原稿)
評価基準については初回の授業時に具体例を示して詳述する。

◆教科書(使用テキスト)◆

無し

◆参考図書◆

論文誌:『Computer Music Journal』、『Contemporary Music Review』、『Journal of New Music Research』、『Leonardo Music Journal』、『Organised Sound』、『Perspectives of New Music』、『Tempo』等

著書:

『The Oxford Handbook of Computer Music』Dean, Roger T. (2009, Oxford University Press)

『The Digital Musician』Hugill, Andrew (2008, Routledge)

『Understanding the Art of Sound Organization』Landy, Leigh (2007, MIT Press)

『The Tuning of the World/世界の調律 : サウンドスケープとはなにか』Schafer, R. Murray (1977, Knopf/2006, 平凡社)

その他

◆留意事項◆

この授業は英語で行う。

Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities.

ナンバリング	MCS719U		
科目名	スコア・リーディング I		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-312	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

複数(多段)の譜表を同時に読み込み、ピアノで演奏することにより、スコアリーディングの能力はもとより、読譜力の向上も図る

◆授業内容・計画◆

平易な音部記号に始まり、七種類の音部記号それぞれの読譜に習熟したのち、それらを総合的に扱う。

- 1)ト音記号2つ
- 2)ト音記号3つ
- 3)バス記号2つ
- 4)バス記号3つ
- 5)ト音記号とバス記号による大譜表 前半
- 6)ト音記号とバス記号による大譜表 後半
- 7)混声合唱のレダクション1(調的なもの) 前半
- 8)混声合唱のレダクション2(調的なもの) 後半
- 9)混声合唱のレダクション3(調的ではないもの)前半
- 10)混声合唱のレダクション4(調的ではないもの)後半
- 11)一つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 前半
- 12)一つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 後半
- 13)二つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 前半
- 14)二つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 後半
- 15)当該期における問題点の抽出、反省

◆準備学習の内容◆

ピアノが演奏できるように、常に準備しておくこと。日常的基礎練習が望ましい。

◆成績評価の方法◆

課題への理解度及び、授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

実作品を用いるので、その都度履修学生と相談しながら決定する。

◆参考図書◆

特段指定しない

◆留意事項◆

段階的に学習していくので、欠席をしないこと

ナンバリング	MCS720U		
科目名	スコア・リーディングⅡ		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-312	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

今まで学習した能力を用い、移調楽器を含む総譜がピアノ上で演奏できるようにする

◆授業内容・計画◆

当期よりト音記号、バス記号以外も扱う。より、複雑な楽譜への対応。

- 1) アルト記号の読譜
- 2) ヴィオラの楽譜の演奏
- 3) メゾソプラノ記号の読譜
- 4) in Fの移調楽器の楽譜の演奏
- 5) ソプラノ記号の読譜
- 6) in Aの移調楽器の楽譜の演奏
- 7) テノール記号の読譜
- 8) in Bの移調楽器の楽譜の演奏
- 9) バリトン記号の読譜
- 10) in Gの移調楽器の楽譜の演奏
- 11) 移調楽器を含むトリオの演奏
- 12) 移調楽器を含む四重奏の演奏
- 13) 移調楽器を含む五重奏の演奏
- 14) 実作品のスコア(古典派まで)の演奏
- 15) 実作品のスコア(近代まで)の演奏

◆準備学習の内容◆

ピアノが演奏できるように、常に準備しておくこと。日常的基礎練習が望ましい。

◆成績評価の方法◆

課題への理解度及び、授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

実作品を用いるので、その都度履修学生と相談しながら決定する。

◆参考図書◆

特に指定しない

◆留意事項◆

段階的に学習していくので、欠席をしないこと

ナンバリング	MCS721U		
科目名	フーガ実習 I		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-306	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

ヨーロッパ音楽の根幹である対位法、その技法と精神を自ら「フーガを書く」ことで体験してゆきます。

◆授業内容・計画◆

フーガ作曲が初めての学生と、すでに経験のある学生、習熟した学生が混在するクラスです。学生各自の進度や技量によって内容はおのずと異なります。

- ① 特に進んだ学生は、二重フーガや器楽のフーガの作曲も視野に入れてレッスンします。
- ② すでにフーガを作曲したことのある学生は、各自のペースで「学習フーガ」を作曲します。
- ③ 初心者の場合には、少しずつ「学習フーガ」の技法を体得してゆき、7月に予定の試演を目指して1曲完成をめざします。

随時、ヘンデル、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン等のフーガを分析する時間を持ちたいと考えています。

また、「フーガ演奏会」等にて作品を試演しますので、それを通じて「作曲」と「演奏」の間にある様々なことについても学んで下さい。

初心者向きの進度は概ね、

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学習フーガの分析と全体の把握、用語の理解(1)
- 第3回 学習フーガの分析と全体の把握、用語の理解(2) 学習フーガと「フーガ」の相違点
- 第4回 主題群の準備(1) 長調・変応なし(A)
- 第5回 主題群の準備(2) 短調・変応なし(B)
- 第6回 主題群の準備(3) 長調・短調 変応あり(C)
- 第7回 主要提示の作成(1) 上記(A)と(B)
- 第8回 主要提示の作成(2) 上記(C)
- 第9回 喜遊部と副提示部の作成(1)(A)を用いて
- 第10回 喜遊部と副提示部の作成(2)(B)を用いて
- 第11回 喜遊部と副提示部の作成(3)(C)を用いて
- 第12回 追迫の作成(1)(A)を用いて
- 第13回 追迫の作成(2)(B)を用いて
- 第14回 追迫の作成(3)(C)を用いて
- 第15回 まとめ

で進めます。

◆準備学習の内容◆

各自がしっかりと事前にフーガ課題を書き進めて授業に臨んでください。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業内で随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆ 留意事項 ◆

ナンバリング	MCS722U		
科目名	フーガ実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-306	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

「よく構築された書法」に習熟すべくフーガ作曲を試みます。

◆授業内容・計画◆

フーガ実習Ⅰの指導方針で開講します。

フーガ演奏会を視野に入れ、「楽器で演奏する」ことを十分に考慮してフーガを作曲してゆきます。

分析についても随時とりいれてゆきます。

- | | | |
|------|------------------|---------------|
| 第1回 | ガイダンス | |
| 第2回 | フーガ演奏会むけの作品作成(1) | 主題群の準備 |
| 第3回 | フーガ演奏会むけの作品作成(2) | 主要提示の作曲 |
| 第4回 | フーガ演奏会むけの作品作成(3) | 副提示部の作曲(前半) |
| 第5回 | フーガ演奏会むけの作品作成(4) | 副提示部の作曲(後半) |
| 第6回 | フーガ演奏会むけの作品作成(5) | 追白部の作曲 |
| 第7回 | フーガ演奏会むけの作品作成(6) | 全体への手入れ |
| 第8回 | フーガ演奏会むけの作品作成(7) | パート譜の作成・スコア浄書 |
| 第9回 | 別の主題によるフーガ(1) | 主題群の準備 |
| 第10回 | 別の主題によるフーガ(2) | 主要提示の作曲 |
| 第11回 | 別の主題によるフーガ(3) | 副提示部の作曲(前半) |
| 第12回 | 別の主題によるフーガ(4) | 副提示部の作曲(後半) |
| 第13回 | 別の主題によるフーガ(5) | 追白部の作曲 |
| 第14回 | 別の主題によるフーガ(6) | 全体への手入れ |
| 第15回 | まとめ | |
- を進めます。

◆準備学習の内容◆

各自がしっかりと事前にフーガ課題を書き進めて授業に臨んでください。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業内で随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS723U		
科目名	和声実習 I		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

修士課程レベルでのバロックから19世紀にいたる和声法の知識と様式の把握を目標とする

◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的なアプローチの方法を考察していく。

- 1.授業ガイダンス
- 2.和声法の歴史(概論)
- 3.和声法の著作の歴史的概観
- 4.通奏低音法について
- 5.通奏低音の実施(バロック様式)
- 6.通奏低音の実施(古典派様式)
- 7.通奏低音の実施(ロマン派様式)
- 8.フランス和声について(概論)
- 9.フランス和声の実践(シャラン)
- 10.フランス和声の実践(フォーシェ)
- 11.フランス和声の実践(ギャロン)
- 12.フランス和声の実践(ビッチュ)
- 13.バッハの和声様式 (バス課題)
- 14.バッハの和声様式 (ソプラノ課題)
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

準備学習: 学部で学んできた和声法課題実施の復習

予習: 各回の項目について関わりのあるものを予め教科書や音楽辞典を使い読んで記憶しておく。(50分)

復習: 授業で学んだ課題や内容についてもう一度見直し、足りない箇所を覚える。また、課題を再度実施して上達度を認識する。(60分)

◆成績評価の方法◆

担当教員による筆記試験の成績と平常点の総合評価による。
随時授業内で課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『新しい和声』林達也著 アルテスパブリッシング社 及び プリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MCS724U		
科目名	和声実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-12	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

修士課程レベルでの19世紀後半から20世紀にいたる和声法の知識と様式の把握

◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的アプローチの方法を考察していく。特に後期は各々の論文と関係づけられた作曲家と作品についての研究もおこなう。

- 1.モーツァルトの和声様式『概論』
- 2.モーツァルトの和声様式『バス課題』の実習
- 3.モーツァルトの和声様式『ソプラノ課題』の実習
- 4.シューマンの和声様式『概論』
- 5.シューマンの和声様式『ソプラノ課題』の実習
- 6.シューマンの和声様式『作品分析』
- 7.ヴァーグナーの和声様式『概論』
- 8.ヴァーグナーの和声様式『作品分析』
- 9.ヴァーグナーの和声様式『ソプラノ課題』実習
- 10.フォーレの和声様式『概論』
- 11.フォーレの和声様式『作品分析』
- 12.フォーレの和声様式『ソプラノ課題』の実習
- 13.ドビュシーの和声様式『概論』
- 14.ラヴェルの和声様式『概論』
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

準備学習:前期で学んだ様式を含む和声法課題実施の復習

予習:各回で取り上げられる作曲家の主要作品について予め読譜とアナリゼをしておく。(50分)

復習:授業で学んだ項目と内容について再度不十分な点があればノートを見直して覚える。

また、課題を最実施し、上達度を自己確認する。(50分)

◆成績評価の方法◆

担当教員による筆記試験の成績と平常点の総合評価による。

随時授業内で課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『新しい和声』林 達也 著 アルテスパブリッシング社 及び プリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MCS725U		
科目名	古典対位法 I		
科目詳細			
担当教員	岩河 智子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-31	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

1)16世紀ルネサンスの作曲家パレストリーナを範とし、線的対位法を実習する。2)和声を基盤とするバッハの対位法とは異なり、パレストリーナは純粋に旋律どうしの美しい絡み合いを追求した。この対位法を実習することで「線」に対する感覚を養いたい。3)長調短調が確立される前の教会旋法によるこの対位法は、機能和声からの脱却を試みた近代の作曲家の音楽語法を理解するのにも役立つ事と思う。4)パレストリーナのミサ曲に代表されるように、線的対位法は声楽曲として発展した。そのため「うた」の要素を忘れてはならない。歌いながら作曲して欲しい。5)作曲専攻の学生のみならず演奏専攻の学生も十分実施出来る内容なので是非履修してほしい。

◆授業内容・計画◆

- 1)2声の線的対位法を実習する。与えられた定旋律に対旋律を作曲する。
 - 2)全音符から始まり、2分音符、4分音符、移勢(シンコペーション)と様々なリズムで対旋律を書いてゆく。
 - 3)それらを総合して作曲する混合対位法では、美しく変化に富んだ流れるような旋律が生まれるだろう。
 - 4)さらに、ラテン語の歌詞に旋律を付ける自由対位法へとすすむ。
 - 5)これらの実習はまったく各人のペースで行ってゆく。それぞれじっくり取り組んで欲しい。
 - 6)「うた」をもとにした対位法なので、しばしば実施した課題を合唱する。
- 実施の目安を記す

- 第1回:2声、全音符対位法(1)
- 第2回:全音符対位法(2)
- 第3回:二分音符対位法(1)
- 第4回:二分音符対位法(2)
- 第5回:四分音符対位法(1)
- 第6回:四分音符対位法(2)
- 第7回:パレストリーナのミサ曲の分析
- 第8回:移勢対位法(1)
- 第9回:移勢対位法(2)
- 第10回:混合対位法(1)
- 第11回:混合対位法(2)
- 第12回:自由対位法(1)ラテン語の歌詞の扱い方について
- 第13回:自由対位法(2)
- 第14回:模倣(1)
- 第15回:模倣(2)

◆準備学習の内容◆

- 1)授業で解説した対位法を、実際に自分で実習することが大事です。自分のペースで課題を実習して来てください。
- 2)授業で取り上げた例題や、お手本となる課題をピアノで弾いて、美しさを確かめてください。

◆成績評価の方法◆

試験は特に行わない。毎時間、課題の実施を添削することで、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、コピーを配布)

◆参考図書◆

「イエッペセン対位法」クヌート・イエッペセン著、音楽之友社

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS726U		
科目名	古典対位法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	岩河 智子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-31	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

1)16世紀ルネサンスの作曲家パレストリーナを範とし、線的対位法を実習する。2)和声を基盤とするバッハの対位法とは異なり、パレストリーナは純粋に旋律どうしの美しい絡み合いを追求した。この対位法を実習することで「線」に対する感覚を養いたい。3)長調短調が確立される前の教会旋法によるこの対位法は、機能และ声からの脱却を試みた近代の作曲家の音楽語法を理解するのにも役立つ事と思う。4)パレストリーナのミサ曲に代表されるように、線的対位法は声楽曲として発展した。そのため「うた」の要素を忘れてはならない。歌いながら作曲して欲しい。

◆授業内容・計画◆

1)前期に引き続き実習を進める。2声を終了した者は、さらに3声、4声とすすんでゆく。
2)この対位法は作曲専攻の学生のみならず、演奏専攻の学生にもぜひ履修してほしいものである。なぜなら、旋律をうたい奏でるための「線」に対する感覚」を鍛えることが出来るからである。対位法を勉強すると、楽譜の見方が変わってくると思う。演奏や音楽指導にぜひ対位法で学んだ感覚を活かしてほしい。

- 第1回:3声、全音符対位法(1)
- 第2回:全音符対位法(2)
- 第3回:二分音符対位法(1)
- 第4回:二分音符対位法(2)
- 第5回:四分音符対位法(1)
- 第6回:四分音符対位法(2)
- 第7回:二分音符四分音符の結合(1)
- 第8回:二分音符四分音符の結合(2)
- 第9回:移勢対位法(1)
- 第10回:移勢対位法(2)
- 第11回:四分音符と移勢の結合(1)
- 第12回:四分音符と移勢の結合(2)
- 第13回:混合対位法
- 第14回:自由対位法
- 第15回:模倣

◆準備学習の内容◆

- 1)授業で解説した対位法を、実際に自分で実習することが大事です。自分のペースで課題を実習して来てください。
- 2)授業で取り上げた例題や、お手本となる課題をピアノで弾いて、美しさを確かめてください。

◆成績評価の方法◆

試験は特に行わない。毎時間、課題の実施を添削することで、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、コピーを配布)

◆参考図書◆

「イエッペセン対位法」クヌート・イエッペセン著、音楽之友社

◆留意事項◆

ナンバリング	MCL705U		
科目名	原典講読(作曲) I		
科目詳細			
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

英語で書かれた音楽書の一部、論文等を輪読する。20世紀音楽に関する著作を中心とする教材で、異なったタイプの複数の文章を解読して、履修以前より少しでも速く正確に翻訳できる力をつける。

◆授業内容・計画◆

進度は履修者の英語力次第だが、必ず毎回、文章を分担する。

- 第1週 履修者の英語の読解力の確認、教材選び(3点程度)
- 第2週 輪読(1) 教材1の読み始め
- 第3週 輪読(2) 教材1の読解
- 第4週 輪読(3) 教材1の読解続き
- 第5週 輪読(4) 教材1のまとめ
- 第6週 輪読(5) 教材2の読み始め
- 第7週 輪読(6) 教材2の読解
- 第8週 輪読(7) 教材2の読解続き
- 第9週 輪読(8) 教材2のまとめ
- 第10週 輪読(9) 教材3の読み始め
- 第11週 輪読(10)教材3の読解
- 第12週 輪読(11)教材3の読解続き
- 第13週 輪読(12)教材3のまとめ
- 第14週 輪読(13)教材1, 2, 3の復習
- 第15週 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

輪読する本や論文を毎回、分担し、事前に辞書を引きながら読解してくる。

◆成績評価の方法◆

授業内での輪読によって評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業でコピーを配付する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

毎回、必ず分担して英文を読むので、予習の時間が必要である。

ナンバリング	MCL706U		
科目名	原典講読(作曲)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

英語で書かれた音楽書の一部、論文等を輪読する。20世紀音楽に関する著作を中心とする教材で、異なったタイプの複数の文章を解読して、履修以前より少しでも速く正確に翻訳できる力をつける。

◆授業内容・計画◆

進度は履修者の英語力次第だが、必ず毎回、文章を分担する。

- 第1週 履修者の英語の読解力の確認、教材選び(3点程度)
- 第2週 輪読(1) 教材1の読み始め
- 第3週 輪読(2) 教材1の読解
- 第4週 輪読(3) 教材1の読解続き
- 第5週 輪読(4) 教材1のまとめ
- 第6週 輪読(5) 教材2の読み始め
- 第7週 輪読(6) 教材2の読解
- 第8週 輪読(7) 教材2の読解続き
- 第9週 輪読(8) 教材2のまとめ
- 第10週 輪読(9) 教材3の読み始め
- 第11週 輪読(10)教材3の読解
- 第12週 輪読(11)教材3の読解続き
- 第13週 輪読(12)教材3のまとめ
- 第14週 輪読(13)教材1, 2, 3の復習
- 第15週 後期のまとめ

◆準備学習の内容◆

輪読する本や論文を毎回、分担し、事前に辞書を引きながら読解してくる。

◆成績評価の方法◆

授業内での輪読によって評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業でコピーを配付する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

毎回、必ず分担して英文を読むので、予習の時間が必要である。

ナンバリング	MCS727U		
科目名	楽曲分析 I		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-306	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

主に20世紀以降の作品を取り上げ、CD音源と楽譜を通して、その作曲意図、語法、作曲技法、楽器法などをできるだけ丁寧に読み込み分析する。作品の時代背景を踏まえた上で、作曲家の音楽観や創意を考察し作品への理解が深まるようにしたい。また、分析力を培うことによって履修生個々の研究領域においてもその成果が還元されるよう、よい影響をもたらす時間としたい。分析には独自の解釈が得られるレベルにまで到達できることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

・担当教員が提示する楽曲分析の他に、受講生は年に2回程度の分析発表を行う。それに基づき楽譜の検証と議論を重ね、作品の理解と考察を深める。
 ・授業で取り上げる作品は、1945年以降のヨーロッパ音楽が中心であるが、受講生の経験値や能力的状況を鑑み、以下の楽曲の変更はあり得る。

- ①ガイダンス／授業の説明と自己紹介
- ②ブーレーズ／Notation I ピアノ版
- ③ブーレーズ／Notation I 管弦楽版
- ④ブーレーズ／拡大的改作の検証
- ⑤履修生の発表(1)
- ⑥前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑦履修生の発表(2)
- ⑧前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑨履修生の発表(3)
- ⑩前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑪履修生の発表(4)
- ⑫前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑬ベソン／変奏法とフィルトレージュ
- ⑭ラッヘンマン／特殊音響と抽象表現
- ⑮ラッヘンマン／構造と形式

◆準備学習の内容◆

・日頃から各自の音楽の関心事を整理し、楽曲を準備しておくこと。
 ・授業で取り扱う作品は2週以上にわたって読み込んでいくため、CDと楽譜で音楽全体を把握しておくこと。
 ・授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

◆成績評価の方法◆

1.試験(授業内の分析発表内容)。
 2.授業へ参加姿勢(発言やディスカッションなど)。
 分析発表については、講評を行い、常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS728U		
科目名	楽曲分析Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-306	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

主に20世紀以降の作品を取り上げ、CD音源と楽譜を通して、その作曲意図、語法、作曲技法、楽器法などをできるだけ丁寧に読み込み分析する。作品の時代背景を踏まえた上で、作曲家の音楽観や創意を考察し作品への理解が深まるようにしたい。また、分析力を培うことによって履修生個々の研究領域においてもその成果が還元されるよう、よい影響をもたらす時間としたい。分析には独自の解釈が得られるレベルにまで到達できることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

・担当教員が提示する楽曲分析の他に、受講生は年に2回程度の分析発表を行う。それに基づき楽譜の検証と議論を重ね、作品の理解と考察を深める。
・授業で取り上げる作品は、1945年以降のヨーロッパ音楽が中心であるが、受講生の経験値や能力的状況を鑑み、以下の楽曲の変更はあり得る。

- ①シャリーノ／新しい音響
- ②シャリーノ／歌の認知と過去の音楽との関連
- ③ジェルヴァゾーニ／詩的展開法
- ④履修生の発表(5)
- ⑤前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑥履修生の発表(6)
- ⑦前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑧履修生の発表(7)
- ⑨前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑩履修生の発表(8)
- ⑪前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑫ツインマーマン／変容の手法
- ⑬ツインマーマン／引用の効果
- ⑭ホリガー／室内楽作品と合唱作品
- ⑮ポップ、フィリデイ等、若手作曲家の新しい表現について

◆準備学習の内容◆

・日頃から各自の音楽の関心事を整理し、楽曲を準備しておくこと。
・授業で取り扱う作品は2週以上にわたって読み込んでいくため、CDと楽譜で音楽全体を把握しておくこと。
・授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

◆成績評価の方法◆

1.試験(授業内の分析発表内容)。
2.授業へ参加姿勢(発言やディスカッションなど)。
分析発表については、講評を行い、常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MCS729U		
科目名	作曲特殊研究 I		
科目詳細			
担当教員	井上 郷子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-308	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

「演奏」という視点から、音楽作品の解釈と表現について考えることは、自らの音楽について考察を深めるためのひとつの指針となる。過去から現代に至る様々なスタイルの音楽について、演奏における作品解釈と表現方法の実際的な面を研究することにより、自分自身が拠って立つ美学的な視点を明確にできるようにし、創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

グループ授業の特質を生かし、作品解釈のための研究、ディスカッション、鑑賞、実演をまじえながら授業を行なう。

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 課題曲1-1「ピアノソロ作品」: 作曲様式の研究
- 第3回: 課題曲1-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第4回: 課題曲1-3: 奏法と表現の可能性の探求
- 第5回: 課題曲1-4: 実演
- 第6回: 課題曲2-1「ピアノ4手作品」: 作曲様式の研究
- 第7回: 課題曲2-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第8回: 課題曲2-3: 奏法と表現の可能性の探求
- 第9回: 課題曲2-4: 実演
- 第10回: 課題曲3-1「2台ピアノ作品」: 作曲様式の研究
- 第11回: 課題曲3-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第12回: 課題曲3-3: 奏法と表現の可能性の探求その1
- 第13回: 課題曲3-4: 奏法と表現の可能性の探求その2
- 第14回: 課題曲3-5: 実演
- 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる楽曲を練習し、作曲家について調べておくこと。(両方で毎日目安60分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末のまとめの演奏を評価しフィードバックを行なうこと、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS730U		
科目名	作曲特殊研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	井上 郷子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-308	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

「演奏」という視点から、音楽作品の解釈と表現について考えることは、自らの音楽について考察を深めるためのひとつの指針となる。過去から現代に至る様々なスタイルの音楽について、演奏における作品解釈と表現方法の実際的な面を研究することにより、自分自身が拠って立つ美学的な視点を明確にできるようにし、創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

グループ授業の特質を生かし、作品解釈のための研究、ディスカッション、鑑賞、実演をまじえながら授業を行なう。

- 第1回：課題曲1-1「ソロ楽器作品」：作曲様式の研究
- 第2回：課題曲1-2：作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第3回：課題曲1-3：奏法と表現の可能生の探求その1
- 第4回：課題曲1-4：奏法と表現の可能性の探求その2
- 第5回：課題曲1-5：実演
- 第6回：課題曲2-1「アンサンブル作品」：作曲様式の研究
- 第7回：課題曲2-2：作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第8回：課題曲2-3：奏法と表現の可能生の探求
- 第9回：課題曲2-4：実演
- 第10回：課題曲3-1「ピアノソロ作品」：作曲様式の研究
- 第11回：課題曲3-2：作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第12回：課題曲3-3：奏法と表現の可能生の探求その1
- 第13回：課題曲3-4：奏法と表現の可能性の探求その2
- 第14回：課題曲3-5：実演
- 第15回：まとめ

◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる楽曲を練習し、作曲家について調べておくこと。(両方で毎日目安60分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価しフィードバックすること、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

◆参考図書◆

授業内に指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MPL701N		
科目名	音楽教育学研究 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)自身の研究テーマの位置を探り、関連する研究分野について説明できる。(2)自身の研究の範囲や方法について理解したことを説明できる。(3)研究に必要な資料を収集してその概要を説明できる。(4)自身の研究全体の構成を手際よく構築し助言により再構築できる。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション: 音楽教育学における研究とは
2. 研究計画、研究方法、論文執筆要項
3. 研究論本の読み方、情報の整理、パソコンおよび電子データ操作のテクニック
4. CiNii、J-STAGE、図書館書庫の活用方法
5. 文献の引用方法とノート作成のテクニック
6. 学会の活動と研究内容、参加方法、院生フォーラム
7. 研究の分野: 演奏とパフォーマンスの研究、指導方法・実践の研究
8. 研究の分野: 哲学的・社会的・心理学的研究
9. 研究の分野: 歴史的研究、カリキュラム研究、国際比較研究、メソッドの研究
10. 研究の分野: 作品の創作、教材教具の開発研究

11. 音楽教育学における量的・質的アプローチ
12. 文献リスト作成、文献レビュー
13. 論文構成
14. 研究テーマと研究の背景・目的・方法
15. 研究報告レポートの作成、学会発表・学内中間発表の内容

◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)

◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

◆参考図書◆

『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウェンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／プリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

◆留意事項◆

- ・パソコンを用いた情報操作のテクニックを身に付けること。
- ・図書館を活用できるようにすること。
- ・明確な研究課題を持ち、そのテーマについて熟考を重ねていくこと。

ナンバリング	MPL702N		
科目名	音楽教育学研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1) 研究に必要な調査を計画し実行することができる。(2) 論理構成の検討に基づき自身の研究計画を修正することができる。(3) 専門的な研究を自律的に行うための基本的な態度を身に付ける。(4) 執筆要項に基づき修士論文を完成させるための段取りや手順を説明できる。

◆授業内容・計画◆

1. 「音楽教育学研究Ⅰ」の振り返りと中間発表・学会発表の準備
2. 中間発表資料の作成
3. 中間発表用プレゼンテーション資料の作成、質疑対策資料の作成
4. 中間発表の実施とフィードバック、研究内容の修正
5. 学会発表資料・ポスターの作成、発表準備
6. 学会発表の実施とフィードバック
7. 研究テーマ・論文構成・研究計画の見直し
8. 自らの研究過程の省察、論旨・論理性
9. 修士論文のテーマと研究の範囲の確定
10. 「修論執筆要項」の内容の理解
11. 学術論文のルール・倫理規定
12. 参考文献・資料・引用文献の解釈・検討、先行研究のリビュー
13. 序論・序章の作成(研究の動機、研究の目的、研究の方法)
14. 研究に必要な視察・フィールドワーク・実践・講習会受講等
15. 中間報告の準備、研究交流の意義と方法

◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)
- ・中間発表において、パワーポイント等のプレゼンテーションのデータ、配布資料を作成すること。(目安5時間)

◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)
- ・中間発表におけるプレゼンテーション、質疑への応答の内容(事後にフィードバックする。)

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

◆参考図書◆

『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウエンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／プリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

◆留意事項◆

- ・中間発表については、自身の研究テーマの特質に合わせて準備を万全に整えるとともに、発表を聞く立場に立ったプレゼンテーションを考え、発表に臨むこと。

ナンバリング	MPL703N		
科目名	音楽教育学研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)必要十分な先行研究に当たりレビューすることができる。(2)論理構成の検討に基づき自身の研究計画を修正することができる。(3)実践研究、調査研究を計画的に行い分析することができる。(4)論文執筆に必要な段取りを把握し実行することができる。

◆授業内容・計画◆

1. 「音楽教育学研究Ⅰ」の振り返りと中間発表・学会発表の準備
2. 研究テーマ・論文構成・研究計画の見直しと題目の決定
3. 先行研究と文献リスト
4. 実践研究、調査研究の計画
5. 実践研究、調査研究の実施
6. 実践研究、調査研究の分析
7. 学会・研究会での発表の内容、発表の申込み
8. 全体の論理構成と結論
9. 自身の研究分野の研究史
10. 術語の定義
11. 詳細な論文構成の作成
12. 参考文献・資料・引用文献の解釈・検討、先行研究のレビュー
13. 論文の文章のスタイル
14. 研究に必要な視察・フィールドワーク・実践・講習会受講等

◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)
- ・中間発表において、パワーポイント等のプレゼンテーションのデータ、配布資料を作成すること。(目安5時間)

◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

◆参考図書◆

『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウエンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／ブリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

◆留意事項◆

- ・修士論文の題目を確定し提出しなければならないので、自身の研究の音楽教育における位置を十分に見極める必要がある。基本的文献に当たって基礎知識を確実に身に付けるとともに、最新の研究成果を把握する必要がある。

ナンバリング	MPL704N		
科目名	音楽教育学研究IV		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)自身の研究成果とその意義を理解し説明することができる。(2)執筆要項に照らして執筆内容・方法が適切である。(3)文章が明快で分かりやすく論理的な一貫性がある。(4)音楽教育学の発展に寄与する研究として位置付けられる。

◆授業内容・計画◆

1. 研究発表に向けてのスケジュール
2. 中間発表、学会発表の準備
3. 実践研究、調査研究の執筆と資料のまとめ方
4. 自らの研究過程の省察
5. 中間発表とディスカッション
6. 学会発表の振り返り
7. 文章のまとめ方と論旨の一貫性
8. 資料・引用文献の使い方
9. 文献・資料からの引用と脚注
10. 修士論文の執筆
11. 註、文献一覧の作成
12. 巻末資料の作成
13. 目次、図、表の点検と修正
14. 修士論文の添削と修正
15. 修士論文要旨の作成

◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)
- ・中間発表において、パワーポイント等のプレゼンテーションのデータ、配布資料を作成すること。(目安5時間)

◆成績評価の方法◆

・中間発表における発表内容、修士論文の構成・表現・ボリューム・テーマの意義、都度の課題の提出状況から総合的に評価する。フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

・授業担当者が直接指示する。

◆参考図書◆

『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウエンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／ブリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

◆留意事項◆

・執筆中の修士論文は少しずつ添削を受け、修正を加えていくようにしたい。

ナンバリング	MPL705N		
科目名	音楽教育実践研究 I		
科目詳細			
担当教員	山本 幸正		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-107(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)自身の実践研究テーマの位置を探り、研究の内容について説明できる。(2)自身の研究の範囲や方法について理解したことを説明できる。(3)研究に必要な情報を収集してその概要を説明できる。(4)自身の実践研究全体の手順を手際よく構築し助言により再構築できる。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション: 音楽教育における実践研究とは
2. 研究計画、研究方法、論文執筆要項
3. 研究論本の読み方、情報の整理、パソコンおよび電子データ操作のテクニック
4. CiNii、J-STAGE、図書館書庫の活用方法
5. 文献の引用方法とノート作成のテクニック
6. 学会の活動と研究内容、参加方法、院生フォーラム
7. 実践研究の方法: 指導法の研究
8. 実践研究の方法: 評価方法の研究
9. 実践研究の方法: 授業分析、参与観察、臨床的研究等
10. 実践研究の方法: 教材教具の開発研究

11. 音楽教育実践研究における量的・質的アプローチ
12. 文献リスト作成、文献レビュー
13. 論文構成
14. 研究テーマと研究の背景・目的・方法
15. 研究報告レポートの作成、学会発表・学内中間発表の内容

◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や実践報告等を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)

◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

◆参考図書◆

『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウエンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／プリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

◆留意事項◆

- ・パソコンを用いた情報操作のテクニックを身に付けること。
- ・図書館を活用できるようにすること。
- ・明確な研究課題を持ち、そのテーマについて熟考を重ねていくこと。
- ・「人を対象とする研究」の自覚と倫理意識をもつこと。

ナンバリング	MPL706N		
科目名	音楽教育実践研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	山本 幸正		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-107(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)研究に必要な実践を計画し実行することができる。(2)実践内容の検討に基づき自身の研究計画を修正することができる。(3)実践的な研究を自律的に行うための基本的な態度を身に付ける。(4)執筆要項に基づき修士論文を完成させるための段取りや手順を説明できる。

◆授業内容・計画◆

1. 「音楽教育実践研究Ⅰ」の振り返りと中間発表・学会発表の準備
2. 中間発表資料の作成、実践協力者・訪問施設等への依頼
3. 中間発表用プレゼンテーション資料の作成、質疑対策資料の作成
4. 中間発表の実施とフィードバック、研究内容の修正
5. 学会発表資料・ポスターの作成、発表準備
6. 学会発表の実施とフィードバック
7. 研究テーマ・論文構成・研究計画・実践内容の見直し
8. 研究仮説・指導仮説
9. 修士論文のテーマと研究の範囲の確定
10. 「修論執筆要項」の内容の理解
11. 実践研究で留意すべき事柄・倫理規定
12. 参考文献・資料・引用文献の解釈・検討、先行研究のリビュー
13. 序論・序章の作成(研究の動機、研究の目的、研究の方法)
14. 研究に必要な指導実践・講習会受講等
15. 中間報告の準備、研究交流の意義と方法

◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)
- ・中間発表において、パワーポイント等のプレゼンテーションのデータ、配布資料を作成すること。(目安5時間)

◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)
- ・中間発表におけるプレゼンテーション、質疑への応答の内容(事後にフィードバックする。)

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

◆参考図書◆

『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウエンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／プリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

◆留意事項◆

- ・中間発表については、自身の研究テーマの特質に合わせて準備を万全に整えるとともに、発表を聞く立場に立ったプレゼンテーションを考え、発表に臨むこと。

ナンバリング	MPL709N		
科目名	音楽教育指導演習 I		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

1) 様々な対象者(幼児、児童、生徒、障がいを持った人等)の音楽教育について理解をする。2) 様々な対象者の音楽教育指導方法について理解をする。

◆授業内容・計画◆

1. 授業の進め方(ガイダンス)
2. 乳幼児の音楽発達について(DVD視聴)
3. 幼児の音楽教育について(音楽と動き)
4. 幼児の音楽教育について(歌唱、簡易楽器等)
5. 幼児の音楽教育について(領域「表現」について)
6. 小学校の音楽教育について(表現)
7. 小学校の音楽教育について(鑑賞)
8. 小学校の音楽教育について(共通事項)
9. 課題の発表
10. 中学校の音楽教育について(表現)
11. 中学校の音楽教育について(鑑賞)
12. 中学校の音楽教育について(共通事項)
13. 高校の音楽教育について(表現)
14. 高校の音楽教育について(鑑賞)
15. 高校の音楽教育について(共通事項)

◆準備学習の内容◆

授業時に提示される課題の準備を十分に行ったうえで、授業参加すること。

◆成績評価の方法◆

授業への参加意欲、課題への取り組み方、発表等を総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に指示する。

◆参考図書◆

授業時に指示する。

◆留意事項◆

受講者と先方の調整が済んだ場合は、幼稚園、小学校、特別支援学校等への見学を計画したい。

ナンバリング	MPL710N		
科目名	音楽教育指導演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

1) 様々な対象者(幼児、児童、生徒、障がいを持った人等)の音楽教育指導方法について具体的に学ぶ。2) 音楽教育における諸課題について検討する。

◆授業内容・計画◆

1. 授業の進め方(ガイダンス)
2. 障がいを持った人の音楽教育について
3. 対象者に応じた音楽指導方法の検討(幼稚園、保育所等を中心に)
4. 対象者に応じた音楽指導方法の検討(小学校)
5. 対象者に応じた音楽指導方法の検討(中学校)
6. 対象者に応じた音楽指導方法の検討(高校)
7. 音楽教育指導方法に関する文献の講読(幼稚園を中心に)
8. 音楽教育指導方法に関する文献の講読(小学校を中心に)
9. 音楽教育指導方法に関する文献の講読(中学校を中心に)
10. 音楽教育指導方法に関する文献の講読(その他)
11. 課題の発表
12. 音楽教育の指導法に関する今日的課題とは
13. 自分の研究テーマに即した対象者への音楽教育指導法立案
14. 各自の課題発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業時に提示される課題の準備を十分に行ったうえで、授業参加すること。

◆成績評価の方法◆

授業への参加意欲、課題への取り組み方、発表等を総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に、提示する。

◆参考図書◆

授業時に、提示する。

◆留意事項◆

受講者と先方の調整がいった場合、幼稚園、小学校、特別支援学校等への見学を計画している。

ナンバリング	MPL713U		
科目名	音楽教育研究法 I		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)音楽教育研究の対象, 研究分野及び研究方法について理解する。(2)音楽教育研究の現状と課題, 研究動向などについて理解する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス: 授業の内容とスケジュール確認
2. 音楽教育研究とは何か
3. 音楽教育研究の進め方(1) 課題意識とその具体化
4. 音楽教育研究の進め方(2) 研究の倫理
5. 音楽教育研究の手法(1) 量的研究と質的研究
6. 音楽教育研究の手法(2) 量的研究と質的研究
7. 音楽教育研究の手法(3) 歴史的研究
8. 音楽教育研究の手法(4) 民族誌的研究
9. 音楽教育研究の手法(5) 実験的研究
10. 音楽教育に関する現状と課題(1) 伝達性
11. 音楽教育に関する現状と課題(2) 妥当性
12. 優れた研究から学ぶ(1)
13. 優れた研究から学ぶ(2)
14. 優れた研究から学ぶ(3)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い, 資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み, 課題の発表, レポート課題の成果などを総合して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

◆参考図書◆

山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社. 中嶋 恒雄, 斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建帛社

◆留意事項◆

ナンバリング	MPL714U		
科目名	音楽教育研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)自分の研究課題のための研究方法を検討する。(2)修士論文の作成に必要な文献を収集・講読し、改題する。(3)互いの研究内容や研究方法を学び、自分の研究に生かす。

◆授業内容・計画◆

1. 自分の研究課題についての発表
2. 修士論文の構想と討議(1)先行研究のレビュー
3. 修士論文の構想と討議(2)独自性
4. 資料の収集と整理(1)図書館ガイダンス
5. 資料の収集と整理(2)文献検索
6. 資料の収集と整理(3)文献表の作成
7. 資料の収集と整理(4)文献表の検討
8. 関連する文献の講読と検討(1)要約発表
9. 関連する文献の講読と検討(2)要約発表
10. 研究構想図の作成と検討
11. 研究構想図の作成と検討
12. 研究構想及び研究の発表と討議(1)
13. 研究構想及び研究の発表と討議(2)
14. 研究構想及び研究の発表と討議(3)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだうえで授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表と成果などを総合して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

◆参考図書◆

山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社. 中嶋 恒雄, 斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建帛社

◆留意事項◆

ナンバリング	MPL715U		
科目名	音楽教育研究法Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	2年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)音楽教育研究の対象, 研究分野及び研究方法について理解する。(2)音楽教育研究の現状と課題, 研究動向などについて理解する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス: 授業の内容とスケジュール確認
2. 音楽教育研究とは何か
3. 音楽教育研究の進め方(1) 課題意識とその具体化
4. 音楽教育研究の進め方(2) 研究の倫理
5. 音楽教育研究の手法(1) 量的研究と質的研究
6. 音楽教育研究の手法(2) 量的研究と質的研究
7. 音楽教育研究の手法(3) 歴史的研究
8. 音楽教育研究の手法(4) 民族誌的研究
9. 音楽教育研究の手法(5) 実験的研究
10. 音楽教育に関する現状と課題(1) 伝達性
11. 音楽教育に関する現状と課題(2) 妥当性
12. 優れた研究から学ぶ(1)
13. 優れた研究から学ぶ(2)
14. 優れた研究から学ぶ(3)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い, 資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み, 課題の発表, レポート課題の成果などを総合して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

◆参考図書◆

山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社. 中嶋 恒雄, 斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建帛社

◆留意事項◆

ナンバリング	MPL716U		
科目名	音楽教育研究法IV		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)自分の研究課題のための研究方法を検討する。(2)修士論文の作成に必要な文献を収集・講読し、改題する。(3)互いの研究内容や研究方法を学び、自分の研究に生かす。

◆授業内容・計画◆

1. 自分の研究課題についての発表
2. 修士論文の構想と討議(1)先行研究のレビュー
3. 修士論文の構想と討議(2)独自性
4. 資料の収集と整理(1)図書館ガイダンス
5. 資料の収集と整理(2)文献検索
6. 資料の収集と整理(3)文献表の作成
7. 資料の収集と整理(4)文献表の検討
8. 関連する文献の講読と検討(1)要約発表
9. 関連する文献の講読と検討(2)要約発表
10. 研究構想図の作成と検討
11. 研究構想図の作成と検討
12. 研究構想及び研究の発表と討議(1)
13. 研究構想及び研究の発表と討議(2)
14. 研究構想及び研究の発表と討議(3)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだうえで授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表と成果などを総合して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

◆参考図書◆

山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社. 中嶋 恒雄, 斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建帛社

◆留意事項◆

ナンバリング	MPL721U		
科目名	学校教育指導論A		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1) 学習指導要領・音楽の目標や内容等について理解するとともに、教材研究や題材構成を自ら進めることができる。

◆授業内容・計画◆

1. 学校教育，並びに音楽科教育で育成を目指す資質・能力
2. 音楽科教育の現状と課題(1)－学習指導要領実施状況調査などをもとに－
3. 音楽科教育の現状と課題(2)－学習指導要領実施状況調査などをもとに－
4. 音楽科教育の現状と課題(3)－各種調査をもとに－
5. 学習指導要領の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い(1) 理念と全体構造
5. 学習指導要領の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い(2) 歌唱分野
4. 学習指導要領の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い(3) 器楽分野
5. 学習指導要領の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い(4) 音楽づくり・創作分野
6. 学習指導要領の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い(5) 鑑賞領域
7. 学習指導要領の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い(6) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
8. 学習指導要領の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い(6) 音楽の生活化など
9. 学習指導要領の趣旨を踏まえた教材研究(1)
10. 学習指導要領の趣旨を踏まえた教材研究(2)
11. 学習指導要領の趣旨を踏まえた教材研究(3)
12. 学習指導要領の趣旨を踏まえた題材構成(1)
13. 学習指導要領の趣旨を踏まえた題材構成(2)
14. 学習指導要領の趣旨を踏まえた題材構成(3)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い，資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み，課題の発表，レポート課題の成果などを総合して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

◆参考図書◆

文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』東洋館出版。 文部科学省『中学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社。

◆留意事項◆

ナンバリング	MPL722U		
科目名	学校教育指導論B		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- (1) 模擬授業や学習者の体験などを通して、音楽科の指導法について理解を深めるとともに、様々な発想で授業を構成することができる。
(2) 実際の授業のフィールドワークを通して、子供の学びを捉えることができる。

◆授業内容・計画◆

1. 音楽科で育成を目指す資質・能力と音楽の授業の構成
2. 様々な指導方法(1) ふしづくりのメソッド
3. 様々な指導方法(2) トニックソルファ
4. 様々な指導方法(3) 授業書的な手法
5. 様々な指導方法(4) 出力型の授業構成①
6. 様々な指導方法(5) 出力型の授業構成②
7. 様々な指導方法(6) 出力型の授業構成③
8. 教材研究と授業づくりの実際(1)
9. 教材研究の授業づくりの実際(2)
10. 模擬授業と討議(1)
11. 模擬授業と討議(2)
12. 授業のフィールド・ワーク(1)
13. 授業のフィールド・ワーク(2)
14. フィールド・ワークの検討
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポート課題の成果などを総合して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

◆参考図書◆

文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』東洋館出版。 文部科学省『中学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社。

◆留意事項◆

授業のフィールド・ワークについては、学校と受講者と日時を調整する。

ナンバリング	MPL723U		
科目名	音楽教育教材研究A		
科目詳細			
担当教員	山本 幸正		
学年		クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽教材研究に関する知識を整理し、教材研究の方法について理解するとともに、実際に多角的な教材研究を行うことができる。

◆授業内容・計画◆

- 1 オリエンテーション
- 2 西洋音楽教育史①古代・中世から近代へ
- 3 西洋音楽教育史②近代唱歌教育から第二次大戦まで
- 4 西洋音楽教育史③第二次大戦以降
- 5 日本の音楽教育史①日本の伝統的な音楽の伝授・伝承
- 6 日本の音楽教育史②伊澤修二と唱歌教育
- 7 日本の音楽教育史③大正自由教育と戦前の教育
- 8 日本の音楽教育史④戦後日本の音楽教育
- 9 教材研究の基礎知識
- 10 歌唱教材と教材研究
- 11 器楽教材と教材研究
- 12 創作教材と教材研究
- 13 鑑賞教材と教材研究
- 14 音楽教育史のまとめ
- 15 教材研究の基礎のまとめ

◆準備学習の内容◆

音楽教育史及び音楽教材研究についての課題についてレジュメを作成し提出する。

◆成績評価の方法◆

音楽教育史及び音楽教材研究についての口頭発表の状況、資料作成状況、教材研究のまとめのレポートにより、総合的に評価する。授業内で常に課題をフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時指定する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、評価規準・題材の目標の作成について、十分理解しておくこと。

ナンバリング	MPL724U		
科目名	音楽教育教材研究B		
科目詳細			
担当教員	山本 幸正		
学年		クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

実践的な教材研究について理解し、教育現場における教材研究の諸相について知るとともに、教材を開発することができる。

◆授業内容・計画◆

- 1 オリエンテーション
- 2 ピアノ初期教育の教材①幼児・児童の場合
- 3 ピアノ初期教育の教材②教職課程の場合
- 4 ピアノ初期教育の教材③シニアの場合
- 5 器楽と教材①アルトリコーダーの場合
- 6 器楽と教材②リコーダー・アンサンブルの場合
- 7 器楽と教材③打楽器アンサンブルの場合
- 8 鑑賞教材①管弦楽曲の場合
- 9 鑑賞教材②声楽曲の場合
- 10 鑑賞教材③諸民族の音楽の場合
- 11 鑑賞教材④近現代の音楽の場合
- 12 鑑賞教材⑤日本伝統音楽の場合
- 13 歌唱教材①長唄の場合
- 14 歌唱教材②民謡の場合
- 15 教材研究のまとめ

◆準備学習の内容◆

課題として出された教材の表現の練習、鑑賞の実施を行い、ディスカッションのためのレジюмеを作成する(ピアノ、器楽、鑑賞、歌唱の教材の中から研究したい教材について自ら演奏の練習、楽曲の聴取を行い、生徒の立場からワークシートへの記入を行って分析を行い、報告レポートを作成する。目安毎日60分)。

◆成績評価の方法◆

音楽教材研究についての口頭発表の状況、資料作成状況、教材研究のまとめのレポートにより、総合的に評価する。フィードバックについては、口頭による講評、ディスカッションの発言内容へのコメント、提出されたレポートへの添削を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『中学校音楽教科書』(2社8冊、平成28年度版)、『中学校学習指導要領解説(音楽)』、プリント資料

◆参考図書◆

随時紹介する。

◆留意事項◆

- 1 パソコンの操作及びパワーポイントのスライド作成ができるようにしておくこと。
- 2 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、評価規準・題材の目標の作成について、十分理解しておくこと。

ナンバリング	MWL701N		
科目名	音楽学演習 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 前期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL702N		
科目名	音楽学演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 後期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL703N		
科目名	音楽学演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 前期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL704N		
科目名	音楽学演習IV		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

修士論文を執筆し提出できる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 夏休みの成果の確認
- 2) プロスペクトへの準備(1) 目次の作成
- 3) プロスペクトへの準備(2) 発表内容の検討
- 4) プロスペクトへの準備(3) レジユメの作成
- 5) プロスペクトへの準備(4) 読み上げ原稿の作成
- 6) プロスペクトの総括
- 7) 論文執筆(1) 全体計画の確認
- 8) 論文執筆(2) 第1章の執筆
- 9) 論文執筆(3) 第2章の執筆
- 10) 論文執筆(4) 書式等について
- 11) 論文執筆(5) 第3章の執筆
- 12) 論文執筆(6) 第4章の執筆
- 13) 論文執筆(7) 文献表の作成
- 14) 論文執筆(8) 要旨の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL713U		
科目名	音楽学研究法 I		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献紹介1(修士課程1年生AとBの発表)
- 第3回 文献紹介2(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 文献紹介3(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 文献紹介4(学部3年生G、H、Iの発表)
- 第6回 文献紹介5(学部3年生J、K、Lの発表)
- 第7回 文献紹介6(学部3年生M、N、Oの発表)
- 第8回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)、期末レポート。
- ・期末レポート(コメントを付けて返却)
内容: 修士課程1年生は、自分が紹介した文献についてレポート形式にまとめる(3,000字以上)。
提出期限: 2018年7月27日(金)、17:00
提出先: 音楽学研究室(5-203)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MWL714U		
科目名	音楽学研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 教員発表1(教員Aの発表)
- 第2回 教員発表2(教員Bの発表)
- 第3回 卒論プロスペクト1(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 卒論プロスペクト1(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 教員発表3(教員Cの発表)
- 第6回 教員発表4(教員Dの発表)
- 第7回 教員発表5(教員Eの発表)
- 第8回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)、期末レポート。
- ・期末レポート(コメントを付けて返却)
内容:修士課程1年生は、学期中に聞いた発表の中で関心を持ったテーマに関し、その内容をまとめるとともに、そのテーマに関して自分なりに調べた結果を報告する(3,000字以上)
提出期限:2019年1月15日(火)、17:00
提出先:音楽学研究室(5-203)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MWL715U		
科目名	音楽学研究法Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献紹介1(修士課程1年生AとBの発表)
- 第3回 文献紹介2(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 文献紹介3(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 文献紹介4(学部3年生G、H、Iの発表)
- 第6回 文献紹介5(学部3年生J、K、Lの発表)
- 第7回 文献紹介6(学部3年生M、N、Oの発表)
- 第8回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)。
- ・期末レポート: 修士課程2年生についてはレポート課題はない。前期の内容をもとに指導教員と相談すること。
- ・文献紹介に対しては、教員や学生から質問や講評がある。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回到「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MWL716U		
科目名	音楽学研究法Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 教員発表1(教員Aの発表)
- 第2回 教員発表2(教員Bの発表)
- 第3回 卒論プロスペクト1(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 卒論プロスペクト1(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 教員発表3(教員Cの発表)
- 第6回 教員発表4(教員Dの発表)
- 第7回 教員発表5(教員Eの発表)
- 第8回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)。
- ・期末レポート:修士課程2年生についてはレポート課題はない。前期の内容をもとに指導教員と相談すること。
- ・指導教員から指導、講評がある。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MWL719U		
科目名	民族音楽学研究A		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれる場面は少なくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる新たな脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業の中で、そうした音楽や伝統を、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、何を目指していこうと考えて取り組んでいるのか、受講者は個々の事例と向き合いながら改めて捉えなおすことができる。

◆授業内容・計画◆

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言を聞き、現場の意識を知る機会をもちたい。受講生の希望を取り入れながら対象を選びたいが、以下のような内容を想定している。

- 1) 現代社会における音楽と芸能—問題の所在を探る
- 2) 音楽表現と民族性・地域性
- 3) 人々をつなぐ音楽表現①考察
- 4) 人々をつなぐ音楽表現②ディスカッション
- 5) 人々をつなぐ音楽表現③プレゼンテーション
- 6) 人々をつなぐ音楽表現④プレゼンテーション
- 7) 地域を表す音楽表現①考察
- 8) 地域を表す音楽表現②ディスカッション
- 9) 地域を表す音楽表現③プレゼンテーション
- 10) 地域を表す音楽表現④プレゼンテーション
- 11) 再生される音楽表現①考察
- 12) 再生される音楽表現②ディスカッション
- 13) 再生される音楽表現③プレゼンテーション
- 14) 再生される音楽表現④プレゼンテーション
- 15) まとめと補遺

◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の周りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

◆成績評価の方法◆

ディスカッション(参加度を勘案する)とプレゼンテーション、および学期末に課すレポートで評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

テーマに応じて適宜、指示する。

◆参考図書◆

テーマに応じて適宜、指示する。

◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。いうまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング	MWL721U		
科目名	西洋音楽史研究A		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽分析の歴史と方法(論)を理解して、分析叙述ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回: 音楽分析の歴史とは
 第2回: ムシカ・ポエティカ
 第3回: 修辞学と音楽形式
 第4回: 文法と旋律の分析
 第5回: 音楽批評と音楽分析の狭間で
 第6回: 音楽の生成理論
 第7回: 和声の分析: 根音バスから機能และ声へ
 第8回: 音楽の韻律と音楽の生成
 第9回: 心理学的音楽分析
 第10回: 様式分析と音楽史研究
 第11回: ソナタ形式をめぐる議論
 第12回: 音楽分析の理論的前提
 第13回: シャンカー分析について
 第14回: 音楽分析における機能概念
 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

前回の講義で学んだことを整理して、指定された楽曲を分析すること。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況とレポート。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一(編) キーワード150音楽通論(アルテスパブリッシング)、¥2200(税別)

◆参考図書◆

適時、指示する

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MWL725U		
科目名	日本音楽史研究A		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

明治生まれの邦楽曲を中心に、近代日本の音楽文化の生成過程をたどり、その多様性を理解する

◆授業内容・計画◆

近代以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。
2018年度前期は、本年が「明治150年」にあたることに因み、明治期に誕生した邦楽曲を中心に扱う。

- 1) オリエンテーション
- 2) 長唄《綱館》(1869)
- 3) 箏曲(明治新曲)《御国の誓》《嵯峨の秋》
- 4) 義太夫節《壺坂靈験記》(1879、1887改作)
- 5) 薩摩琵琶《城山》(1886)
- 6) 長唄《元禄風花見踊》(1878)
- 7) 常磐津《釣女》(1883、1901劇場初演)
- 8) 清元《隅田川》(1883)
- 9) 山田流箏曲《須磨の嵐》(1897頃)
- 10) 都山流尺八《岩清水》(1904)
- 11) 長唄《新曲浦島》(1906)
- 12) 宮城道雄《水の変態》(1909)
- 13) 受講生による発表(修士)
- 14) 受講生による発表(博士)
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

近代日本の音楽史に関する近年の研究成果にできるだけ目を通しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

◆留意事項◆

積極的な授業参加に期待する。

ナンバリング	MWL727U		
科目名	楽器学研究A		
科目詳細			
担当教員	中溝 一恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽活動にとって楽器は不可欠の存在とあって良い。楽器は人間の日々の営みと深く結びつき、社会における様々な局面で親しまれている。そして楽器の世界は驚くほど多様である。本講義においては、多様な世界を垣間見ることを通して、それらの楽器を研究するというのがどういふことか、概要を知ることがを目標とし、最終的には各種の楽器について論述する基礎的な視点を習得することを目指す。1. 楽器学について概要を理解する。2. 楽器に関する各種の研究手法を知り、適切な文献を利用することができる。3. 楽器学の用語と分析方法により楽器について論述できる。

◆授業内容・計画◆

授業目標を達成するために以下のように進行する予定。

1. 導入
2. 楽器学について知る①定義
3. 楽器学について知る②扱う範囲
4. 楽器学について知る③用語について
5. 楽器研究の歴史①ヨーロッパ
6. 楽器研究の歴史②ヨーロッパ近代
7. 楽器研究の歴史③東アジア
8. 楽器研究の歴史④その他の地域
9. 基本文献について
10. 楽器分類①概要
11. 楽器分類②種類
12. 楽器分類③課題
13. 楽器の体系を理解する①楽器分類との相違
14. 楽器の体系を理解する②課題
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各種辞典等文献を事前に読んでおくなどの準備が必要となる。
授業の内容によるが、レポートにまとめて報告を求めることもある。

◆成績評価の方法◆

通常の授業への取り組み方およびレポート等の課題により総合的に評価する。レポートについては講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜提示する。

◆留意事項◆

受講生の関心の内容によって授業内容は適宜変更する可能性がある。
いくつかのテーマに基づいて担当を決め、レポート発表を行うが、各自の関心の対象が多様であっても、共通する問題点や疑問、仮説が認識できるようにディスカッションを進める予定。

ナンバリング	MGL705N		
科目名	指導法		
科目詳細			
担当教員	古川 聡		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。

◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な法律等の規程とその意味について学ぶ。
主な内容は次の通り。

- 1)オリエンテーション
- 2)研究を始めるにあたって
- 3)研究者が守るべき倫理
- 4)研究題目に沿った図書館の活用
- 5)大学を巡る状況
- 6)大学教育と法律
- 7)大学の設置基準:大学認証評価とは
- 8)教員の業績評価
- 9)TAの心構えと役割
- 10)どのように学生を評価するか
- 11)ハラスメントを防止する
- 12)大学の諸規定
- 13)FDとは何か
- 14)障がいのある学生の支援
- 15)まとめとテスト

◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。
プレゼンテーションも課す。

◆成績評価の方法◆

授業内でのプレゼンテーション、課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。
毎時、コメントシートの提出を求めその内容に関してフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配付する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。

ナンバリング	MVS731N		
科目名	舞台表現技術演習(日舞)		
科目詳細			
担当教員	花柳 妙千鶴		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- 1、着物の着付け、礼儀作法、基本的所作を学ぶ。
- 2、日本舞踊の基本的な動作を習得することにより、舞台上での身体表現を、より自由に、より豊かにすることを目標とする。
- 3、日本舞踊の実習を通して、的確に役柄を表現する技術を学ぶ。
- 4、舞台の基礎知識と日本の伝統文化の基礎知識を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 1)授業の進め方。着物の名称、着付け、畳み方。挨拶の基本手順の説明と実習。扇の名称と扱い方。舞踊譜の書き方。
- 2)着物着付け。挨拶の実習。扇を使つての挨拶。基本動作(立つ、座る、歩く)の実習。作品習得1。着物の畳み方。
- 3)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習1。役柄による基本動作の実習1。作品習得2。着物の畳み方。
- 4)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習2。役柄による基本動作の実習2。作品習得3。 着物の畳み方。
- 5)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習3。作品習得4。着物の畳み方。舞踊譜の書き方。舞台機構の名称ときまり。
- 6)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習4。役柄による基本動作の実習2。作品習得5。
- 7)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習5。作品習得6。扇の種類と小道具のいろいろ。
- 8)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得7。お太鼓の結び方1。
- 9)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得8(振り移し終了)。お太鼓の結び方2。
- 10)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習6。作品習得9(完成度を高める)。
- 11)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習7。作品習得10(完成度を高める)。
- 12)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得11(個人指導も含む)。舞台衣装の扱い方1。舞踊譜の提出。
- 13)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得12(個人指導も含む)。舞台衣装の扱い方2。
- 14)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習。作品習得13。
- 15)作品発表。まとめ。

◆準備学習の内容◆

各自、初回授業までに

1)浴衣、2)半幅帯(飾り帯でないもの)、3)肌じゅばん、4)ステテコあるいはスパッツ、
5)足袋(靴のサイズより0.5センチ小さめ)6)腰ひも2~3本、7)腰に巻くタオル、8)風呂敷 9)ノート、10)筆記用具 11)稽古用扇子(初回授業時に購入も可能¥1000~¥2000位)以上を準備、持参のこと。

★準備出来ない物は、初回授業時に応相談。

なお、8回目授業以降、なるべく浴衣以外の着付けもしたいので、12)着物 13)お太鼓用帯
14)えり付きじゅばん 15)すそよけ 16)帯枕 17)帯板 18)帯締め 19)帯揚げ
を持参して下さい。貸し出しも可能。

◆成績評価の方法◆

提出物、実技試験により評価。
授業中に常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MSS717U		
科目名	チェンバロ演習		
科目詳細			
担当教員	大塚 直哉		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-005	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

チェンバロによるソロ作品、アンサンブル(通奏低音を含む)の実習を通じて、「ピアノ以前」の豊かな鍵盤奏法の伝統の一端を体験し、各自の引き出しを増やすことを目標とする。□

◆授業内容・計画◆

チェンバロによるバロック期の鍵盤作品(ソロ及びアンサンブル)の実習を中心とするが、可能な限りクラヴィコード、ポジティブオルガン、フォルテピアノなどほかの「クラヴィーア」に触れる時間も設けたい。

第1回: 導入、チェンバロの発音の仕組み、数字つき低音の基礎

～J.S.バッハ「小プレリュード」

第2回: チェンバロのタッチの基礎(当時の鍵盤導入教材から学べること)その1

～F.クーラン「プレリュード」、数字つき低音の基礎(続き)

第3回: チェンバロのタッチの基礎(当時の鍵盤導入教材から学べること)その2

～J.S.バッハ「インヴェンション」、数字つき低音の基礎(続き)

第4回: アンサンブルにおけるチェンバロ～通奏低音の基本を理解する～

～カッチーニ「アマリリ」ほか

第5回: 第1～4回の復習

第6回: 舞曲を弾くその1 ～クリーガー「メヌエット」ほか

第7回: 舞曲を弾くその2 ～J.S.バッハの組曲から

第8回: 舞曲を弾くその3 ～まとめ～

第9回: レチタティーヴォを弾いてみようその1 ～ヘンデル《メサイア》から

第10回: レチタティーヴォを弾いてみようその2 ～ヘンデル「たった1日で」(《エジプトのジュリアス・シーザー》から)

第11回: 第6～10回の復習

第12回: 17～18世紀のクラヴィーア音楽を概観する(ポジティブオルガン、クラヴィコードなどの体験を含む)

第13回: 試験に向けた確認レッスン

第14回: 数字つき低音の初見、ソロ曲の試験

第15回: ミニコンサート、まとめ□

◆準備学習の内容◆

必ずチェンバロでの十分な練習時間を確保して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と試験、ミニコンサートでの演奏を加味して評価する。また各回のレッスンでのコメントのほかに、ミニコンサートの演奏についての各自への講評の時間を設ける。

◆教科書(使用テキスト)◆

大塚直哉編『クラヴィス』(現代ギター社)

◆参考図書◆

渡邊順生「チェンバロ・フォルテピアノ」(東京書籍)□

◆留意事項◆

ナンバリング	DDS701N		
科目名	研究指導 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

研究の成果についてコメントする。成績は、積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS702N		
科目名	研究指導Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

研究の成果についてコメントする。成績は、積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS703N		
科目名	研究指導Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS704N		
科目名	研究指導IV		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS705N		
科目名	研究指導V		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。

ナンバリング	DDS706N		
科目名	研究指導VI		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。

ナンバリング	DDL707N		
科目名	特別総合演習 I		
科目詳細			
担当教員	友利 修, 吉成 順, 横井 雅子, 沼口 隆, 久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、適切な研究発表ができる。(2)教員を含む参加者全体によるディスカッションを通して、個々の発表内容や発表方法について客観的に評価できる。

◆授業内容・計画◆

- ・授業は隔週に設定されます。
- ・授業は原則として学生および研究生による研究発表とディスカッションです。
- ・博士課程の学生は全員、毎回出席すること。
- ・研究生の学生も全員、毎回出席すること。
- ・博士論文提出予定者はプレ発表の予行も行います。

- 第1回 ガイダンスと発表予定の決定
 第2回 学位授与者の研究発表
 第3回 個々の中間発表とディスカッション(1)
 第4回 個々の中間発表とディスカッション(2)
 第5回 個々の中間発表とディスカッション(3)
 第6回 博士論文提出予定者はプレ発表の予行
 第7回 個々の中間発表とディスカッション(4)

◆準備学習の内容◆

各自、発表に向けて研究し、資料作成を行う。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表内容。課題は授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

初回に全員が顔合わせを行い、年間日程等の打ち合わせを行います。
 日程や担当者・発表内容については5号館入口や音楽学研究室の掲示を参照してください。
 他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてください。

ナンバリング	DDL708N		
科目名	特別総合演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	友利 修, 吉成 順, 横井 雅子, 沼口 隆, 久保田 慶一		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、適切な研究発表ができる。(2)教員を含む参加者全体によるディスカッションを通して、個々の発表内容や発表方法について客観的に評価できる。

◆授業内容・計画◆

- ・授業は隔週に設定されます。
- ・授業は原則として学生および研究生による研究発表とディスカッションです。
- ・博士課程の学生は全員、毎回出席すること。
- ・研究生の学生も全員、毎回出席すること。
- ・博士論文提出予定者はプレ発表の予行も行います。

- 第1回 個々の中間発表とディスカッション(1)
 第2回 個々の中間発表とディスカッション(2)
 第3回 個々の中間発表とディスカッション(3)
 第4回 個々の中間発表とディスカッション(4)
 第5回 個々の中間発表とディスカッション(5)
 第6回 個々の中間発表とディスカッション(6)
 第7回 個々の中間発表とディスカッション(7)

◆準備学習の内容◆

各自、発表に向けて研究し、資料作成を行う。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表内容。課題は授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

日程や担当者・発表内容については5号館入口や音楽学研究室の掲示を参照してください。他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてください。

ナンバリング	DDL713N		
科目名	器楽領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 器楽研究領域に関わる作品研究①/時代別無伴奏作品(古典)
- 第3回 器楽研究領域に関わる作品研究②/時代別無伴奏作品(近代)
- 第4回 器楽研究領域に関わる作品研究③/時代別無伴奏作品(現代)
- 第5回 器楽研究領域に関わる作品研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)
- 第6回 器楽研究領域に関わる作品研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)
- 第7回 器楽研究領域に関わる作品研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)
- 第8回 器楽研究領域に関わる作品研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)
- 第9回 器楽研究領域に関わる作品研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)
- 第10回 器楽研究領域に関わる作品研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)
- 第11回 器楽研究領域に関わる作品研究⑩/時代別室内楽作品(古典)
- 第12回 器楽研究領域に関わる作品研究⑪/時代別室内楽作品(近代)
- 第13回 器楽研究領域に関わる作品研究⑫/時代別室内楽作品(現代)
- 第14回 まとめ①/無伴奏作品及び室内楽作品
- 第15回 まとめ②/ピアノ伴奏作品及び協奏曲作品

◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL714N		
科目名	器楽領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究①/時代別無伴奏作品(古典)
- 第3回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究②/時代別無伴奏作品(近代)
- 第4回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究③/時代別無伴奏作品(現代)
- 第5回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)
- 第6回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)
- 第7回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)
- 第8回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)
- 第9回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)
- 第10回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)
- 第11回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑩/時代別室内楽作品(古典)
- 第12回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑪/時代別室内楽作品(近代)
- 第13回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑫/時代別室内楽作品(現代)
- 第14回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション①
- 第15回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション②

◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL715N		
科目名	器楽領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 器楽研究領域に関わる作品研究①/時代別無伴奏作品(古典)
- 第3回 器楽研究領域に関わる作品研究②/時代別無伴奏作品(近代)
- 第4回 器楽研究領域に関わる作品研究③/時代別無伴奏作品(現代)
- 第5回 器楽研究領域に関わる作品研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)
- 第6回 器楽研究領域に関わる作品研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)
- 第7回 器楽研究領域に関わる作品研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)
- 第8回 器楽研究領域に関わる作品研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)
- 第9回 器楽研究領域に関わる作品研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)
- 第10回 器楽研究領域に関わる作品研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)
- 第11回 器楽研究領域に関わる作品研究⑩/時代別室内楽作品(古典)
- 第12回 器楽研究領域に関わる作品研究⑪/時代別室内楽作品(近代)
- 第13回 器楽研究領域に関わる作品研究⑫/時代別室内楽作品(現代)
- 第14回 まとめ①/無伴奏作品及び室内楽作品
- 第15回 まとめ②/ピアノ伴奏作品及び協奏曲作品

◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL716N		
科目名	器楽領域研究Ⅳ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究①/時代別無伴奏作品(古典)
- 第3回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究②/時代別無伴奏作品(近代)
- 第4回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究③/時代別無伴奏作品(現代)
- 第5回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)
- 第6回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)
- 第7回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)
- 第8回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)
- 第9回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)
- 第10回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)
- 第11回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑩/時代別室内楽作品(古典)
- 第12回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑪/時代別室内楽作品(近代)
- 第13回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑫/時代別室内楽作品(現代)
- 第14回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション①
- 第15回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション②

◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL717N		
科目名	創作領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL718N		
科目名	創作領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL719N		
科目名	創作領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	川島 素晴		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。

◆授業内容・計画◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。とりわけ、ヨーロッパにおける現代音楽作品を中心とした研究を深め、音色のネットワークに基づく創作の方法論について、独自なものを開発、実践する。

- 1)オリエンテーション
- 2)細川俊夫の音楽について研究する。(1)
- 3)細川俊夫の音楽について研究する。(2)
- 4)細川俊夫のレクチャーを踏まえた研究・創作の実践を行う。
- 5)ドイツ語圏におけるアジアの作曲家の系譜について研究する。
- 6)それらの語法の自作品への応用と独自なアプローチの探求を行う。
- 7)陳銀淑の音楽について研究する。(1)
- 8)陳銀淑の音楽について研究する。(2)
- 9)陳銀淑の来日公演を踏まえた研究・創作の実践を行う。
- 10)ヨーロッパにおけるアジアの作曲家の系譜について研究する。
- 11)一流演奏家と一流作曲家を両立させる音楽家の系譜について研究する。
- 12)イェルク・ヴァイトマンの音楽について研究する。(1)
- 13)イェルク・ヴァイトマンの音楽について研究する。(2)
- 14)まとめと、夏季休暇における課題の確認。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆成績評価の方法◆

授業内での取り組み。
授業内での分析、考察等や、期末レポートについては、随時授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL720N		
科目名	創作領域研究Ⅳ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	川島 素晴		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。

◆授業内容・計画◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。とりわけ、ヨーロッパにおける現代音楽作品を中心とした研究を深め、独自の視点に基づく創作の方法論について、独自のものを開発、実践する。

- 1)ドイツ留学から帰国した学生によるドイツの現状についての報告。
- 2)イェルク・ヴィトマンのレクチャーを踏まえた研究・創作の実践を行う。
- 3)アペルギスの音楽について研究する。(1)
- 4)アペルギスの音楽について研究する。(2)
- 5)シュトックハウゼンのムジークテアターの実践について研究する。(1)
- 6)シュトックハウゼンのムジークテアターの実践について研究する。(2)
- 7)ティエリー・デ・メイにおけるダンスと音楽の関係について研究する。(1)
- 8)ティエリー・デ・メイにおけるダンスと音楽の関係について研究する。(2)
- 9)ラッヘンマンの音楽について研究する。(1)
- 10)ラッヘンマンの音楽について研究する。(2)
- 11)これまでの研究を踏まえた自作品への応用について研究する。(1)
- 12)これまでの研究を踏まえた自作品への応用について研究する。(2)
- 13)これまでの研究を踏まえた自作品への応用について研究する。(3)
- 14)まとめと、冬期休暇における課題の確認。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆成績評価の方法◆

授業内での取り組み。

授業内での分析、考察等や、期末レポートについては、随時授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL721N		
科目名	音楽学領域研究 I		
科目詳細			
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.

各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL722N		
科目名	音楽学領域研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.

各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL723N		
科目名	音楽学領域研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.
各自のテーマについて研究した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究内容の取り組み方から総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

資料調査、実地調査などのデータの整理・蓄積をこまめに行い、それらが論文のどこに反映されるのかを意識してほしい。併せて外部への発表などの機会も意識しつつ取り組むこと。

ナンバリング	DDL724N		
科目名	音楽学領域研究IV		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

□ ~15.

各自のテーマについて研究した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究内容の取り組み方から総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	DDL729N		
科目名	音楽理論特講A		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

博士課程レベルでの西洋音楽における和声法の歴史の変遷を、博士論文の準備段階として言語的に総括できる水準に至らしめる

◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的なアプローチの方法を考察していく。

1. 授業ガイダンス
2. 和声法の歴史(概論)
3. 和声法の著作の歴史的概観
4. 通奏低音法について
5. 通奏低音の実施(バロック様式)
6. 通奏低音の実施(古典派様式)
7. 通奏低音の実施(ロマン派様式)
8. フランス和声について(概論)
9. フランス和声の実践(シャラン)
10. フランス和声の実践(フォーシェ)
11. フランス和声の実践(ギャロン)
12. フランス和声の実践(ビッチュ)
13. バッハの和声様式 (バス課題)
14. バッハの和声様式 (ソプラノ課題)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

準備学習: 学部で学んできた和声法課題実施の復習

予習: 各回で取り上げられる内容について関連のある項目を教科書を用いて予め読んで、記憶し、課題を実施しておく。(50分)

復習: 授業で学んだ内容について不十分な点があれば、再度ノートを見直して、内容を覚える。

また、課題を再度実施して上達度を確認する。(50分)

◆成績評価の方法◆

西洋音楽の和声法の歴史の変遷から考察した小論文試験と研究発表による。
随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『新しい和声』林達也著 アルテスパブリッシング社 及びプリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	DDL730N		
科目名	音楽理論特講B		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

博士課程レベルでの西洋音楽における和声法の歴史の変遷を、博士論文の準備段階として言語的に総括できる水準に至らしめる

◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的アプローチの方法を考察していく。特に後期は各々の論文と関係づけられた作曲家と作品についての研究もおこなう。

1. モーツァルトの和声様式『概論』
2. モーツァルトの和声様式『バス課題』の実習
3. モーツァルトの和声様式『ソプラノ課題』の実習
4. シューマンの和声様式『概論』
5. シューマンの和声様式『ソプラノ課題』の実習
6. シューマンの和声様式『作品分析』
7. ヴァーグナーの和声様式『概論』
8. ヴァーグナーの和声様式『作品分析』
9. ヴァーグナーの和声様式『ソプラノ課題』実習
10. フォーレの和声様式『概論』
11. フォーレの和声様式『作品分析』
12. フォーレの和声様式『ソプラノ課題』の実習
13. ドビュシーの和声様式『概論』
14. ラヴェルの和声様式『概論』
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

準備学習: 前期で学んだ様式を含む和声法課題実施の復習

予習: 各回で取り上げられる項目について、作曲家及び主要作品などを予め調べておく。また、あらかじめ作品のアナリゼをしておく。(50分)

復習: 授業で学んだ内容について不十分な点があればノートなどを再度読み直して覚える。また、授業で行った課題を再度実施し、上達度を自己確認する。(50分)

◆成績評価の方法◆

西洋音楽の和声法の歴史の変遷から考察した小論文試験と研究発表による。
随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『新しい和声』林達也 著 アルテスパブリッシング社及びプリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	DDL733N		
科目名	西洋音楽史特講A		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽分析の歴史と方法(論)を理解して、分析叙述ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回:音楽分析の歴史とは
第2回:ムシカ・ポエティカ
第3回:修辞学と音楽形式
第4回:文法と旋律の分析
第5回:音楽批評と音楽分析の狭間で
第6回:音楽の生成理論
第7回:和声の分析:根音バスから機能และ声へ
第8回:音楽の韻律と音楽の生成
第9回:心理学的音楽分析
第10回:様式分析と音楽史研究
第11回:ソナタ形式をめぐる議論
第12回:音楽分析の理論的前提
第13回:シャンカー分析について
第14回:音楽分析における機能概念
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

前回の講義で学んだことを整理して、指定された楽曲を分析すること。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況とレポート。課題は授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一(編) キーワード150音楽通論(アルテスパブリッシング)、¥2200(税別)

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	DDL735N		
科目名	民族音楽学特講A		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれる場面は少なくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる新たな脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業の中で、そうした音楽や伝統を、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、何を目指していこうと考えて取り組んでいるのか、受講者は個々の事例と向き合いながら改めて捉えなおすことができる。

◆授業内容・計画◆

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言をきき、現場の意識を知る機会をもちたい。受講生の希望を取り入れながら対象を選びたいが、以下のような内容を想定している。

- 1) 現代社会における音楽と芸能—問題の所在を探る
- 2) 音楽表現と民族性・地域性
- 3) 人々をつなぐ音楽表現①考察
- 4) 人々をつなぐ音楽表現②ディスカッション
- 5) 人々をつなぐ音楽表現③プレゼンテーション
- 6) 人々をつなぐ音楽表現④プレゼンテーション
- 7) 地域を表す音楽表現①考察
- 8) 地域を表す音楽表現②ディスカッション
- 9) 地域を表す音楽表現③プレゼンテーション
- 10) 地域を表す音楽表現④プレゼンテーション
- 11) 再生される音楽表現①考察
- 12) 再生される音楽表現②ディスカッション
- 13) 再生される音楽表現③プレゼンテーション
- 14) 再生される音楽表現④プレゼンテーション
- 15) まとめと補遺

◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の周りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

◆成績評価の方法◆

ディスカッション(参加度を勘案する)とプレゼンテーション、および学期末に課すレポートで評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

テーマに応じて適宜、指示する。

◆参考図書◆

テーマに応じて適宜、指示する。

◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。いうまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング	DDL737N		
科目名	日本音楽史特講A		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

明治生まれの邦楽曲を中心に、近代日本の音楽文化の生成過程をたどり、その多様性を理解する

◆授業内容・計画◆

明治期以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。
2018年度前期は、本年が「明治150年」にあたることに因み、明治期に誕生した邦楽曲を中心に扱う。

- 1) オリエンテーション
- 2) 長唄《綱館》(1869)
- 3) 箏曲(明治新曲)《御国の誉》《嵯峨の秋》
- 4) 義太夫節《壺坂靈験記》(1879、1887改作)
- 5) 薩摩琵琶《城山》(1886)
- 6) 長唄《元禄風花見踊》(1878)
- 7) 常磐津《釣女》(1883、1901劇場初演)
- 8) 清元《隅田川》(1883)
- 9) 山田流箏曲《須磨の嵐》(1897頃)
- 10) 都山流尺八《岩清水》(1904)
- 11) 長唄《新曲浦島》(1906)
- 12) 宮城道雄《水の変態》(1909)
- 13) 受講生による発表1
- 14) 受講生による発表2
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

近現代日本の音楽史に関する近年の研究成果にできるだけ目を通しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

◆留意事項◆

積極的な授業参加に期待する。

ナンバリング	DDL741N		
科目名	教授法		
科目詳細			
担当教員	古川 聡		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。

◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な法律等の規程とその意味について学ぶ。
主な内容は次の通り。

- 1)オリエンテーション
- 2)研究を始めるにあたって
- 3)研究者が守るべき倫理
- 4)研究題目に沿った図書館の活用
- 5)大学を巡る状況
- 6)大学教育と法律
- 7)大学の設置基準:大学認証評価とは
- 8)教員の業績評価
- 9)TAの心構えと役割
- 10)どのように学生を評価するか
- 11)ハラスメントを防止する
- 12)大学の諸規定
- 13)FDとは何か
- 14)障がいのある学生の支援
- 15)まとめとテスト

◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。
プレゼンテーションも課す。

◆成績評価の方法◆

授業内でのプレゼンテーション、課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配付する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。